

525  
193

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

始



25.122

107



命革慶癸

著 治 宜 本 山



刊

ARS

大正  
13. 6. 28  
内交

525-193

# 戀愛革命 目次

## 戀愛篇

生物界に於ける多角關係……………三

結婚 三角關係 離婚……………三

生物學から見た處女性……………七

實物教授をしてくれた時代の犠牲者……………八

近代の男の抱く女性觀とヤドカリ……………九

婦人雜誌と猫……………一〇

## 生物學篇

世界將來の人口の「めのこさん」……………一〇

旭光照波の科擧……………一七  
生物學むた話……………三五

産兒制限篇

家庭制限策の進化(上)……………三  
家庭制限策の進化(下)……………一四  
性的隠蔽主義の爲に起る弊害の一例……………一五七

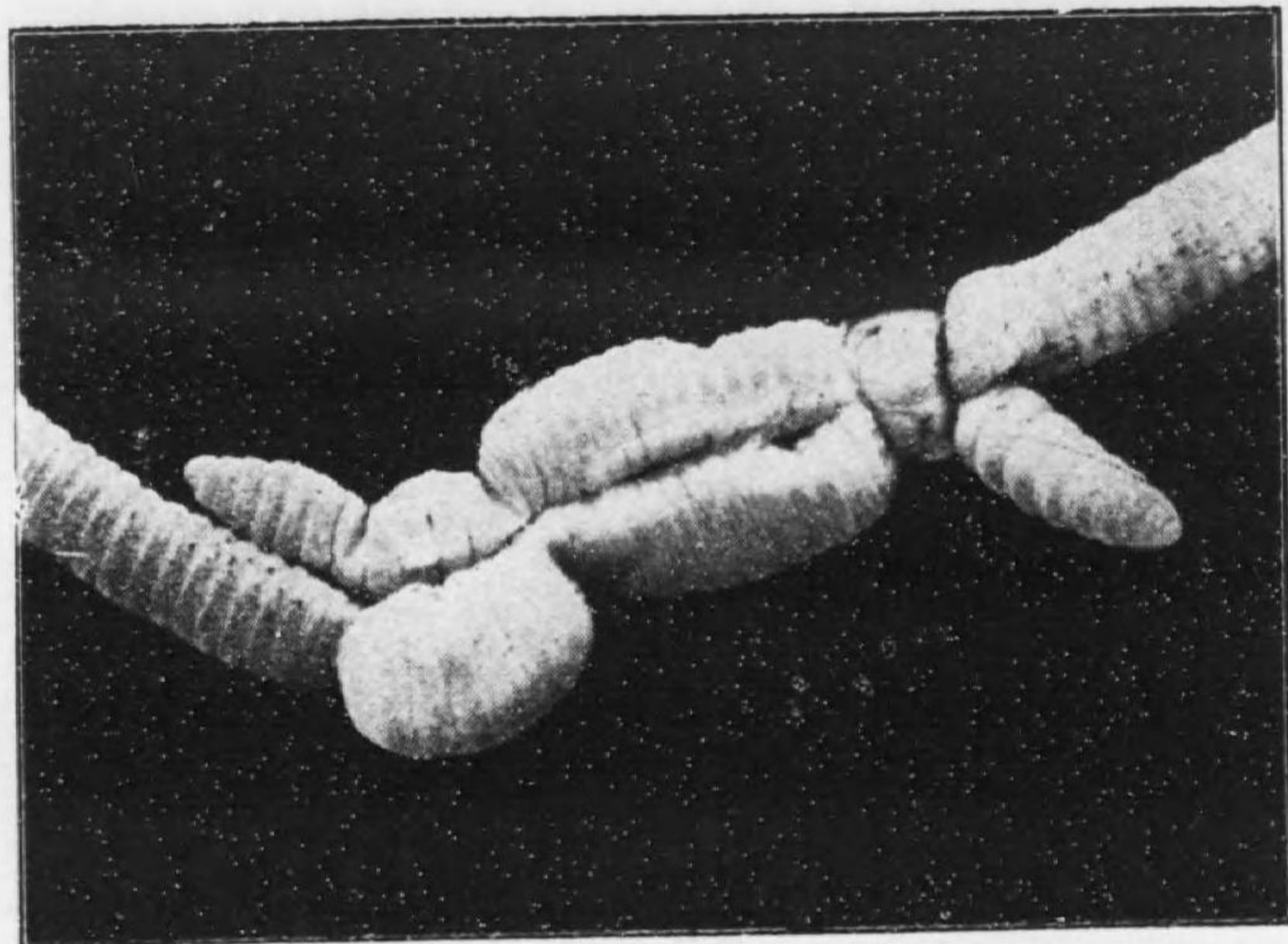
革命篇

卑怯無爲なる自稱智識階級……………一九  
受難 神風 危險思想……………一九四

跋

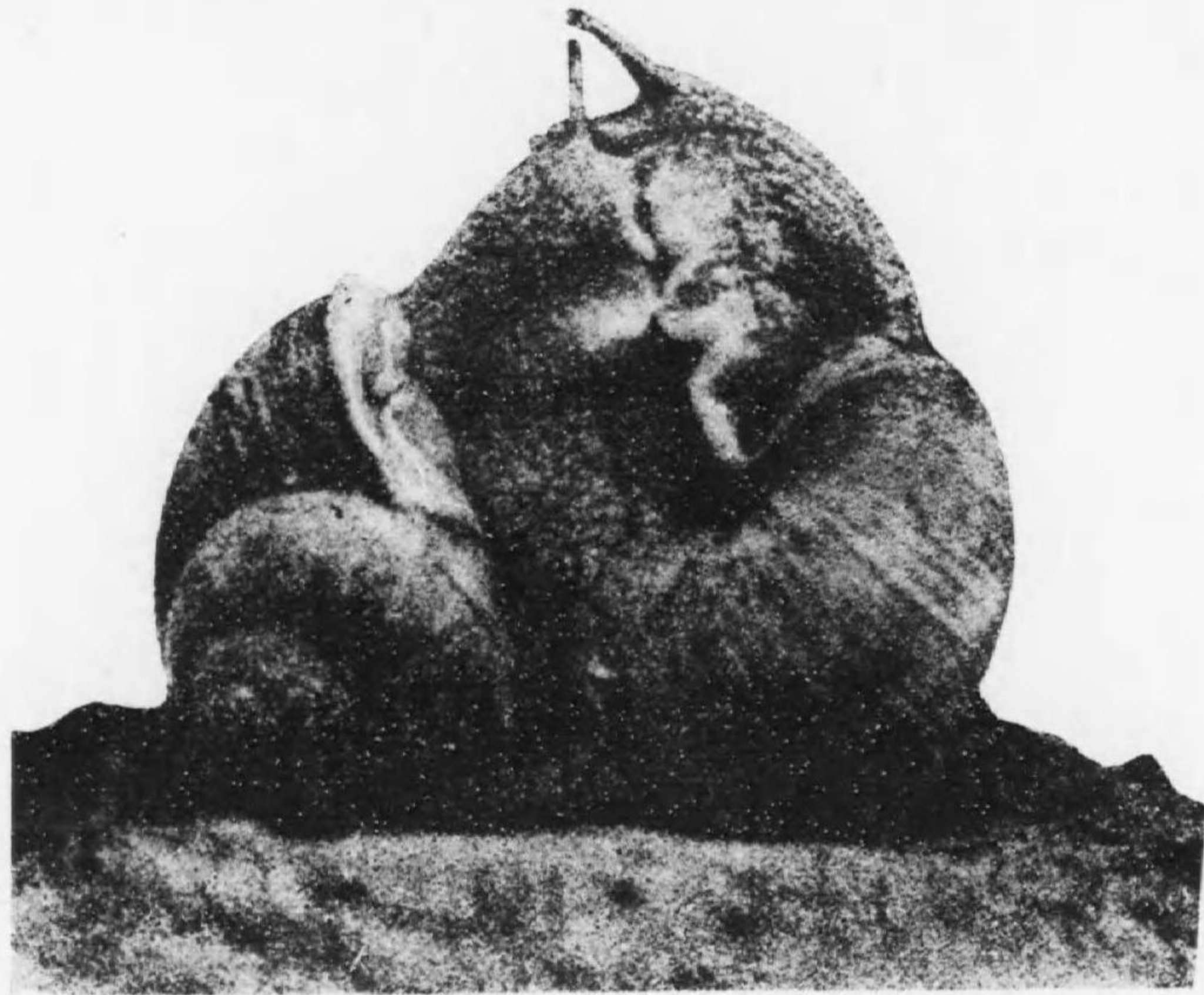
挿畫目次

第一圖 みみすの交尾……………卷頭  
第二圖 蝸牛の交尾……………卷頭  
第三圖 海水中の浮游微生物……………卷頭  
第四圖 たこの交尾……………一〇  
第五圖 くもの「求婚舞蹈」……………一八

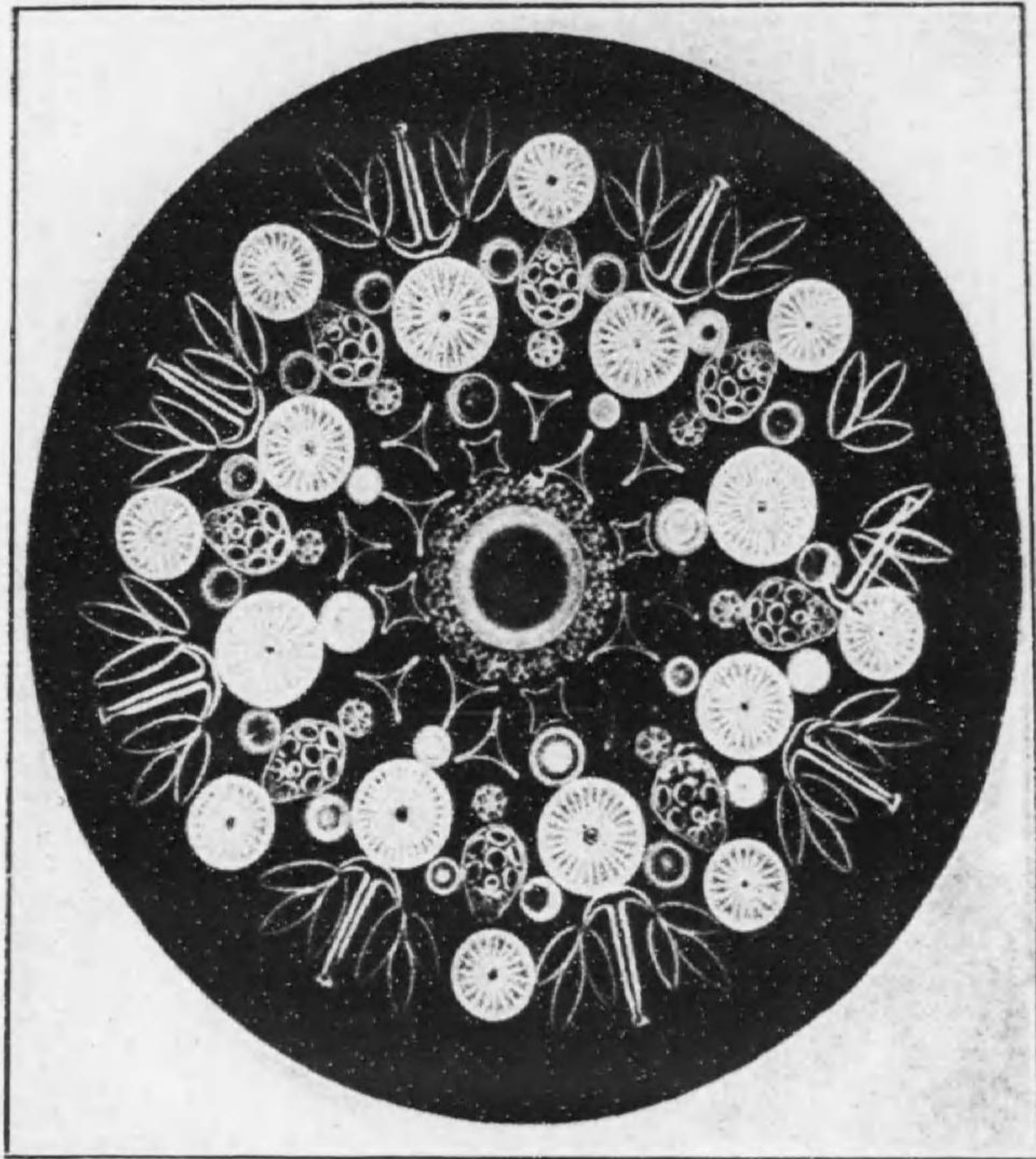


（圖原者著） 尾交のズ、ミ 圖一第  
照參頁七第 （係關角多の界物生）

五一・三・〇二九一  
影撮集探てに庭寓本山 町林川石小京東



尾交の牛蝸 圖二第  
AFTER MESENHEIMER  
照參頁九第 (係關角多の界物生)



物生微遊浮の中水海 圖三第  
藻硅の内の(ントクンラフ)

FRM W. BAGSHAW.

照參頁七一第 (學科の波照光旭)



戀愛革命

戀愛篇



### 生物界に於ける多角關係

生物の諸々の行動は我々人間の模範であるか



#### 生殖の多角關係

夏汐の引いたあとの磯邊を逍遙し、波に取残された水溜りや其に近い岩の上を漁ると、銀紙包のチヨコレイト位の大きさで、見下せば小判形な暗褐色の軟體動物が靜かに爬ひ廻つて居る。其の名前を形に因んでイソアワモチといふが、此動物が幾疋も頭尾接して列んで居る事を時に發見する。私の親友理學士東光治君は此の動物の専門研究者であるが、彼の智識を借りれば、其列を作つて居るのは交尾を行ふて居るのださうだ。

3

元來此動物は一疋の體内に精巢卵巢を兼た兩性腺を具へて居り、其中では精子卵子が雜居して

4 居るが、斯様に両性細胞が密に接觸してもまだ成熟して居ないから其時、自分の精子で自分の卵を受精させる事はない。通常は卵が熟すれば其周囲から一種の化學的物質を分泌し、其が周囲の液の中に擴がると、精子に運動の刺戟を與へて、精子が卵の方へ泳いで行くものらしく、斯様なものを生理學では陽性走化現象といふ、即或化學的物質の存する所を目掛けて薄い所から段々濃い所へ溯つて行くといふ意味である。若し反對に一方から遠ざかれば其際陰性走化性を具へて居ると云ふ。それでイソアワモチの體內で同居して居る卵と精子とは、互に未熟だから誘引物質が出来て居ないので陽性走化性がないのか、それとも態と同一個體内の受精を避ける作用のある反撥性物質があつて陰性走化性があるのか、それともどの走化性も無く唯互に超然冷然として路傍の精子路傍の卵と没交渉であるのか、此三つの場合のどれであらうか、其は東理學士の研究中の問題の一である。所で斯く同居して居る卵と精子はやがて別々の管に分かれて行き、別々の入口と出口を以て外界に對して居る。

扱話は前の交尾に戻る、今甲なるイソアワモチは精液を乙のイソアワモチの卵に注ぐ、乙は斯く自己の卵を受精せしめると同時に、一面に於て他の丙に精液を供給する、以下順を逐ふて斯の如く、順列のはて迄需給關係が繋がつて行く、若し諸君の眼下にある數多の此雌雄同體動物が一例

をなして居るならば、一端の個體は唯精子を他に與へる許りで自己の卵を受精させる爲に他から精子を求むべきやうもない。他の端にある個體は自己の卵に他から精子を受ける許りで精液は徒らに體內に貯へられて居る。之を見た倫理學者は一方は極端な利他他方は極端な利己に即した標本型、跡の多數は利己利他を一身に兼て居るのだと解釋もしやう。文學青年の或者は、其は「愛は惜み無く與ふ」と「愛は惜み無く奪ふ」姿だと無暗に感激もしやう、失戀を最近にしたらしい人は其無言の動物の列の爲翻つては又憐れなる自己の爲に一滴の涙を濺ぐ事もあらう。併しイソアワモチ共は別に「勝手にしやがれ」とも何共申さず、唯黙々と岩上を爬ひ廻つて居るのだ。

### 生殖の輪舞

5 今述べた様な縦に列んだ式のが、消費生産と交互に進んで行き、列の一端に生産専門の個體があり他端に消費専門の個體が居る。そして生殖物質の進み方が一方から他へ恰もリレー競争の如く及んで行き、遂に終點に於て止まる。所が其列が曲つて列の始めと終りとが接觸してそして其間にも交尾が始まる場合がある、よく觀察されるのは甲乙丙丁の四正が井字形に列んで居り、甲は乙に、乙は丙にと順に精子を與へ最終の丁が又最始の甲に精子を與へる事になる、其所で普通

の列式交尾では他から精子を受くる事も出来ぬ甲所有の卵も此時は受精する事が可能となり、此所に廻れど端無き生殖の輪舞が成立する。

所で輪舞といへば、シュニツラーの傑作を我々は思ひ出し易い、嘗ては燈の光明く輝いた維納の町の内外を舞臺として辻君は兵士に、兵士は下女に、下女は主人にと順次に仇し契に果敢ない束の間の歡樂に酔ふて居る場面であるか、其仇し契りはやがて紳士から又辻君へ終に廻り廻つて戻つて来る。人生萬事斯くの如しと人を厭ひ世を嘲り色戀を罵らんとする者は、今此大洋の汀に下り立つた時さへ、此イソアワモチの環を見て嘆息の叫を吐く事もあらう。併し聯想は自然であり、又其想像で人とイソアワモチと結び付けるのは其人の自由であるが、此二種の輪舞は根本から其性質を異にする。

如何となれば人は男か女かどちらかである（生物學上の雌雄異體）。イソアワモチの一疋は之に反して同時に雄であり雌である、即Bなる個體はAなる個體から精液を受け自己の卵を受精せしめると同時にCなる個體に精液を與へて其卵を受精せしめる（雌雄同體）。複数の参加者が順々に性的接觸をなす點は双方に共通だが、シュニツラーのそれは多くの接觸各々の起る時に前後があり同時に起るのでない、イソアワモチの生殖環が其役目を果すのは全體を通じて同時であり、種族

保存の目的から見て互惠的の宜しきに合ふて居る。然るに前者は理智情を具へた人間が行ふ遊戯性交であり、後者は吾人の所謂理知と全然没交渉に反射生活を送る下等動物の生殖性交である。だから今若し人生に果敢ない戀の獵人か此軟體動物の輪舞を見てひそかに會心の笑を漏す時、イソアワモチ若し理知あらば定めし苦笑するであらうと申したいが、斯様な考へは後に申す通り動物心理學上頗る時代錯誤的傾向を帯びて居るものだから、斷然撤回させる。

### 物々交換の様な相互生殖

イソアワモチでは需給關係が環全體となつて始めて完成する、列の場合に生殖物質は順に一方へ送られる許り、丁度マルクス資本論の一節に掲げられた「AハBニ等シ」といふ形の方程式の組合はせの如く、兎に角始め終りがある。經濟組織の進化に比較すれば割に高度の分化を遂げたものに相當するのだが、其より簡単な物々交換に相當する様な現象が矢張生物界にもある。

京都や東京の氣候では春三月ごみための落葉や葉の腐り掛けた下を搔探すと、二疋のミミズが體の一部に瘤の様な膨脹部を生じ癒著して一見單頭兩尾の様な形をして居るのを屢々發見する。其がミミズの交尾であるが、此動物も雌雄同體で各々自己生産の精子を他に與へ、各々對手より

精子を受けて自己の卵に受精させる。平生でもミミズを調べると、體の一部に少し膨脹して滑かになつた特別の帯が肉眼で見える、此部分が雌雄生殖器の存する所で同じ一疋の體内の前に精巢後に卵巢が具はつて居る。此帯に近い方の端に口があるから口端と名づけ、他の端を尾端と云へば、實際二つのミミズの一是口尾を東西に、他の一是口尾を西東に列べて相接近し、前に述べた帯状部分を以て互に接觸し互に組織を新に生ぜしめて、一時癒著合一したのが、其一見して單頭双尾の如く見えるものである。丁度位置が互違ひになつて居るから、一の卵巢は他の精巢に向ひあふ位置をとり、且又双方から膨れて出來た組織が精液を空費させぬ様にトユになつて居る。

此場合双方各々は同時に雌雄を兼て居て、恰も小供が辨當のお菜を取換るやうな按配に、他の個體の生殖物質を利用するのだが、生殖物質に關して自給經濟を行はずに惣々物々交換を行ふ仕掛に何故なつて居るのか、自家受精を行はず交互受精をせねばならぬのは何故か、深い理由もあるらしいが、其解釋は長くなるから唯今は差控へておく。(第一圖を見よ)

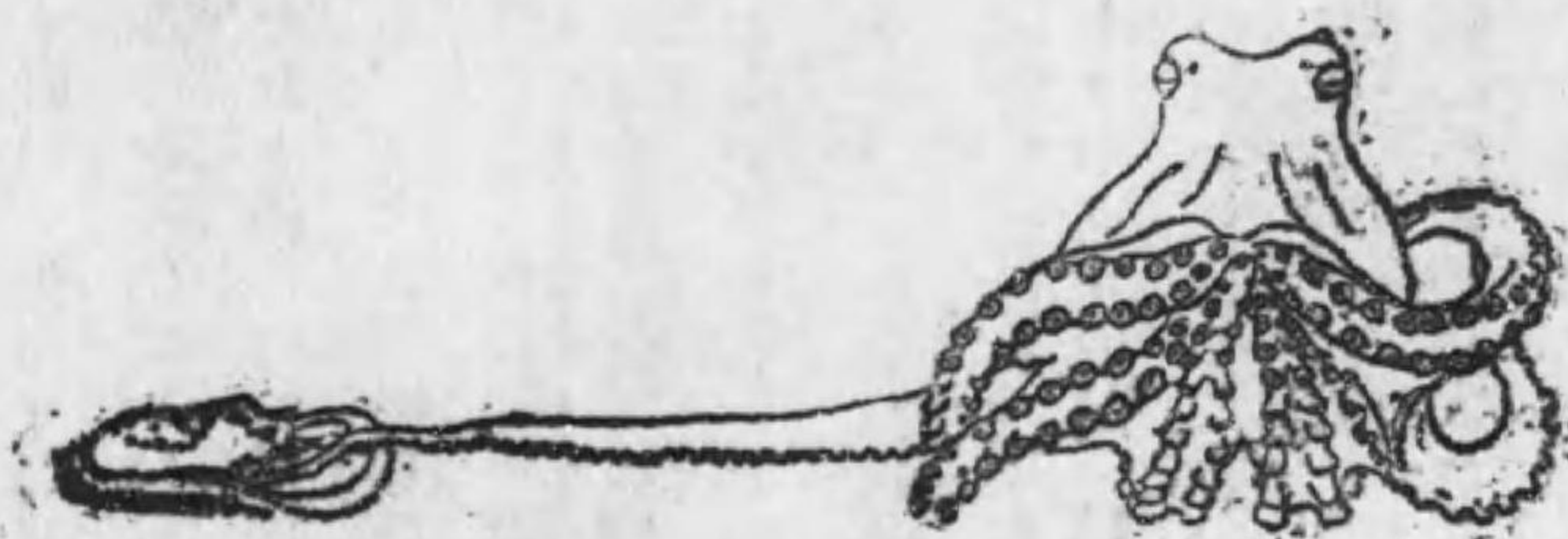
### 時を隔てた物々交換 (第二圖)

「蝸牛角振分けカキツツシホウ」カキツツシホウ其かたつむりの一疋が淡路に向ひ他が播磨に向ふた位置で相接して、

各々體の一側面を以て半ば接觸し、四本の觸角を角振分けよにも東、角振分けよ北南と動かして居るのを發見するならば、其は蝸牛の交尾である。此動物もミミズと同様に雌雄同體であるが、唯それと異なるのは雌雄生殖細胞の成熟に早晚があり、先にまづ精子が熟し後に卵子が熟するのだから、ミミズの様には双方各々が同時に雌雄として参加するのではない、つまり一方の者が先づ雄として他に精子を與へ其後時を隔てゝから又雌に代つて卵を受けるのかも知れぬ。さうすれば生殖物質に就ては物々交換と云ふよりも、寧ろ物資をまづ渡しておいてから後に必要な物を受取るといふ一種の信用制度にたとふべきものであらうか。

### 壯士が蛇をほり出す様な交尾

イカやタコの類の雄が生殖期に入ると其多い腕の一本の尖端が特別の形を呈し、其腕其自身も他の腕より長くなるので、之を化莖腕 *Ectocotylus* と呼んで居る。所で交尾となるとタコでは體の大きな雄が其長い化莖腕を水平に差延べて突出し、其端にぶら下がる様な位置にある小柄な雌の體の外套腔に入れると、やがて其化莖腕がちぎれて其腔内に居残る。之がイカやタコの生殖様式で歐州では水族館の水槽内でもよく見る事があるといふが、私はまだ實見しない。



第四圖 尾交のこた

所で今申した外套腔といふのは我々がタコ坊主をひっさける時に指をさし込む所なので、昔或動物学者が其所を解剖した所が當時未知の一種得態の知れぬ管形の寄生蟲らしいものが盛んに活躍して居るのを發見したので、之は新種の動物だと思ひ早速 *Hectocotylus argonautae* と命名し其特徴を記載して澄まし込んで居たのだが、何ぞはからん其は雄の取残しておいた化莖腕其物に過ぎなかつたのである。斯様な行掛りから、吾人は今でも其化莖腕を其當時種名であつたヘクトコチルスの名を以て呼んで居る次第である。淨瑠璃ならば。播州書寫山の稚兒後に武藏坊辨慶の青春ローマンス「つい暗りの……」の記念品たる片袖に比ぶべきものであらうが、此様な擬人的説明は餘り上品でない上に種々餘計な物が追加されるから感心しない、其上タコと武藏坊辨慶とをゴツタにすると辨慶に怒鳴りつけられさうだが、記誌に便利な様に否々ながら添へておく。

扱其離れて残された化莖腕は、首をチョン切つた蛇の通り、又進

け去つたトカゲの後に取残された尻尾の様に、暫時反射的に活躍して外套腔の中を動き廻るが、此腕には更に小さい精筈といふ筒が數多ついて居て、其筒の中には精子が充滿して居り一方にバネ仕掛で雌の體內に入つた時に此内容物を發射する様に仕掛けが出来て居るから、丁度敵の塹壕に向けて竿の先に縛り着けた爆彈をほり込んだ様な按配に、精子を外套腔内に蒔散してやがて完全に受精の目的が達せられる、自然淘汰と外界に對する適應とはいひ乍ら、面白い仕組になつて居るものだ。

### どんな心持で此様な活動をするのか

斯様な色々な性的結合の様式を述べたてれば、生殖學研究の割に幼稚な今日でも獨佛語の助けを借りさへすれば（品行方正なアングロサクソンの語たる英語では、月おくれ年おくれ半世紀おくれ七割引位の犠牲社會奉仕廉賣智識しか得られない）虎の巻は可成豊富だから、いくつでも讀賣りは出来るが、今度の所は限がないから此位でやめる。獨逸語を讀む方は新刊の MEISENER, J. (1921): *Geschlecht und Geschlechter im Tierreihe*, 1. Die Natürlichen Beziehungen. *Tena* を参照せられたい、字がよめなくても寫眞がドツサリある。

併しいつも生物學の門外者に質問される問題が残つて居る、といふのは、斯様な事を色々の形で行ふ其動物自身がどんな氣持で行ふかといふ問である。答は至つて簡單だ、曰くわからない、イソアワモチがずらりと列ぶのでも、ミミズの合體でも、マイマイの須磨明石でも、タコの爆彈投入にしても、一體全體どんな氣分でやるのか其御本尊になつて見なければわかりさうな答はない。進化論啓蒙の急先鋒たる大家ハクスレーは、さきに「蝦になつて見なければ蝦の心理はわかりっこない」と喝破した通りである。

研究を看板にしてわからないと許りではすむまいがなと突込まれても仕方がない。人間の心理で以て近い猿犬牛馬の心理を推測するさへ、危険無謀である實證があがつて居る、まして花咲く頃歌ふ鳥の氣分や春を迎へて鳴くかわづの心持がわかるか、更に之以上體制の根本から違ふエビ、カニ、タコ、マイマイ、イソアワモチさてはアメバの類に迄輕卒な臆測を試みるのは、唯今の所危険千萬である、此危険がわかつて遠慮し得るに至つたのが、最近の動物心理學進歩のおかげである。

### 人に擬した動物心理の解釋

然るに例へば大杉榮氏の才筆によつて紹介された佛蘭西の學者フアーブルの昆蟲生活の記事を見よ、人間味豊かな筆を以て甲蟲の求婚や戀愛事件を説明して居るではないか。白耳義の文豪マールリンクの蜜蜂生活の記事を見よ、返つて我朝當代に秀れた詩人北原白秋の雀の生活を讀め、此後の二者は文人であり専門學者でないから、幾分其説の價值を割引するにしても、大昆蟲學者フワーブルをいかにせん……。

と恐らく斯様な正面攻撃が來やうが、私も矢張興味を以て其等の著書を読む事は讀むが、誰が見ても間違ひの無い事實と、詩味に豊んだ想像力を自由に働かせて著者が勝手に下した解釋とを、混合しない様に、充分注意して其説に耳を貸す、そして人に擬へて面白い解釋を下し、甲蟲や蜜蜂や雀の氣分を當推量した所にぶつかると、成程詩人丈あつてかうも解釋がうまく下せるなあ、かうも見れば印象も深いし早合點も出来るわいと、割引し乍ら感心する次第である。

詩と科學とが極めて巧みに織込まれてある時、趣味からは其を全體として鑑賞するに躊躇しないが、其を科學的見地から見るとは、たいてい經と緯と分明に區別しなければならぬ。「花笑ひ鳥歌ふ」といふ様な擬人的解釋は、雷鳴に恐れ日蝕に慄く野蠻人や自轉車に突飛ばされた時其自轉車にかみつく犬などの原始的な萬衆有魂主義的態度とは同一視すべきものではあるまいか。科學智識に



なるべく誤解の生ずる事の無い様に、過剰の修飾を施すのは危険である。

### 人間至上と其反動氣分

西洋諸國で未だ進化論の公けにされなかつた前には、基督教會が何か無しに科學的智識も無く人間は萬物の靈長、獸畜は汚はしい者と許りにきめこんでおつたが、進化論の人猿同祖説發表此方の反動で生物學者がイコチになつて人間が猿犬馬と共通な點のみを摘まみ出すのに苦心した様な傾きがあり、人以外の動物が案外賢いと思はれる所許りが力説された、之は前に教會の強ひた盲目的人本主義を打破する爲の藥りが少し利き過ぎた様な觀があり、近頃の種々な動物心理の實驗で、賢いと思はれた動物も案外賢くない事もボツ／＼わかり始めて、一度傾き過ぎた秤が平衡しやがて科學的人本主義を建設しやうとして居る、現に生存する生物學者でも前世紀末の反動氣分の特性を有する人と、左様な惡戰苦闘の後のイコチな氣分をもたぬ近代の自由人とが、混合して居るのである。

### 先入第一 それから我田引水

人は人、獸は獸、成程共通の點は認めるが、人獸無差別に動物心理を人間心理の寸法で測らうとするのは愚である事は前に述べたが、今度は其と反對に動物生活の或るものを模範として、我等人間の生活を律しやうといふ試みの事である。此傾向は前の擬人的解釋を不當に普遍化したのと反對に、特殊の位置に位する人間の生活に擬獸的解釋を下さんとするのである。

古來鳩に三枝の禮烏に反哺の孝ありといひ、鳩や烏が我々に孝行の徳を教ふる教師とした。そして其外に因襲道德に背く行だと大抵獸行だとけなし附けた反面もあるが、絶対にあらゆる動物の行動は吾人人間の模範だと考へたのではないのは、特に其當時の道德にあてはまりさうに當時の人が考へた例のみを撰んだ事を見てもわかる。併し誰でも自分の人生觀に共鳴する者に逢ふと嬉しがる。自分の宇宙觀を裏書する様な現象を發見すると、大に心強く思ふのは人情の然らしむる所だ。つまり始めに自分の考がチャンと定まつて居て、其から役に立ちさうな材料を集めて來て之にコジツケ理屈をつけるのだから。一寸體裁丈は辻褃が合ふといふウラクリ。其種を明かせば至極簡單である。

### 辻占と豊富な材料

所で自然界で其材料を探す段になれば、此の多種多様の生物界でお好みのものは撰み放題、西洋諸國の風俗の一に、今日を嘆つてムニャ〜云ひ乍ら卓上の聖書を出鱈目に開いて、ぶつかつた其頁の第一行で自分の抱いて居る問題に對する答案だとする、之は御神籤の様に吉とか凶とか待人來るとか思ひ事叶ふといふ風に明瞭具體的でないから、其文句が文學的であればある丈臆闕として、どうとでも自分のすきな方へこたつける事が出来る。四辻に立つて始めて會ふた人の風體や語り合ふて居る語から自己の運命を卜するといふ辻占も此の類で、大抵其與ふる答案は始めから心の中にきめてある。聖書の文句で禁酒を主張しやうと試みる人が居るかと思ふと、他の人は又同じ聖書の他の文句を引用して飲酒宣傳を試みる事も出来る。辻占に限らず、聖書に限らず、何でも皆此の調子で行ける。

だから生物界の諸現象に對してもすきな物を勝手に取出す事が出来る、例へば人間の性的關係に就て亂交状態を是認したいといふなら、一寸の早合點文で前のイソアワモチの様な生殖輪舞を例にとつて、生物學者の教ふる所によれば「〜だ、動物に於て然り、況んや人間に於てをや」

と来る。往年自然主義全盛の頃其を履き違へた文學青年が遊蕩耽溺の生活に陥つたのは、理性をもたぬ獸が本能の爲に引ずり廻されて居るのを見て、其例を我々人間に適用し、此所で又「動物に於て既に然り、況んや人間に於ておや」と考へ誤まつたのに幾分其原因があつた。

### 文字通りの男殺し

今此所に兩性鬭争の意識と男恨めしの鬱憤とを抱いて、何でも男といふ馬鹿者が近寄つて來たら取つて食はうと考へて居る恐ろしい女性が居ると假定して、彼女が悦びさうな一例を述べて見やう。

蜘蛛類の雄は、其の雌の近く居る事を第二の肢、即顎鬚顎鬚に具はる嗅覺で知るのらしく、此對を切取れば最早交尾も出來ぬし、其傍に雌が居ても一向知らぬ顔である。或種類では其前肢を振上げて雄は雌の廻りをグル〜廻り歩き、時には異様の興奮を以て虚空に飛上つたりする、之が交尾をするすぐ前の藝當であるから「求婚の舞踏」と名づけてあるが、之も亦蜘蛛自身になつて見なければ、どんな積りでやつて居るのか、わかりさうな筈がない。

更に其中の避日類といふ部類の或者では、雄が雌に接近した上で、自分の生産した精液の團子



第五圖 『求婚舞踏』のらくも

になつた塊を第一肢即鉗角といふので取上げ、不用意な雌の隙をねらふて、其生殖門に矢庭にほり込み早速雲を霞と後を見ずに逃げてしまふ。此際雄がグズ／＼して居ると氣が荒くなつた雌の爲に取つて食はれる、無論いつでも吃度食はれるとは限らないが、兎に角此動物の雄にとつて生殖は命がけの一冒險である。

人間の戀愛葛藤にしても時としては一種の雌雄闘争であり、互に隙をねらふて相手を取つて食はうといふ恐ろしい場合も起るが、何も蜘蛛の眞似をして迄グズ雄を取つて食はねばならぬといふ様な必要もあるまい。

### 例くさくさと結論

鶴や鳩やが一夫一婦の關係を嚴に維持して居て、頗る感心なものだと宣傳せられて居るが、鶴はいざ知らず鳩の貞

節に至つては可成其誇張を割引しなければならぬ節々を發見する。其外鷺鷥の例といひ色々話もあるが、所謂逸話は神社の縁起や國自慢の名勝記を賑はす丈で我々の科學のたしにはならぬ。

動物に模範をとりさへすればよいのなら、好色な男は海豹や獺虎の多妻生活を引用して云譯もしやう、鶏を飼ふ算盤つくから雄一羽に雌幾羽といふ風な比例を楯にこちつけもしやう、併し人は人であり、海豹や獺虎や鶏でないのだ。

蜜蜂の巢で一の女王の下に若干少數の種取りの雄蜂が居る、其外に勞務に服する無性の（本來は雌なのだ）働蜂が多數活動して居る、生殖の任を専ら引受けて居る女王の體內に一度入れば可成永く精蟲は貯へられて居るから、世智辛い冬が來やうとすれば殻潰しの種取りには最早用がないと許りに、其何正かの雄蜂を刺殺してしまふ、又春が來れば必要になつた時自家製の種取蜂が出来るから種族保存には差支ない、之を人間社會に考へ直して見れば、不景氣になつたら役に立、ぬ下級月給取を減首したり、工場を閉鎖して憐れな勞働者を餓死させたりするのに似て居るから、人道に悖ると世話焼の人なら蜜蜂社會に抗議を提出しもしやう、併し蜜蜂の方が斯様な習慣を取るのは環境に相當して居る現象なのだから、よし「人道」には悖つても我々の「蜂道」には決して悖らぬといふて、氣の早い蜜蜂なんかはいらぬ餘計なおせっかいより自分の頭の上の蠅を拂ふ

たがい、とブンブン怒り出しさうな氣もするが、世に賢いと稱せられて居る蜜蜂でも其心的生活の内容に入つて一々調べると、我々の理性の様なもの痕跡もなく唯一種の反射作用許りなので、そんな理屈を考へさうな筈がないから、一安心する。

要する所、動物は動物、人は人、彼等の生活は何とあつても、参考にはなるが、我等の人間生活の模範とすべきものでない。所で人の性生活は之等の参考とすべき事實を基礎として、如何にあるべきものか、之は近く他の機會に充分述べさして貰はう。

一九二二・一〇・一しるす  
女性改造一九二三年新年號所載

## 結婚 三角關係 離婚

### 一青年生物學者の考へ

人類以外の動物は今日ある事を感じる許りで明日ある事を知らず、唯本能の導くがまゝに生殖の事を行ひ種族保存の實を全うして居る。理知を具へて生まれ出た我々人間は之に反して理想に憧がれ將來を思ひ子孫の事を慮つて居り、雜駭で纏まりの附け難い諸種の本能を整理し之を統御しやうと試みて努力精進をして居る。即豚や牛馬に罪を犯し得る自由意志が無いと共に、有徳なる猿も居ない、一方に於て人は罪を犯し得る自由を有すると共に、進んで、有徳の人たり得るの自由がある、此所に万物の靈長たる人間の尊嚴が存すると共に、所謂「獸性」を統御せんと試みて事志しと違ひ、煩悶する人間獨特の悲哀がある。

斯様な立場から見れば、人類以外の動物には生殖こそあれ、結婚といふ文化的行爲は無い、だから無論生物界には結婚もなければ離婚も無い、生殖に就ての多角關係はよしあつても、戀愛の三角關係などは無論人間以外に無い。

此考へから出發して、一個の生物學研究者たる私は、他の生物の性生活を參考にして、我々の「かくあるべき」結婚生活の始終を考へて見たい、特に斷つておく事は此説は私一個の解釋であつて、從來世に多く行はれた人間の生活を強ひて畜生の生活に引摺り下して汚さうと試みる「偽惡者」の自稱科學的人生觀とも大分趣きを異にして居る。

### 男女に優劣はない

女の頭腦の重さが平均男のそれよりも百二十瓦だけ少いから百二十瓦がた女のが低能だとか、或は猿より三本毛が多くて男より三本毛が足らぬ者が女だとか、或は髪長ければ智慧乏しとか、色々な事を云ふて其「低能」な女に失戀したらしい女嫌ひの男は空威張をして居るが、此様な見方は、男女の特性が或能力を所有する量の多少に因んで居る、即同じ能力をば男は多く女は少く所有して居るのだと解釋するものである。

併し乍ら公平な生物學的智識の教へる所によれば、兩性は質の違ひであり量の差でない、即男女に優劣はない、唯双方互になくしては立行かぬ一半、此半人前を二つ合せて始めて人間らしい一對が出来る次第ある。

所で本來優劣が無いのだから、今迄の様に征服者對奴隸或は主人對下女或は飼主對家畜の如き一種の強迫的主從關係は、之迄女性をなみした男性文化の中に於てこそ存立はしたが、將來解放されるべき全人間の社會に於ては全然不合理のものであり、追つて自然消滅をなすべき運命を有するものと見る外はない、斯様にして將來の結婚に於てはまづ第一に結婚當事者が互になくしてはならぬ一半である事を自覺しなければならぬ、即結婚の一要件として相互の同格性承認がある。

### 配遇者の候補を比較の上、自由選擇

扱男女が互に同格だと認めたと上で、其等な異性の數ある中から此人こそ我意中の人と自由意志を以て撰まなければならぬ。家の爲だから是非も無いとか、親の仰せの重ければとかで、泣の涙で嫁入するのは、暴力に對する屈服忍従であり、何等自己の主張が無いのだから、眞の結婚と云ふ事は出来ぬ。又異性でさへあれば誰でもと、近づいて來た者の第一に引かれる者ならば、其所に

何も撰擇が無いから、之も眞の結婚でない。

併し悲しい事には今の日本の現状では多くの異性を危険無く比較し撰擇し得る機会が少い、親と世間とが馬鹿だから、娘の童貞を、まるで眞空にした硝子瓶の番をする様に、後生大事に守つて居る。

所で用心堅固過ぎるものだから、水に譬ふれば「浅く共せけば溢るゝ川水の」だ、土手に蟻の穴があつても其所からドーッと流れ出す。電氣で云へば電位差ポテンシャルが高まつて一寸した機會でもすぐ爆聲を發して火花放電をする。星と董とスキートホームの名に憧れた過去の新人の「自由結婚」の中の或ものは、お氣の毒乍ら此種の火花放電であり、電位が平均した後に「何だい之は、オヤ／＼」と幻滅を感じた人もあつた。今戀愛至上主義の名許りで自己陶醉に耽つて居る若人達の中にも御仲間があらうが、唯偶然に會合し或は唯近く住んだ丈で配遇關係が成り立つのなら、動物の生殖と別に異なる所が無い。

其所で過渡時代の此缺陷を補ふ爲には自由無礙な社交の機會を與へて比較撰擇の便宜を作り、同時に色魔や不良少年を見分けて自身で蹴飛ばす丈の強さ賢ささを呼び起さねばならぬ。男女共學も其一手段であらうが、惜み／＼少し宛思はせ振りタプリーでは却つて危険が多い。性教育と同

様に、共學でもやるなら一思ひに隔ての垣を撤廢しなければ、却つて危い。

### 理想の愛人と現實曝露

所で此人こそと思ふ人が實際世の中に居るか。成程若い浪漫的な氣分に充ち／＼た頃には、どんな寂寞を感じて居る時でも。深い絶望に陥つた時でも、此廣い世界の何所にか、私を待構へて唯一人の異性が居るのだといふ信仰を呼びさますと、忽ち一道の光明が現れ、一脈の温かさが心の中に湧いて来る。

併し段々世事に馴れ自己の特色も徐ろに發揮して來ると共に、其様な空想が漸くに消滅して來て、一體其様な「理想の異性」が實在して居るかと疑ひ始める。此場合に出る態度は二通りで、穩健派の方はさう／＼いつ迄も贅澤は云ふて居られぬから、此邊で我慢しておかうと、之迄嚴しかつた理想の標準を引込めて、今度は目前に實在して居る相手にあてはまる様な極内端な注文丈にして置く。急進派の方は大抵氣が早いから慎重熟慮する暇も無く没頭する、忽幻滅が来る、すぐ匙を投げて又追究を始める、中には峠を越えて彼方に展開する新天新地に憧れる氣分で、峠を越えては又次の峠と、終生戀愛巡禮を續けて、終には常暗の國に迄久遠の女性を追掛けて行く、之

は特に男の方に著しい特徴である。所で

「同一種の動物の中でも外部性的器官の形や大きさは區々である、特に分化著しい人類のそれは、男女の顔が異なるが如く多種多様である。其故に任意の一對の間に完全なる調和適合を欲するのは、種々の鍵を或錠前に手當り次第にあてはめやうとするが如く、分化が進んで居れば居る程困難である。」十九世紀の獨逸の動物學大家ロイカルト

成程我等は文化人として、精神生活の内容が豊富になればなる程、共鳴理解し得る相手の数が少くなる。即性的器官でなくても、我等の精神生活の錠前は金庫のその如くに複雑になつて居る。一方原始人の錠前は、我々の裏の炭小屋のその如く、出来合せの鍵で滞り無くあけられるのだ。けれども性的器官に限らず、我々人間の一切は、鍵や錠前の如く固定造りつけて融通の利かぬ窮屈なものぢやない。併し今迄の人間には大抵野蠻人から受繼いだ原始的考へ方が残つて居り、何でも固定したものの完成したものには考へ直さないと縛まらぬ。例へば國家といふ考へでもさうだ、結婚生活でも結婚式當日に落成式を舉行した鐵筋コンクリート建築物で鶴は千年龜は萬年の後迄も修繕せずに残るものだと考へたがる、そして新婚の當日から夫から妻に「理想の佳人」であり又「よりよき一半」である事を要求する。

所でよく反省して御覽、その花婿御自身が「理想のハスバンド」であるか……。鏡と相談してから物を云へといふのは、唯に顔ばかりの問題でないのである。

### 相互調整と硬化固定

何しろ當人自身をかくあるべき自分に叩き直せない位だから、相手が當方の固定した要求の通りに完成して居さうな筈がない。併し結婚の實際に於て、進んで結婚したのと、強ひられて式を挙げたのに差別無く、何しろ胸がワクワクして居るから、相手が理想的な様に見える。やがて其甘い夢が覺めて苦い現實に觸れた時でも、ビックリして引退くといふのは非常に勇敢な人か、又はよくくの場合の事丈だ、其所が錠前や鍵の様な死物と異なる人間の特色で、一方の缺けたものは他が補ふ、一が或點で後れて居たなら急に募進を試み、他は歩調を緩めて追付くのを待つて居るといふ風に、相互の調整が始まる。此相對性繼續關係が結婚生活の本來の中心であり、どちらか一方が死ぬ迄不絶一進一退變化極まり無き流動である。跳躍する生命。其ものである。

所が實驗心理學の教ふる通り、智的欲求に於て、女の欲する物は固定完成したもの、男の求むるは生長變化するものである、實業家で云へば前者は銀行家、後者は株屋である。一は堅固である代

りにボロイ事は無い、他は山カンで險香な代りに興奮と刺戟に富んで居る。

で斯様にして、女は天性自ら結婚生活の始めに既成完備を求め易い、既に相當の地位財産ある者  
を撰まんとするのは敢て日本の御婦人に限つた事でなく、又其が生物學的に當然であり、決して悪  
い事だとは申すのでない。併し乍ら結婚とは日比谷大神宮神前に式をあげた後カメラの中に入り  
それがやがて何々畫報に登載された事によつて千秋樂を告げるのでなく、之は唯本の前藝で、それ  
から後の色々の變化發展が結婚生活其ものなのであるが、前申した通り女の考へ方は完成既定に  
安んじて居る許りで、例へば夫君の地位は上る共下る事は無いとか、収入は増す共減する事は無  
いとか、又彼の愛は永久に變る事がないとか、彼が他の女に愛を移したり、或は彼の首が切られる  
心配は無いものと安心して、其まゝ老ひ込み易い。殊に玉の如き愛子を設けた場合などは殊に安  
心が其極に達して、唯さへ靜止不動停滯に陥り易い女の精神的な生活が、はたと行詰まつてしまふ  
事が多い。

### 一方の生長停止と互の隔たり

『生命とは内外の關係に於ける不斷の調整である』ハーバート・スメンサー。

「萬物は流動する」結婚生活にしても日々其環境の變化に順應して其内容を新にして行く事は、  
即前述の生命の定義通りであり、此際配遇者二人を一の單位とする一個の有機體の生長進化と見  
做す事が出来る。然るに何事も三々九度と或は又七五三の祝ひに、自己の將來は完全に保證さ  
れたと考へ易い多くの女性の内面生活は、大抵行つまりになる。日本の文化の現状では、日々無  
意味な機械的勞働の繰返しに伴ふ多忙が婦人の智的生活を空虚索莫たらしむる事も、事實だ、之  
を氣の毒だと思ふならば、我々の家庭に勞力と時間とを節約し能率を高める爲に、必要な設備を  
輸入せねばならぬ。併し斯様な餘裕のある家庭にしても、尙離婚や三角關係が時として起るのは  
何故であらうか。

成程それには暇すぎるから、其時にあり餘つたエネルギーが遊戯的戀愛に注がれる事も、幾分  
あらう、併し乍ら私が見る所によれば、大抵の家庭葛藤は、妻が家庭生活の安易固定に馴れて精  
神的に靜止するが、一方家の外では夫が不絶世智辛い又刺戟の多い環境の中で不斷の生長を續け  
て行く、即一進一退餘り遠くは離れてならぬ間柄が段々隔つて行く、其揚句男の活動の範圍は廣  
くて其所に又不斷な成長を續けて居るチャーミングな女性にもぶつかる機會が多いから、單一の  
相對關係が變化して、二つの相對關係の組み合わせに始まる所謂三角關係が生じる。そして其緊



張が極端に及んだ時に、一方のが切れて其所に離婚となる。

即三角関係や離婚を惹起す筋道は大抵之であり、其よしあしは暫く論じないが、兎に角不絶平行して進むべき一人が、一方の静止不動によつて全然交渉の無い他人同士にならうとする。此際種々の因襲といふ首環が双方の首に巻附けられてあるから、心の中は他人同士又は敵同士であつても、外見だけ道づれの様な顔を装ふて空虚な後半生を過す者は甚だ多い。

### 離婚豫防の秘訣

此様な困難は、第一に女の方で結婚生活は不斷の努力、永遠の行進である事を、始終念頭において配遇者との相對關係に緊張を失はぬ様に注意する事、之と同時に男の方では、配遇者が天性固定静止に陥り易い事を常に念頭において、不絶彼女を助け勵まして自分との隔りが遙にならぬやう密な精神的接觸を續けねばならぬ。其爲には無論繼續して同棲する事は、互の生長を調整し調和を求むる爲に必要であるが、且又單調から來る退屈を豫防する爲に、併せて配遇者の有難味がわかる様に、時々短期間の別居も望ましい。尙又其一對の趣味にもよるが、双方のお望みならば時々適度の夫婦喧嘩も亦面白からう。併し此様な事は一々説法は無用と心得るから省略する。

### かくあるべき結婚の定義

以上述べ來つた事を基礎として一寸七六ケしく結婚の定義を下して見れば……

結婚生活とは、一人の男と一人の女とが、夫々豫め多くの候補者を比較した上で自由に探み出して配遇者と定め、そして互に同格な事を承認した上で、其後の一生を二人一體として送らうと試みる繼續的意志が行爲に表現されたものである。

### 此結婚生活に對する戀愛

「結婚は戀愛の墳墓である」といふ云ひ方に従ふて、戀愛を解すると、私の所謂結婚生活に入らんとする豫備時代に於ける當事者双方の不安や緊張した白熱的氣分と希望に充ちた歡喜等の總和が、戀愛と云ふものであるらしい。

戀愛至上主義者否寧ろ其追従雷同者とも申すべき人々は、斯様な「戀愛」に出発しない結婚はよし圓滿であり互に理解があり幸福であつても、それは檻に入れられた猿の雌雄の幸福に過ぎないと迄も極言したがる。

所で私も戀愛の功德をも認める、否功德といふ様な功利的表現は全然避けて、私自身が其甘くあり又苦い戀の甘酒に死に至る迄浸りたいと思ふた者ではあるが、併し自分が第三者の位置に立つた時には、昔渦中に奔走した時程に夢中になつて、ラヴは人生の始めなり終なりと絶叫する事は出来ぬ。

如何となれば白熱氷をも溶し自らをも燃し立つべき戀愛の焔を不絶燃し續くべきやうもない、斯く藝術に不朽の跡を留め、後の世の人を悦ばせ且泣かせ、老ひたる人を常にありし日の思ひ出に若返らせ得るラヴは、此人生といふ交響樂の<sup>シムフォニー</sup>高調である、一度味ふては再び其を繰返し得ない天與の美酒の陶然たる酔の極みである、其は永き人生の中の最も重要な一刹那であり、時こそ短かけれ、吾人の一生の焦點に位して居る。熱烈であるが爲に短い、短い爲に麗しい。其故に或特殊な天才、例へば八十幾歳迄も不老の戀愛巡禮を續けたゲーテの如きはさておき、世間一般の人間にはさう緊張と不安と熱情と歡喜とが久しく續きさうな筈がない。

續くといふなら、其は熱情の小出し月賦拂であり、又慢性アルコホル中毒者の果敢ない恍惚であり、我等が一生一代の大事たるラヴといふ其名に相當するものではないのだ。

### 戀愛は結婚の必要條件か

所で斯様な戀愛が私の所謂結婚生活の必要條件であるか。……否、日本の現状を廣く見た時に私其が必ずしも必要でないといふたい、そして前に述べた如き戀愛至上主義者が一時の興奮に驅られて、戀愛に始まらぬ結婚生活は檻にほうりこまれた猿の雌雄だといふ事に對して、斷然反對を唱へる。

如何となれば、思慮深い両親や先輩の賢明な選擇の下に行はれた仲介結婚の多くで、其初めには散文的事務的であつたものが、年月経る内に、成長進化して、理解同情調和敬慕にみちた理想的 Married Love を造り上げたのを眼前に見る事が出来るのではないか、

戀愛は盲目である、其時の白熱は如何なる物質的障害をも焼き盡さねば止まぬ。双方の天性や趣味や教育が非常に懸け離れて居ても、其前には問題にはならぬ、上下の隔ては無いといふのも其當時の氣分としては如何にも御尤だ、第一それでない<sup>と</sup>藝術は成り立つまい。

併し其の熱がいつ迄續くか、跡は永い後半生の事だ、青春病の戀愛至上熱が醒めてから、どうしますか。無論播た種は當人達が刈取る外はないから、大抵の事は双方で我慢するのが當然なのが、辛抱の無い又身の程を知らぬ自惚の強い男などは早くも逃出す様な事もある。中には御念の

入つた宣言を發表して新しい求婚廣告に代へる者もある。刹那を重んずる戀愛なら必然の結果なのだが、現状維持を好む女性が好んで選ぶ運命でない。

斯様な危険はあらゆる場合に伴ふとは限らないが、今の過渡期に於て唯無自覺にジャーナリズムの鳴物入の騒ぎに浮かれ出す男性の或者には、一世一代の大事業であるラヴの眞意義を解せず其に伴ふ重大な責任を解しない様だ。理知の尊いものによらず、唯獸的接觸慾の衝動發作を恣にしやうとして、此耳新しい美名を借りる者も可成あるらしいから、其等に對する女性側の自重警戒を必要とする。

### 戀愛はあつた方がいゝ

一方戀愛を眞劍に考へる人の中には、其重大さと眞劍味におぢけづいて、ふぐは食ひたし命は惜しとウロ／＼して居る内に、何か時の行掛り、潮時の調子で、極無邪氣平凡に結婚生活の中に入つて、平和に納まり返つて居る人も可成多い。斯様な有様を目の前に見ると、結婚の前提として戀愛の必要有無は、各人の趣味の問題でなからうか。

趣味は理屈を超越するのだから、是非ラヴが無ければといふ側の人は、御注文通りにせられるも

いゝ。併し象牙の塔を出た文學者の様に、因襲的結婚の空虚に憤慨するの餘り、誰彼の見境ひも無く、ラヴの美酒を強ひられるのは、世の下戸たる者の聊か迷惑とする所であらう。

私自身は矢張御同様に上戸黨に屬する一人であり、結婚生活の内容豊富な爲には最初の陶醉があつた方がいゝと思ふが、扱誰にでも其盃を押附ける程の勇氣を持合はせない事を残念に思ふ。

### 現世の事が第一 それから子供の事

扱前述の結婚生活の定義を云ひ直せば、結婚生活といふ此結合は所謂「靈肉の總和たる全人」の遺憾無き合一である。而して健全な兩性の順當な結婚に於ては、其必然の結果として種族保存の實が擧げられる。即我等の望む結婚は現世の事を第一とする、子孫と其將來の事は其上の事だ之が從來の偽善的有識者や職業的愛國者や又は優生學者と自稱する牧畜家と異なる點で、産兒器械として妻を迎へた女大學一流の考を、根本から排斥せざるを得ない。

何故にさうであるか、其は現代人に自明の事だから今詳くは述べない。

### 自由戀愛と自由結婚の權利

人は一度此世に生を受けて現れた以來、他人の生命と幸福(財産と私はわざといはぬ)とに害を與へぬ限り、此生命を維持し其存在を主張し得る權利を持つて居る。更に進んで解放の新時代に入つた將來には、私の信念に據れば、誰しも自由に戀愛に酔ひ自由に結婚し得る權利を有すべき筈である。

今でも有して居るのではないかと問ひ返す人が居るならば、其は其人の考へ違ひだ。資本主義制の荷した重荷の下に悩む貧乏線以下の男女は、結婚し得る權利を奪はれて居る。或は又貴族と稱する特殊階級を見よ、彼等は自己の發明した因襲といふ箱の中に窮屈な生活を送り、自由に戀ひ自由に娶り得る權利を奪はれた憐むべき者、否自ら棄てた愚な者であるのではないか。

### 産兒は權利か 義務か

然るに一面に於て種族保存にあづかる事、即生殖産兒は一體權利か義務か。

ブルヂョア政府は労働搾取の爲に賤民共の労働能率の低下を惹起すと見たら、出来るなら性的

享樂を爲すの自由をも奪ひかねない、併し一方に於て過剰労働を掠奪する爲に潤澤な豫備隊を備ふべく、労働者間の出産率減退を憂ひて産兒制限の宣傳を妨げ又は之を禁じ、健全なる兒を多く産む事は國家に對する忠義であると云ふて居る。

之では生殖は義務の様であるが、一部優生學者が社會に好もしくない連中の生殖能力を取上げる事をもくろんで居る所を見ると、生殖は一種の權利であり、世間に迷惑を及ぼす子を出鱈目にへりばなす事は、取も直さず此權利の不當行使であり、取締りを要すると見る次第である。

### 産兒は夫婦の自由

如何様に七六ケしい法律の術語をふり廻して三百理屈をこねても、結局子供をうむとうまぬとは夫婦の自由である。イヤならうまぬ丈の事であるが、イヤだと申しても、今日の避妊法では到底素人の思ふ様に或は數醫者が法螺を吹く程に、自由に行くものでない。若し避妊法が完全に効を奏する時には、女は誰も子を産む事はあるまいなど、取越し苦勞をする男も居るが、それは結婚前の不良青年か、切り捨て御免の強味を失ふまいとする遊蕩兒の考へ丈だ。

本能的に血を分けた兒を欲する事に於て或は女親に劣る事もある男親でも、時が來れば矢張り

を求むる様になる。即自分の陥つた誤も避け自分の行ひ得なかつた事もさせて、自分の限りある一生にやりおふせなかつた事を、其子に自分の分身としてやらせたいと望む親の心は、靈魂不滅の教へに懂がるゝ一本能の尊い表現である。だから自由に任せておいても決して子供をボイコットする様な心配は御無用である。

### 産児が危険有害と期待された時の結婚

斯く自由撰擇、自由戀愛、自由結婚、自由産児と根本の考へをきめて掛れば、色々の難問題の手掛りも自然つく譯だ。

性教育の必要を宣傳し乍ら生物學を修めて居る私に屢々問はれる事は、問ふ人が遺傳學上好ましくない素質を有して居る事を自覺して居る場合にそれでも結婚したものであらうかといふ問題である。成程多くの優生學者は生物學の名によつて斯様な結婚の禁止を命じて居る、之は結婚の唯一目的を産児と見るならば、如何にも種馬種牛の掛けあはせを支配する調子でさうも云へるだらう。併し乍ら我々は人間であつて牧場の牛や馬でないのだ、人間である以上、戀愛の自由、結婚の自由の主張をするは當然である。

所で最後に産児の自由と云ふ問題になると、此世に未だうまれ出でない子供自身の事も考へねばならぬ、即子には親を撰み得る自由も無く、親が希望し又は希望せぬに頓着無く、母の胎内に宿つた以上、時熱して娑婆の太陽を仰ぐに至る次第だから、生み落された子が親を恨み呪ふ事のない様に、且又其子が他人の子を傷ついたり色々の迷惑を掛けるのを見て、親たる者が堪へられぬ程の苦痛を受ける事の無い様に、始めから夫婦双方承知の上で自由な産児の事だから、進んで親たるの楽しみも之に伴ふ苦みが恐ろしいから、放棄して子を産むまいと決心し、尙其上に其決心を實現する爲に適確な方法を執るのは、私は至當だと信じて居る。

斯様な難問を抱いて居る人は大抵世に勝れた人に多く、殊に遺傳の恐れありとして居る性質が眞に遺傳性ありや否や、今日の遺傳學では尙疑問として居る程だ、其故此際、種馬種牛の様に人を産兒器械と見做して居る優生學（しかも幼稚な學問）が、よし其結婚を否認したとて、結婚が夫婦互に其事情を理解した上の同情で築き上げられるのは、双方の先見と思慮があるならば寧ろ望ましい事、又禁じやうとしても禁じ得られぬ事柄である。

## 離婚の解決

次に離婚の問題であるが、之は前に繰返したやうに、始めにろくに考へもせず撰みもせず人にから強制せられた結婚や、一時の空騒ぎに五色の酒や親鸞上人やと同じ様に、流行物のラヴの名にかぶれ、「浮氣は其の日の出来心」とはまり込んだ「戀愛」や、之等の後始末の離婚沙汰ならばブッキラボウに云へば身から出た錆なのだから、御當人同士で離れる共逢戻る共それは御自由だ、併し大抵の場合双方自惚タップリ、自分の悪い所を棚にあげておいて、もつと好い相手と要求される積りなら、それは悪い根性だ、少しでも妥協調和の踏出しが築かれたのなら、其まゝ双方共我慢しておき給へと、御忠告申上げる。但し理屈で行かぬ行張りや感情の食ひ違ひもある場合には、さうも行くまいから、どう共御自由におやり遊ばせ。

擧其次は私のいふかくあるべき結婚の条件にあてはまる様なものであり乍ら、光陰の移り行きと共に双方の歩き方が段々隔つて来て、終に其がごまかし切れぬ程になつた場合の事だ。

元來科學は世界を狭くしたと同時に時間をも縮めたのだから、吾人の一生涯は目まぐるしい變化に富み、昔人の一生に幾倍する様な内容を具へて居る。昔の人がまあく〜と棺に入る迄我慢して

居た事でも、我々なら十年二十年もたゝぬ内にぶつかつて、双方共に目を白黒しなければならぬ事も起り得る。元々世間で誰もが生存競争の驅足をして居る以上、日本の「奥様」のやうにさ々えの殻に閉ぢ籠つて居てはとて今日の日も過す事は出来ぬ男や、又一部の女は、こつちが足弱でも驅け出さねばやつて行かれぬのだ。同じ屋の棟の下で雨露を凌いでも、住む世界がかけ離れて來ると、路傍の人同様になる。

更に進んで之が氣まづい誤解や取返しのかかぬ出来事の生じた事等の爲に、敵同士の様に互に白眼をむき合ふ様になつた時はどうか。

一體かう云ふハメに陥つてから今更妥協や調和が出来る位なら、始めから不和や隔りが生ずる筈が無い。所で世間の口の端に掛るのがうるさいと云ふのなら、まだ世間がこわい内だからやさしい、家族の手前恰好が悪いといふ内ならまだ解決も出来る。併し其不和が公けになり、子供の前も憚らず、親が互に敵視する程になつたとすれば、最早一刀兩斷の外はない。子供としても冷え切つた家庭の中で敵視を傍觀し、或は敵對行動を仲裁し、或は一方に同情して加勢應援しなければならぬとすれば、彼等の將來にとつて非常に有害である。

其時は速に其後双方の獨立生活を出來る丈幸福にやつて行ける様に、物質的要件を公平に按配

した上、永久に分離するより外はない、此場合彼等の結婚生活が極めて短日月の内に充實し終り其使命を果し終つたのは悲しむべき事であり、彼等が元は具へて居た調和共働同情を失ふて硬化し終つた事は、悼むべくも又是非無い事である。

斯様に述べた例に漏れた場合は、もはや議論の餘地も無い不合理なものであるか、又は明白に合理的なものだ。例へば某女史の家出と離縁状叩附け事件の如きは、空虚な唯一片の形式に蓋はれた内容の暴露に過ぎない。

### 多角關係は實際不可能

藝術家ではあるが矢張文筆勞動者である事を免れぬ小説家が、食はんが爲にやむを得ず、其所此所の雜誌に原稿稼ぎをおやりになる有様を横から窺くと、舞臺次第で一生懸命にやつたり、好加減に見物人をなめて掛つて調子を下けて掛つたり、仕振りこそ變るが、極少數の天才は別として、大抵の御方は同じ事を色々に云ひ直して居るのに過ぎないやうだ。男の考へ方を實驗心理の方で女に比較すると、随分趨異性に富んで居て單調でないといふのだが、或一時期に或人の頭の中を占めて居る事件がさうく多くない事は、小説家の様な天才文學者諸君の作品に徴してもわかる。

かる。

斯様な天才に於てさうなのだから、まして我々一般俗人がさうく同時に頭を多方面に働かす事に、實際不可能である。よし一見して多方面の活動をして居ると思はれる場合でも、其真相に立入つて見ると、全力を注ぐべきものと他をきつぱり區別をして、精力を注ぎ熱中するのに、そこ宜しく手加減が自然に加はつて居る事を、發見するのである。

### 三角關係が結婚前後に於ける違ひ

扱斯様な人間の生れ付の傾向が戀愛葛藤の三角關係の中に演ずる役目を見るに當つて、結婚の前後によつて非常な相違がある事を注意せねばならぬ。

但し此際前後と云ふたが、何の前後であるか、之は人々の趣味や信仰によつて異り、相互の童貞の終結とか、人前の披露の結婚式とか、又は事後承諾の要素である妊娠とか、色々であるが、兎に角に當人二人が認めて、一時代を區切つた出來事と思ふものを指しておく。

所で其前に於ける愛人同士は唯希望に充ちた歡喜に恍惚として周圍を忘れ、過去と將來とを没却した現在に酔ふて居る許り、拘束も無い、壓迫も無い、何一つ浮世の苦勞も其瞬間に忘れられ

てしまふ。其瞬間と云ふたが、瞬間が事情によつて一日となり一週間となつて次の瞬間に移る事となる、其時は大抵誰でも暴風激動期なのだから、事態が確定した様でも其實不安定であり、次の瞬間に入つて更に力強い異性の出現肉迫に逢ふと又新たな驚喜と希望が生ずる事も起り、其各々の瞬間に時間の前後、事の因果順序を忘れ果てる白熱火の中に没入する。

斯様にして生ずる戀愛の多角關係は其實時間の考へが其都度に消し去られるから。各々の瞬間に於ては純眞な單一の相對關係であり。唯困る事には前後の瞬間が互にすれて一對二といふ様な(例へば二人のますらをに云ひ寄られて煩悶したうらやま兎原乙女)ヂレムマに及んだ時。池に投じて双方に義理を立てるか、義理といふ様な古臭いものに目も呉れない現代人ならば、是か彼かに手を差延べて、立所に三角關係の埒を明けてしまふ。大抵話は結局の所此所へ落ちるのだが、それは小説なら原稿に書くのに短か過ぎるから、引延ばしてある許りの事である。

即戀愛に於ける三角關係は、本來戀愛なるものが瞬間的の火花である以上、永續するものでない、そして其孰れにして當人二人が進んで飛込んだ事業なのだから、傷つくのも得心づくだ、第三者が兎や角心配しても左右し得られるものでない。靜電氣に譬ふれば、陰電氣を負ふた一點に對して陽電氣を荷せられたA Bの二點が對立する様な場合で、電位差の最も大い方とバチと火花

を放つたが最後、事は終つてしまふ、即變愛に於ても生存競争自然淘汰が行はれるのは此世の中の常法であり、如何共致し難い事を誰でも會得しておく事は肝腎である。

### ② 生物學上男女の根本の相違

結婚に於ける三角關係となると、前のが瞬間的であり、第三者の干涉を容れる事が出来なかつた微妙のものであるのと違ひ、之は繼續的であり又多少共當人二人許りと云はず、第三者に影響を及ぼす程の對外關係を具へて來て居る。所で其を述べる前に先づ、生物學から見た男女本性の相違を考へておきたい。

すべての動物に於て、卵は大形であり營養分を豊富に貯へ、一所に靜止して精子の進入に對して居る、一方精子は小形であり、體の大部分は運動器官であり、活潑に運動する。此雌雄兩性の生殖細胞の形の違ひは、人類許りでなく、あらゆる動物の兩性の特質を象徴的に現はすものと、見做してよからう、即女は守成的建設的、男は攻撃的破壊的である。

45  
そして人類に於て、男がよし教養に富み豊かな自重心と努力精進の志を有して居る人でも、矢張心の底に多妻主義的傾向を秘めて居る事は、よくもあしくも、斯様な生物學上の普遍的事實なので



## 男達の考へて居る事

其等の男同士が語り合ふて居る時は、愛を求める男が愛人の前に出た時の様に、オゾ／＼しても居ない、又多くの識者の記された婦人雑誌向きの原稿の文體の如く、しかく他所行の慇懃鄭重さもない。彼等の會話は私の此文の如く「あらまあ随分だわ」である、粗暴である代りに至つて簡單明瞭だから、時間も空費せず誤解の生じる事も割に少い。

其男が妻としての異性を現にどう思ふて居るか。私は彼等の心中を推測して次の様な譬へ話を作つて見て、色々な境遇にある男達に其觀察の正しいか否か、意見を叩いた。多くの男は卒直に其が自分の思ふて居る通りだと答へた。其内の或者は附加へて曰くさうは考へて居るが色々境遇の都合で實行しないか、又は行ふ事を制して居る丈の事だと云ふた。

少數のビュリタンは黙して答へない、恐らく言語同斷の女性觀だ、縁無き衆生度し難しと許りに匙を投げて居るのだらうか。扱眞正面からか駁論を叩き付けて呉ぬ所を見ると、彼等も或は心ひそかに此解釋を是認して居るのかも知れぬ。

『すべての人は、彼の腦中に於ては、性的犯罪者である』 獨逸の犯罪學者ゲルフェン。

所で次の譬では、配遇者をば物もあらうに、生命も無い一個の物品になぞらへてあるから、「解放された婦人達」から途方も無い女性侮辱だと柳眉を逆立てられさうで甚だ恐ろしいが、男といふ劣等な動物が實際さう思ふて居るのなら、不愉快でも一應參考の爲にお目に掛ける事は必要であらう。

かういふ風に觀察して居る男が多いといふ丈で、此見解が正しいと私はいふ者でないから、私がお叱りを受けぬ様前以てこわ／＼お断りしておく。

## 譬へ話 第一 辭書としての妻

妻は多くの男にとつて書齋に常に備へ附けた大辭書か百科字典である。妻以外自分の心を誘ふ女性は、たとへば詩集小説のたぐひである。

スタンダード辭書を座右に離さぬ彼は、愛用すると云ひ乍らABCと各頁を順に一々目を通す譯でない。息もつかずに字引をば始から終り迄棒讀しやうと試みる馬鹿も無い。よしあつても、終り迄續くものか。

併し通讀しないから尊重せぬかと云へば、決してく、もし泥棒などにさらはれたら早速、「字書ヤアイ」と鐘大鼓で探し廻らねばならぬ。愈々紛失したときまると、今更に字書の有難味が肝に銘じて、或男などは「失ひたる字書を惜む」小冊子を自費出版して、ありし昔に其を粗末に取扱ふた幾分の罪滅ぼしにしようとした、併しいくら惜んでも返らぬものは仕方が無いから、やがて字書第二世を探しに出なければならぬ。男は欲の深い動物だから、前のよりも新版で内容の豊富なものを書文するが、やがて注文通りのものが手に入つても、兎角逃げた魚のが大きくて前に紛失させたものと比べて難癖を附けたがる。例へば前のは装釘は粗末だったが、内容が豊富であつたのに、今度のはイヤに天金や革表紙許りケバくしくして、其割に中味が空つぽだなどと、小言を云ふ奴も居る、併し中味も見ず、初手から天金革表紙に惚れ込んだのは自分なのだから、今更事新しく小言も云はれた義理であるまい。

字書でも銘々特長があつて、慣用の符號とか分類配列の順序を充分飲込む前は、自由に使ひこなす事が一寸六ケしい。他の或男の曰く、字引が手馴れる迄には少く共十年は掛る、俺の年配で之から十年も其爲に費やすのは損だから、字書無しに辛抱しておくと言ふた。此述懐を聞かされたのは或有名な漫画家であつた、無遠慮な男の中でも、特に漫画家は無遠慮顔面皮な者だから、早速そ

れでは字引なしに、今日の時世をどうしてやつて行けるかと、御面一本参つた所が、顔面皮な點では其漫画家以上の男も、流石に顔を赤らめて、それはね、小説といふものもある世の中だからとお茶を濁したさうだ。

小説をコツツリ讀んで字書参照の代用にしようとは太い根性だが、此太い根性がなければ、とても世智辛い世の中で華族や大臣になる事は不可能だらう。

## 譬へ話 第二 小説としての女性

小説といふものは本来食ふに困らぬ者が過剰エネルギーを處分したり、退屈紛らかしに道樂に讀むものと私は近頃考へて居る。もつとも或論者によれば、眞の藝術品は食ふ物を食はず共、之さへ味はへば命が繋ける、否死んでも本望だといふが、私の様な俗人は矢張侍の子でなく素町人の子だから、腹がへつたら無論ひもじうござる、して又命に執着があつて、犬になつても豚になつても此世に生残つて居て、昔虐けられて居た大衆が段々勃興して行き、石に挫かれた雑草がむくく頭をもたける一陽來復の春に廻りあひたいと、ひたすら此世にしがみついて居る次第。元々藝術は閑暇の産物ならば、ブル藝術のやれプロ藝術のと喧ましい近頃のワン／＼騒ぎは、之も亦暇つぶ

し、就中ブルを撲殺すべしなど、犬殺しめいた絶叫は正氣の沙汰と思はれない。閑話休題……  
 扱男が暇つぶしの爲過剰エネルギー處分の爲讀まうとする小説は、此の世の中に數へ切れぬ程存在して居る。頑固な人間共は此澤山な小説が目障りだから「男ハ小説ヲ讀ム事ヲ禁ズ、之ヲ犯ス者ハ……」なぞと脅かす様な仕掛けで以て、小説道樂をやめさせやうともくろむ人も居る。又秦の始皇帝の様に小説焼拂の計畫をする蠻勇家もある様だが、小説を濫造させる様に出來上つて居る目前の經濟組織を叩き直さなければ、世に小説の種はつきめえ。

斯様に多い小説は孰れも用不用を超越した贅澤品だから、實用向きの字書よりも装釘が美しく且變化が多いのは當然である。之が個性の發達した文明國であると、各々特色を發揮して皆各々自分を讀ませやうと、中には人を脅かすやうな警戒色迄塗り添へて、我こゝにありと許りに頑張るが、日本の様な（丘教授の語を借れば）摸倣專一で個性を没却した半開國では、小説迄が何かなしに流行を追ふて、布がはやれば布許り、ボプリンならどれも之もボプリンと、耳かくしや市松模様と同様に、無自覺な人眞似をする。或表題が人氣に投じると、其をもぢる。本でも女性でも化粧になると變りがない、生物學上の擬態保護色に相當する現象があり、針もまたぬ蠅が蜂の様な形を装ふて人を脅かす様に、内容のつまらぬもの程仰々しい道具立や紙數でおどかすものもある。

る。

人の好奇心を咬る爲に、態とアンカットといふ様な面倒な仕掛けをして、金を出して買はねば中味が容易に知れぬやうに仕組んであるが、切らねば讀めぬ綴ぢ方で表装の美しい物程油斷がならない。好色な男が童貞追究を樂みとするは、好書狂がアンカット頁を竹刀で斷つ時、未知の國をい開た様な悦びを抱くに比ふべきものであらうか、此際小説愛讀者の中には、つまらぬ小説でもアンカット頁を切斷するのが樂しみだといふ人と、そんな面倒な事は御免だ、人の讀みさしでもいから内容のシッカリした物を希望する二型がある。

扱此小説の讀み方を見れば、元來遊び半分に讀むものだから、無論寢轉んで讀む、端座して讀まなければならぬ様なカチ／＼の物は、始めから相手にしない。所で寢て讀む内に、二三頁でこいつはつまらないとほうり出すのもあり、すつかり捕虜になつて幾日幾晩夜の目も寝ず、食ふものも食はずに讀破するものもある。併しいくら熱中しても尋常の心理を合はせて居る人ならば、其愛讀の小説が氣に入つたからとて、字書の代りにしやうとする事もあるまい。情に厚い又生活に追はれぬ人なら、愛讀書は書架に載せておいて時々、取出して表紙を一瞥してあゝ此本は面白かつたと、昔の氣分を思ひ出す位な處だ。更に貧乏な讀書人になると讀み殺はすぐ古本屋へお拂下になり、其

資本に更に若干の追加をして、又新刊の小説を求め之に新らしい刺戟興奮を得、且新思潮に觸れやうとする。

此小説道樂が少年時代は始まる時は、世に字書といふ重寶な物がある事を知らずに、唯小説の新刊をのみ漁り求めるのに汲々として一生を過ごす事もある、之が所謂ドンファン生活である。

### 2) 女には小説を読む権利がないか

斯様な見方が、新時代の賢明な女性のお氣に入ると入らぬとに頓著無く、現代日本に於て多くの夫たる者の公けに行爲として外に表現し。或は心潜かに抱いて居る所の、妻としての女性觀である。妻たる婦人が、如何に夫たる男性を觀察して居るか、其は女性側から卒直な突撃を試みられなければ、我々男には判明しない。

所で此警を聞いてうなづいた一人の男は、然らば妻として女は小説を読み得る権利を有して居ないかと反問して來た。私の見る所によれば、元來斯様に配遇者の人格の認めずに、物品視する事は、其配遇關係の成立がさういふ唯物性を帯びて居る不當なものだから、其結果として生ずるので、かくあるべき結婚生活が一般に普及すれば、斯様な不都合な見解は自然消滅をなすであらう

併し乍ら、唯今眼前の過渡期に於て、今迄虐けられた女性が覺め始めた時、反動氣分で何でも男の眞似をしたがる。出もせぬドラ聲を絞り出さうと試みた政談演説は、無禮な男の爲に野次り倒されるが、若し女でも小説を讀まうと一念發起したならば(實行に入つた人もあるが)、それは物好きな又道樂氣の多い男性の事だから、小説候補者は乏しくない。

5 斯様にして戀愛を弄ばうと試みるのは其方の自由だが、一寸前以て御注意を申上げたのは、前述の生物學的男女の相逢の事である、即解放は解放でも、解放された本性は男のそれと別物である、別な本性を展開活動する際に、男のそれを無自覺に摸倣するならば、それこそ三本毛が足らぬと口の悪い男に罵倒される許りでなく、飛んでもない悲劇的運命に陥る様な事になりますぞ

### 現在の結婚制度

一體こんな色々不届な見方が生じるのは、此世間の我々の眼前に存する多くの家庭生活が不届なものであるからなのだ。不届な物を見て不届な解釋を下しても當然で、別段當方が不届だと、お叱りを受くべき理由は無い筈である。

私は之迄かくあるべき結婚生活の諸要件を考へる許りで、目前の結婚生活の實狀は餘り云はな

かつた、併し乍ら今此所に其に評價を加へなければならぬ。

現在日本に於ける多數の結婚生活は、私の見る所では、私有財産制の一變形であり、夫といふ占有者が、妻と名づくる家畜を養ひ、之を性的快感を得る爲の機械として用ひ、又同時に之を屠らずに食物とする場所である。(非科學的庖厨生活の内に妻の血肉をそぐ事は、取も直さず彼女を食ふ事になる)。

妻を機械から昇格させて奴隸だとすれば、結婚生活は夫と稱する主人が、妻と稱する奴隸を飼ひ、此奴隸をして晝は家事を處理せしめ、夜は寢室の世話をさせる事であり、疑ふべくも無い一の奴隸制である。

家畜ならば系統が判然して勝れて居る程買ふ時高價だ。奴隸ならば柔順勤勉である程、高價である。家畜にも奴隸にも人格は無いから、唯作業能率を高める爲に調教を試みる、此調教訓練を稱して、良妻賢母教育と云ふ、但し此調教者が餘り有能でないから、名前の看板とは正反對に、奴隸制から見ても牧畜術から考へても、能率の低い物許りが生産されて、實際は愚母惡妻教育になつて居る。近頃之ではならぬと、流石感じの鈍い牧畜家や奴隸養成者も頭を悩まし始めたが、調教能率を高める爲には先づ第一に人格を認めなければならぬ、併し飼主や主人と同等な人格を認めるとす

れば、現在の私有財産制や奴隸制が根本から顛覆する。即彼等の語を借れば、祖先傳來の醇風美俗が破壊されるから、痛し痒しで大煩悶をして居る。併し下手の考へ休むに似たり、煩悶して居る内に、家畜も奴隸も自覺して差別待遇撤廢を要求する様になつた。

本來、此制度の下にあつては「分際」といふ語が喧しく云はれて、「女の分際」で(即家畜の癖に奴隸の癖に)男子と(即飼主や主人)と同じ物を食ふのは生意氣だとあつて、特に家畜向奴隸向の食物が準備してある、之が女學校教育と婦人雜誌と稱する物であつて、飼主と主人が御免を蒙り、匙を投げ辟易した低級下劣の材料許りが振向けられてある。併し家畜扱され奴隸視されて差別待遇を受けても、結局女は人間であるから、自分で自由に人間の要求する物を撰むに至つた事は、悦ばしい事である。

但し一部の女には家畜根性と奴隸氣質の名残が残つて居て、特にいたわつて貰はぬと、虐待された様な僻み根性を起す者もあるが、全く同格の者なら、殊更に「御婦人」とか「女の人」とか「お女中」とか御機嫌を取る必要はあるまい。男が單に男なら、女は單に女と呼ばれて、別に侮辱を加へられたと思ふに及ばぬ。

## 奴隷持主の心理

昔世間の誰もが人のよい頃には、此物は某の所有と札を立て、置けば、先づ誰も手を出さなかつた、性的奴隷制では焼印を押す代りに、お齒黒を塗らせた丸まけを結ばせたり、唇の廻りに入墨をさせたり、種々の形式を以て斯様な占領済の廣告をしたものだ、現に何々ホテル何々軒に於て催される披露會は、進化した形式を具へた家畜飼入廣告である。

斯様に披露した上飼入れた家畜が時として飼主の氣に入らぬ場合にはすぐ遠慮無く野原へ放逐して、新銳の者を求めて再び披露するか、又は勘定高い飼主になると、そんな無用の出入に出費は面倒だ、之も節約の時節柄で古い家畜は其まゝにしておいて、新しい實用的のを今度は廣告せずにコッソリと飼ひ始める。

それから此牧畜家共が更に團結をして何とか階級とか云ふ一大トラストを形成する段になると飼主が自由に家畜を撰む權利を有しないで、唯其トラスト全體の利益と繼續を圖る爲に、幹部が撰んであてがふて呉れた種牛種馬のお守りをしなければならぬ、併し飼主でもすきな家畜を撰みたいのは山々なれど、出鱈目に餘所から買ふて來るとトラスト全體の家畜の尊い血統の純正を傷つ

けるといふので、やむを得ず辛抱して居る。若し自由撰擇を斷行しやうとすれば、其牧畜トラストから除名せられるか、又は自ら進んで脱退しなければならぬが、大抵は飼主迄が家畜の氣風に同化されて順良に去勢されて居て、其まゝ長い物にまかれて居る。

トラスト員は大抵其組織で流り得た暴利の分配に與るから、生活の餘裕があり過ぎる程だ、其所で牧畜の相間には音樂を味はふたり畫を描いて見たり、中にもオツチヨコチヨイの飼主共はつびをきて公園に飛出して來て下司下郎の眞似をして草むしりをしては、世間の物笑ひとなり、又トラストの親玉から睨まれる種をまいて居る。どうせ氣まぐれにあちこちと浮氣をする發作だから音樂でも畫でも生物學研究でも草むしりでも長續きはしないが、閑居不善をなすのとは事變り、(小人と申しては失禮千萬だが)いづれも至極結構の道樂だ。

道樂を自慢にして仰々しく恩に着せたり、廣告をさへしなければ、吾人トラスト外づれの人民でも、別段抗議を申立てる必要を感じない、且又其退屈に苦む憎眠生活に焼餅やく程のさもし根性は無いのである。

## 家畜数の制限と其所有問題

利己主義から出發した私有財産制でも、飽く事の無い私慾が社會聯帶感に衝突した際、多少の修正を必要とする。俺の儲けるに何も干渉は無用だと資本家は頑張るが、結婚といふ名を冒した此牧畜事業に於ても、元は家畜を飼ふ實力さへあれば（甲斐性さへあつたら）幾頭でも飼ひ放題であつた。遠く支那や土耳其の牧畜業を引照する迄もなく、偽紫田舎源氏でも何百といふ數を養ふたとあり、よくも一人の飼主で手が廻つたと驚くが、實際其飼主の下に準飼主とも云ふべき者があつたのに相違無い。併しそれも昔の物語、今文明の昭代となつては、斯くも多數の家畜を一個人で占有するのはいかんといふ事になつたが、それも表向き丈で實際は矢張飼ひ次第、又「犬になつても大所の犬」といふ様な家畜根性で悦んで其横暴な飼主に走る家畜も居る。が畜表向きでも餘り多く飼ふのはいかんとなつたのでも、斯様な怪しからぬ牧畜業や奴隸制が漸く廢れる徴候と見る事が出来る。

所で何にせよ強迫抑壓を加へた上で、占領した家畜や奴隸の事だから、鞭を用ふるのも適宜以上を越へると、如何に柔順な者でも他の牧場に出奔したり、他の飼主の懐の中に飛込んだりする事

もあるが、元來此様な事が何所でも行はれるとなると、世間一般の牧畜業と奴隸養成組合が根本から崩潰するから、皆總掛りで斯様な不心得者を袋叩きする事にきめてある。併し矢張我利々々根性の寄り合ひの事だから、よその牛がおとなしくて乳を多く出すと聞くと、コッソリ家畜を取替へて見やうなどと非望を起し、或は其計畫を實行に移したりして、不絶飼主相互間の内輪もめが絶へない。殊に昔は某の飼牛と札をぶら下けてさへおけば、誰も指一本出さなかつたものだけに、末世澆季の今日になつては占有慾迄が變態性を帯びて來て、惣とさういふ様な札付の家畜のみをねらふ不届なよその飼主が頻々出來てきて、所有權争ひが喧しくなり、之と同時に飼養家畜の「人道的」取扱ひも云々される様になつた。

所謂「三角關係」といふのは此所有權争ひの事で、「生活改善能率増進」と稱する策の一部も奴隸の「人道的」管理法の事であらう、人は筋道立つた事業を行ふて居る時に何等辯解を必要としない、唯何か不都合な後暗いする時に限つて「人道的」だとか「正義の爲」だとか一種のお念佛を唱へる。如是畜生發菩提心、いひわけやお念佛を口にする丈、まだしもしをらしいのである。

それから牛の乳を絞る時に、清潔な牧舎で蓄音機音楽を聞かせると、平素より乳を多く出すのだが、近來特に云々される上すべりの「文化生活」も此類の勞動搾取法でなからうか。

## 結婚の三角關係は理論上存在不可能

扱斯様な現在の悲くも亦馬鹿々々しい有様から振返つて、私の云ふ「かくあるべき結婚」に戻るならば、其は其本人二人同士互に他の中に全部没入して、不絶變化調整を續ける状態。其物であり、戀愛の如き瞬間に完結終了するものでないから、始めから他に發展すべき自己の餘裕が保留されて居ない、即理屈上結婚の三角關係が出現する事は不可能である。蓄妾の如きは始めから奴隸制ときまつて居るから、三角關係なぞの内へはてんで入つてこない。

今若し一人の男或は女を中心として三人又は其以上の異性が渦き廻つて居る時に、戀愛ならば瞬間に事は決する、其中の一が眞の結婚關係である場合に、他との聯絡が又同様に眞の結婚關係の如き觀を呈して、其三角關係が繼續するならば、其等の關係はもはや眞の結婚でなく、又もや昔からの奴隸制に戻り墮落したものである、即一が征服者となり主人となり飼主となつた場合に於てのみ三角又は多角關係は可能である。一人の僕は二人の主に乗仕ふる事は出來ぬが、一人の主は幾人でも僕を養ふ事が出来る。一人の飼主の周圍に數多の家畜が遊び戯れて居ても、其は單に性的牧畜業であつて、飼主が男たると女たるとを問はず、眞の結婚は其多角關係の開始と共に消滅する。即言を換ふれば、單數の對等關係が消滅した瞬間に、一個の主人を中心とする複數の主從關係が発生する事に外ならぬ。

## 現實曝露は改造の準備

所でかく理想論を高く振かざして絶叫して見た所が、目前の字書と小説と家畜と奴隸とは依然として舊態を改めない。私は之等女性の自重心を傷つける様な色々の比喻を用ひたが、現代日本の虐けられた女性の爲を思へばこそ、此様な卒直な現實曝露を試みた。

呪ふべき賣笑制を痛撃し、之を支持する資本制度を憎んでも、此制の犠牲となつた憐れな我々の姉妹を決して責める事は出來ない、我々眼前の性的奴隸制は即普遍的賣笑制であり、之の撤廢を圖る爲には、女性自身のパンを求むる方法を根本からやり直さなければならぬ、其爲の改造とは膏藥張りや其日逃れのごまかし細工の事でないのである。

## まづ第一に自己保存

あらゆる生物は自己保存を先づ第一の仕事として居る。人類の女性も亦第一に自己保存を圖ら



なければならぬ、現在人間として生を續ける事が不可能ならば、是非も無いから奴隷に落ぶれ、家畜に成下つても構はぬから、まづ生物として取不敢自己の存在を全うするといふのは、男女の性を問はず誰でも同情すべき事であり、決して非難すべきものでない。常盤御前は清盛の奴隷となつて、僅に自己と子供達の存在を全うした。世の多くの女性は二十世紀の今日に於ても、尙或意味に於ての常盤御前ではないか。

### 一夫一婦制と一時的變態

世界大戰の後多くの壯丁を奪はれた獨、佛、英の婦人連の間に、一種既成道德に對する懷疑の念が起り、其或者は實際行動を以て寧ろ多妻制を是認するかのやうである。ストーブス女史の著書によれば、濠州では戦死者の寡婦の團體 *Scientific Motherhood* と稱するものが、國家奉仕の唯一の方法は母となる事にある。所で多妻制は道德に悖るから、性交によらず、科學的方法を以て優良な男の精液を集め人爲妊娠の法によるなら、自己を國家奉仕の爲に捧げると決議した。斯様な非常の出來事は、矢張皆婦人自身が自己保存慾を異常な外界に適應せしめんとする試みであり、又多妻制の下に衣食足りれば寧ろ家畜となつても悠々其日を過したいといふ心持もある。

純粹な意味で婦人の自立は今日の社會制度の下にあつては不可能なのだから、之等の煩悶と努力とは當然であり且又同情に價ひする。理想家に云はすと、一度覺めた女が自ら斯様な恥しい多妻制に屈服し、奴隷に退化して迄も生にかじりつくより、寧ろ人間として尊嚴を保つたまゝ自殺した方がいゝとするのだが、成程それなら詩になる、藝術品になりもしやうが、人類の社會全體は一體どうなるか。

私は生温い唯物論者だから、矢張生存第一である、家畜となり奴隷となつて生を續けて行かうとする執著が有難い。現に我々の國內丈を考へて見てもわかる、啓蒙といひ、解放といひ、此熱心な運動が若し有効であつて、日本の女性全體が一度に覺醒して「人形の家」のノラの如く一齊に家出したら、其日からすぐ殆どすべての亭主は飯を食べさせて貰ふ事も出来ない。若し彼女達が皆ユーヂットの様に短刀を懐に斷乎たる決心をしたならば、其翌朝多くの夫は其ふしどに屍となつて發見されるだらう。若しルクレチアの如く彼女達が自己の辱を憤つて、自らの刃に倒れたならば、我大和民族は一朝にして種切れになり、僅に史上に其名を留めて永久に亡びてしまふだらう。幸か不幸か吾人の解放運動は此様な効果に至らしめる程に有効でない、又あらゆる女性が小説家の描寫する程に藝術的でないのも亦勿怪の幸ひである。

## 結婚生活は經濟現象

一體私の云ふ理想的結婚にしても、之が繼續的狀態の問題であり、我々人間が霞を吸ひ露を食ふて居ない限り、食物を食ふて生きて行かねばならぬから、勿論衣食住に就て種々の經濟的要件を具へなければならぬ。

まして今日の世間一般の性的奴隸制では徹頭徹尾衣食住の問題許りで、僅に戀愛至上主義の絶叫で其乾燥無味な所に幾分か色艶を附けやうと企てゝも、すぐに其メッキがはけて興醒めな現實の殺風景さが現れる。即此意味に於て今日資本主義制度の社會に於ける所謂結婚は、純粹の經濟現象であり。衣食住を超越した藝術味などは到底求めて得られるものでない。得たと思ふても其は束の間の幻である、得て居ると信ずるのは頭の悪い自己瞞者である。

## 一夫多妻制は一時の變態

此故に私のいふ結婚生活は絶對に一男一女間の關係であるが、一方純粹なる經濟現象としての世の所謂結婚に於ては、一夫一婦は永遠の鐵則でない、唯生物學上の原則として男女の數が略同

數であるから、一對一の關係が維持されて居る丈の事で、例へば大戰後の歐州各國の如く結婚可能な男女の數に俄に不平衡が生じると、忽に男に寄生せねば生きて行かれぬ哀れな女達は、棘ある良心も矜ある自尊心も打棄て、食はせて呉る人に依り頼まなければならぬ。

妻となるは女として最も安定確實な生活法である。妻となる事が出来なければ妻に準ずる形式でも命あつての物種だから我慢する。此様なドン底に戀愛至上主義も何もあつたものでない、今若し又斯様な大戰が時々起つて數多の壯丁を遠慮無く大砲の餌食とするならば、男女數の不平等が可成永續して、或は一夫多妻制が今存する性的奴隸制の中でも是認される事もあらう。併し乍ら生まれた人間の中から特に男のみを奪ひ去る様な戰神の末路が實際來たといふならば、我等が今歐州で見やうとする様な一種の一夫多妻制は本の一時的存在をなす許りで、やがて二三十年もたてば昔の通りの一夫一婦制に立戻るに相違無い。

如何となれば我等の細胞學の或信すべき假説によれば、人間の性決定は卵受精の刹那に決定される、そして人間では卵は性決定に没交渉であるが之に對して二種の精子がある。一が卵に入れば男となり他が赴けば女になる。此二種の精子は常に數學的正確さを以て同數生するのだから、男女の生れ出づる比例は常に一對一である(戦後に男兒が多くうまれるといふのは法螺だ)。其故

よし今の不平均があつても、やがて其も元の平衡に歸するのは生物學上の鐵則なのである。

### 父を確かめる必要上の同棲

資本主義制の下に行はれて居る此性的奴隸制は、斯くの如く簡単な數の比例によつて、機械的に支配されて居る。尙其上に一夫一婦の繼續的同棲を必要とするのは、生まれた子に對して扶養者たる父を確かめねばならぬ其事である。

母子の間柄は昔自然人の生活に於ても本能的に密に繋がつて居た、群民の中の亂婚から族長制度に移つた時、父が事業の後繼者として又助手として子を求めたが、掠奪征服によつて得た多くの母によつて生ませた子との間に、眞に血統上の連絡が確か得らるゝ事は、其時の父たる者の智情共に要求する所の事であつた。今吾人の『文明社會』の一夫一婦制に於ても夫が妻の貞操を追究するは、當然の責任者たる前に、責任と義務の生じ來つた順序を確かめやうとするのにある。

多くの利己的な男性は、其責任をいづれに歸してよいか疑はしい場合には極力逃げやうともがく、子を抱へて自立の力がない哀れな女性は其際最も信頼するに足る男の足元に跪いて訴へる、此時彼女の訴の根據ありなしに關係無く、其信頼に感激していざ引受けやうといふ寛大なる男

は極めて稀だ。斯様な性分が男子に特有なのだから、女性として危険千萬な一婦多夫制を執るよりも自己保存に確實な一夫一婦制に依頼する方が頗る賢明である、之をば私は婦人貞操の利己的(婦人の立場から)存在理由であると見る。即經濟生活としての結婚は斯く一夫一婦制を以て必然の事實とする。

### ◎ 將來或は同棲が無用か

然るに將來に於て此關係は變らぬか。現代の血清診斷學の進歩は異種動物の間の血縁關係を數量的に確かめるのに成功した(生物分類學に於ける蛋白反應)、其原理を更に進めて今父が不明な場合に、其子と數多の想像上の父との血清間に凝聚反應を試みて、眞の父を決定しやうといふ企もある。當分其成功は疑はしいが、原理に於て有り得べき事だから、將來技巧の進歩と相俟つて此豫想の實現されるのは唯時間の問題であらうと思はれる。

若し父子が必ずしも母との繼續的同棲に入らず共確かめ得られるならば、是非共家を立つべき必要も失せるかも知れぬ。又婦人が男子の專制の下に降服せねば自立出來ぬ様な今日の經濟組織が他の合理的のものに進化した際には、其時こそ私のいふ理想的結婚生活が世間一般に實現され

**我等何をなすべきか**

然らば其理想實現の爲に我等何をなすべきか。答に曰く、結婚生活は其根本に於て經濟生活である以上、其理想實現は經濟的手段による外はない、革命か漸進か、其は各人の信仰に任せておく。

斯く將來に對する方針は定まつたとしても、今日の我々の結婚生活はかくあるべきものといくら注文して見た所が、周圍が周圍だから到底不徹底たるを免れない。人の心理にも情性があるから、奴隸を解放しても早速に奴隸根性は抜け切らぬ、抜けぬ所に人間らしい所があると我慢する事だ、何事も一足飛びに行かぬから、まづ古き革囊に新しい酒を盛らう、中には弱りはてた囊がはち切れるのもあらうが、其は同情に慣ひするとしても詮方無い、何しろ酒ばかり新しくても、新しい囊がまだ用意されて居ないのだから……。

今我々のなし得る事は内容を變へる事丈である、外形を改めやうとしても其は膏藥張りかごまかしに過ぎない、ごまかしでない法を執らうとすれば……？

**至上主義一天張は世間見ず**

終に臨んで戀愛至上主義を尙一度考へて見たい。私一人の解釋では、人生はそばである、戀愛は其人生のそばに添へた藥味である（譬が頗る卑近である事は自分でも恐縮せざるを得ないが、古人の曰くと他人の云ふた事を引照する程博學でないから、やむを得ず自分の思ひついた通り、安つほい所を曝露するより外に仕方がない）。

戀愛といふ藥味の中にはわさびの様なピリッとするものもあり、唐辛しの様にだゞ辛いのもあり、必ずしもラヴは甘いものとも限らないのである。所が贅澤な連中は藥味がなきやそばなんかとても食べられたもんぢやありませんねなどと云ふて居る。

さういふ自身でも此藥味を要求して居た一人ではあるが、併し人によつては藥味もなしにおいしく召上つて居られる人もある事を知つて居るから、滅多矢鱈に藥味の有難味の宣傳は試みない。

ブルジョアの小倅共がカフェーの卓にもたれ、毛唐の酒（其中實は輕蔑されて居る和製）の瓶とレットルとに酔ひ乍ら、此藥味のなくてならぬ理由を管巻いて居るのを傍聴して居ると、まるでそ

ばを食はず共藥味だけで命をつないで行ける様な話、翻つて世間を見ると藥味にもありつけず、やつと「かけ」で満足して居る人のが多いのである。

### フルチヨアに濫用されんとする至上主義

更に他の方面から見れば、戀愛至上の叫は虐げられた奴隷共のあきらめのはての捨ぜりふである。鐵鎖に繋がれて巨船を漕ぐもの共が、いつ板子一枚下の地獄に葬られる共知れぬはかない運命を悲しんで、歌ひかわすその哀調である。歌ふ者は此世に望のない餘りせめてもの心やりに、やるせない思ひを歌に托して居る、奴隷を使ふ主人はその亡國の悲歌を彼等が歌ふて居る限り、彼等がおとなしく勤勉に働く事を知つて、安心して居られるのだ。

腹の中からの奴隷はどんな弱い音は吐かうとも、又我々自由人の體はたとひ幾重の鐵鎖を以て縛られて居やうとも、我々の心を縛る鐵鎖は此世の中にないのだ、友よ、感傷に走せて望ある將來を失ふてはならぬ。

(一九二二・十・三・しるす)

### 説のあらまし

一、此論文は、始め女よりも寧ろ男の讀者に讀まれる事の多いらしい「女性改造」の爲に、私の見た理想的結婚生活の諸要件を述べ、之に關して現状の分析を試み、將來私の理想實現の爲に進むべき方向を示し、併せて當世流行の戀愛至上主義の履き違へと悪用によつて起り得る危険弊害を指摘しやうと試みたが、改造社は之を改造の方に掲げた。

二、私のいふ結婚生活とは、一人の男と一人の女とが、夫々豫め多くの候補者を比べた上で自由に撰み出して之こそ我配偶者と定め、そして互に同格な事を承認した上で、其後の一生を二人一體として送らうと試みる繼續的意志が行爲に現はされたものである。

三、此結婚は其二人相互の幸福を第一の目的とする、産兒は結婚生活の充實に伴ふ二次的(重大でないといふ意味ではない)現象であり、常態の結婚に於ける必然の結果である。但し或特殊の場合産兒が其二人の存在を脅かすならば、(出來得るならば、)彼等が科學的方法によつて二次的現象の起るのも未然に防いで、累を第三者に及ぼさぬ様に注意する事も正しい事である。

四、戀愛至上主義の力説する白熱的戀愛は、私のいふ結婚生活の始めにあつた方が其後の結婚生

活を豊富にし、又此殺風景極まる現代生活にうるほひを與へる爲に望ましいとは思ふが、人各々の趣味や情操や人生觀の違ひもあるのだから、誰の結婚にも頗る藝術的な前奏樂がなければならぬと主張するのは、餘りに行過ぎた事だと思はれる。

五、日本の現代人の中で、多數の男は、一般に女性を内心物品や器械視して居る、即妻は彼にとつて字引であり、其以外の女性は小説詩集などの興味本位の讀物と見做して居る。

六、今我々の眼前に存するのは人間同士の結婚生活でなくて、性的奴隸制又は私有財産制の一相たる性的牧畜業である、そして之は資本主義制の下に起る必然的現象であり、其撤廢を計る爲には、何かの經濟的具體的方法によらねば、他の感傷のお念佛や抽象のお説教では、解決はおろか、諦めやうにも諦め切れるものでない。

七、理想的結婚では環境の如何に係らず一男一女の關係であるが、一方現在の性的奴隸制に於ける一夫一婦制に、生物學的に定められた男女等數といふ鐵則の機械的支配を受け、尙女の側では確かな自己保存を全うしたいと望む利害得失上の考へを以て、支持されて居る。其故機械的便宜的な後者は、時として外界の突然變化によつて一時的變化をなす事もあるが、やがて其内に又舊態に戻るにきまつて居る。

八、瞬間的戀愛に於ける三角關係は可能であるが、直に自然消滅する、理想的結婚の三角關係は理論上存在不可能である、即一見して結婚の三角關係（對等性を有する三角關係）と見えるものも、其は一個の飼主の下に二個又は三個以上の性的奴隸が待つて居るのに過ぎない。

九、現在社會に於て婦人の自立は不可能であるから、離婚後彼女及び其附屬者が生活し得る方法を講じた上で男女對等合意の上で離婚するのは、夫妻間の心的體的懸隔が到底回復し得ない程に遠くなつた場合に、當然である。其他輕卒な撰擇や又は自發的意志の無かつた事等、すべて出發點を誤つたものの失敗破綻は、自業自得である。此間の消息を公表するのは後人の戒となつて大變結構であるが、互に他を罵り自ら獨りでいゝ子になりたがるのは、其人の考の淺基さも見えなくて片腹痛い。

十、戀愛至上主義を無差別に誰にも押賣するのは、世間見ずのオポッチャンの仕草か、色彩の乏しかつた青春の日を徒らに過した中年者の返らぬ愚痴の繰言ではないか、更に一方戀愛の空名に唯詠嘆し涙を流して其日を過すセンチメンタリストの多くあるのを、他方では悦んで傍觀して居るタイラントも居る。併し我等の心は縛られて居ないから、唯空想的に自らを虐げ、又は空想的に他を征服する様なはない變態性慾に耽つて居るべき時でないのだ。

## 生物學から見た處女性

「婦人が聖母マリアのやうに安々と處女の純潔を保つ事が出来たならば、ドン／＼と騒がしい音も立てず唯麗しい光輝のみを放つ火花が世の中にあつたならば……其時こそ一點もしみの無い純潔といふ事が、考へ得らるゝ一の理想となるであらうが、まゝにならぬは浮世の習ひである。

其所で今の世の乙女達は唯解剖學にのみひたすら身を捧げて、そして處女の純潔を得る。斯様にして保ち得た純潔から求め得られるものは、唯荒みはてた神経系ばかり。之等のよるべない人々は、可成遅くに結婚する迄は、實際無性的の生活を送る。彼女達よりも莫連女モリスヘンやハルプユングフラウの方がまだましであり、前者は神に捧ぐる爲に野へられた乾果物である。そして此無性的處女と性慾倒錯性處女との間にうろついて居るものをヒステリーと命名する。斯様に見れば處女の問題は簡單である。『フリッツ・グイッテルス。

世の中の多くの人々は「神聖な戀愛」に生き、純潔な靈の交感に神秘的愛の實現を求めて居るやうに、諸作家の作品や又其に感化された青年男女の語に現れて居る。即所謂汚しい肉を超越して唯一靈に生きて居るものの如くであるけれど、實際其等の人々の中に交つて煩悶の筋道をたゞし、又彼等の知りたい事を詮索して見ると、矢張我々の血肉に關した問題の追究が其出發點にな

つて居る事を發見する。

殊に處女の純潔如何を鑑定する法は多數の青年男子の聞きたがる問題であり、且又婦人自身も自己の處女性のありなしを第三者がどうして確かめ得られるかに就て、或人は興味を以て、又或人は不安を以て、ひそかに知りたいと思ふて居る。所が此問題を正しく知らず事には種々の困難が今迄あり、特殊の研究者を除くの外、一般の人は頗るいゝ加減な世間のいひつたへを信じ、其にたよる外はなかつたから、色々のうそや間違ひが世に廣がり。従ふて多くの結婚悲劇や、家庭喜劇を起すに至つた事は遠い西洋の事ばかりでない。即事の真相を上品振つて知らうとしない爲、或は心の底から手が出る程に知りたいのだけれ共之をどうして正しく知るかをわきまへない爲、我々の愛人や姉妹や娘達が其貴い血と涙とをムザ／＼浪費し去る事も起る譯である。

75  
 所で尙此外に次に述べやうとする種々の理由から、是非共此處女性問題の實狀を誰にも知らせたいものであるが、其には文飾の多い廻りくどい説教や思はせ振澤山の文句では一向に其目的を達しかねるし、なほ又多くの誤解が生ずる恐れがある。其故今私は生物學の研究者として短刀直入に之を述べて見やう。斯様な科學的記述に馴れぬ人々には、荒々しく聞えるかも知れぬが、私とても殊更に諸姉の貞淑純潔な感情や氣分を無視し侮辱しやうと試みる者でない、又無用の猥談

に不健全な好奇心を挑發しやうと試みるのでない事は、此一文を終迄通讀された方々の首肯される事であらう。

### 處女性の肉體的特徴

古來人體に就て外觀上處女であるか否かの鑑定に際して、處女膜 *Hymen* のありなしが問題とされて居たが、此處女膜なるものは婦人の外部性的器官たる膈内腔が體外に開く部分を、始め不完全にとざす繊弱な膜である。

未だ性交の經驗の無い婦人、又は例へば自慰の如き性交に似た行爲の經驗の無い婦人では、太抵陰門の近く内側中央に半月形の穴を残して、環狀の處女膜は略完全に膈を外界から保護する役目をなして居るが、通常は最初の性交の時に痛みと出血とを伴ふて其膜は一部破れ、次で性的生活の進捗と共に、環狀一續きの膜は左右相對する二列のものとなり、後には僅に其名残りを膈側壁上に留めるのを常とする。

### 處女膜を重んずる所

此事は古今東西に汎く知られて居た事であり、處女膜のありなしを花嫁に就て調べて見る習慣が各國にある。ヘルシアでは新婚當夜花婿は嫁の身體検査を行ふて、處女でないと知れば其女を追出す習慣があり、エヂプトや或スラヴ族の間では新婚當夜親戚立會の上で裸の花嫁の處女膜を検査する事が行はれる。アフリカの黒人の或者やサモア土人、ラブランド人の中では、同様に處女の純潔を特に尊んで、確に其純潔の證を得た時は、妻の兩親に特に贈物を捧けて祝意を表する事がある。

之等は大抵處女といふ特に清らかな幸福な生活を犠牲とする一種の人身御供の式と、結婚式をば解して理想的解釋を下した次第。聖母マリアの童貞生活に憧憬した中世歐羅巴の思想と幾分か其趣きを同じうして居る。

以上述べた習慣の或ものは、地方により我國でも嘗て行はれた事もあり、別段珍しい事でもない。

### 邪魔物扱ひにする所

併し一方に於ては處女膜を餘り重大視しない民族もあり、又無傷の處女膜は結婚の邪魔物と見



做して、第三者の勞を煩はし此物を除いて、一人前の女にしようと努める風習のある所もあり、傳ふる所によれば、支那と印度の一部では局部の清潔を過度に重んずるの餘り、母と侍女とが其娘の幼時に早くも之を傷つけて取去る事があるといひ、又ベルーでは母が乙女をすゝめて辻君に仕立て、いざ妻となつて夫に嫁する迄に少く共旅人二十人からの贈物を受けるのださうだ。又アフリカ中部やブラジルや印度の或種族では、乙女の童貞を僧侶や族長に捧げる事もあり、又母自身娘の膜を指で除く事もある。

(1) 夫ならぬ長者に先づ身を任せて童貞を終る風習の意義と變遷に關しては、此文起草以後に記された『初夜權 Ju: primae noctis の發生』(友人文學士吉田九郎君の卒業論文)がある。

### 絶對的標準にならぬ

斯様に處女膜のありなしで童貞如何を定める事が今迄一般に行はれて居たが、扱實際性交の經驗有無を性的器官を見た丈で確に決定する事が出来るか、之が頗る怪しい事なのである。

で唯觀察丈で早速に斷案を下す事は、婦人科産科の大家でも輕卒にやらぬ事、今假に専門醫ならぬ者が童貞にこだわつて素人觀察を試みた所で、其結果たる斷案が頗る怪しい事は察するに苦

しくはない。

といふ譯は、第一に人間の身體はセルロイド製の人形の様にとれもこれも同じ寸法に出來上つて居ない。又解剖學圖譜に載せてある圖其まゝに、實際は簡單明瞭にわからない。それで處女膜にしても、人によつては始から發育不十分な場合がある。又存在して居ても最初の性交に及ぶ前に外來の刺戟の爲に破れる事が屢々ある。例へば過激な運動で急に轉んだとか、又は前述の如き過度の洗滌で破られる様な事がある。だから斯様な場合に處女膜消失を理由として其少女の童貞を否定するならば、或悲劇が起らぬ共限らぬ。

又一方比較的完全に保存されて居ても、其人の性交經驗無しといふ證據にならぬ例もある。例へば北歐での例で、一娼婦が妊娠の末死産の胎兒を取出される際にも猶膜が完全に存して居た事さへある。此例の如きは、膜が彈性に富んだ場合で、外にも分娩の場合始めて破れる例が可成多い。

つまり生物界では移り變りが順々になつて居るから、實物に就て觀察を、試みる時は、中々處女非處女の區別がつかぬといふのが本統である。若し誰かが之を立所に看破して見せると云ふたら、其はかまをかけて釣出さうとする法螺かそれ共其人の學問の足らぬせいだと解釋して一笑し

附していゝ。此説に不服な醫學者がおありならば、一九一九年バリの大學教授ジェルルの著した婦人科學を見て、童貞鑑別の困難を示した數十の圖を御覽になれば、多分會得が出来やう。尙又法醫學の大家トアノー教授も、此鑑別の困難な事であり、専門家たる者が輕卒な斷案を下す事の危険を繰返し述べて居る程である。

### 處女性鑑定の可能性

斯く肉體に就て處女性の實證をひたすら處女膜に求めても得る所は無い。其他々々に求めても確かに鑑定は出来ないと言ふのが、實狀に就て正直な告白である。

尙近頃血清反應によつて處女非處女の鑑別をなすといふ研究も行はれて居るが、其原理は他の機會に於て詳しく述べたいが、要するにまだ實行に迄及んで居ないと云ふて宜しい。

### 處女膜存在の意義

序で乍ら此膜が何の役を務めるかに就て、一三の假説を述べやう。一體人類の女兒に於ける處女膜は極微々たるもので、成長と共に著しき發達を遂げ、終に陰門の殆ど全部を閉ざすといふ此

事實は、進化論から見て、つまり處女膜が人類に於て特に著しく發達した事を示す次第、實際人間以外的高等動物に見ても明白である。併し獨逸の或學者の述べる如く人類以外には皆無だといふのは極言であり、發育不十分な處女膜を他に求めるならば、猿、象、熊、犬、豚、馬、ヒエナ、シラフに迄存する事を米國の醫學者は發見した。だから處女膜は婦人の童貞を保つ爲に神の與へ給ふた封印であると、中世紀の羅馬教會と同じく主張するならば、斯様な倫理道德的解釋を猿、象、熊のたぐひに迄及ぼさねばならぬ苦しい破目に陥らざるを得ない。

次にメチニコフは、此膜は太古人類の亂婚時代は少年少女が早期性交を行ふ場合に、性交器官の外づれる事を防ぎ精液流出を妨げる爲の袋となつたのだと説明した。之は次に述べるエリスの説明とは正反對であり、聊かこぢつけらしい氣がする。

終にエリスの曰く、此膜は充分活力を具へ成熟した男子が接近する前に、未熟虛弱の少年を退けるに役立つたもので、父としてヨリ強くヨリ圓熟した者を迎へる働きをなすに至つた装置として、人類の進化に與かつたものであらうといふのだ。誰でも此解釋ならもつともと思ふであら

### 横暴な男子の求めた童貞

斯様に處女膜が何所でも問題になるのは、元來今日迄の文化が男によつて専ら支配されて居た結果で、云ふ迄も無く處女膜其もの倫理的價值よりも、又生物學的意義よりも、男子の自分勝手な要求が大なる影響を及ぼして居る。即いつでも魁を争ふ男共の利己心の現れが、婦人獨特の領分たる彼女の肉體に迄及んだ次第。云ひかへれば、其清純な女性を我物とした最初の者として暴威を揮ひ、且又彼女と相語らふた最初の男だといふ虚榮心を充したがるのだ。

そして處女膜力説を招いた他の一理由としては、婦人側の性的感情を認めず、其を全然無視し、婦人自身も男性心理を丸呑みにした點がある。即良家の子女たる者は貞淑純潔なるべしと、勝手な眞似をして居る男共の虫のいゝ要求に従ふて、御無理御尤と童貞の證據として處女膜の保存に一生懸命になつて居た。

斯様にして處女たるの要件はひたすら處女膜の守護とのみ親も當人も思ひ込んで居る事は、童貞の肉體的證據にのみこだわつて、それよりも肝腎な精神的條件を無視した頗る唯物的な淺薄極まる話でないか。今少女が生理上抵抗不可能な暴行を受けた場合、彼女の名譽は泥に塗れたとい

ひ、もし縁談が成立しかけて居ても其を理由に男から破談も出来るし、次第によつて其少女が自ら進んで悲劇的運命の中に陥るは、世に多く起る自殺者や、失戀の後の淪落の女に、其例を見る事が出来る。

そして一方處女膜さへ保存して居れば満足して居れるお上品な娘達は、思ふ存分小説愛讀やダンスや其他色々の Flirtation に享樂を恣にしておき乍ら、他方「傷者」になつた憐な姉妹を白い眼で見下して居る。斯様な純潔の保ち方をば、前に引照した獨逸の一學者は「解剖學にひたすら身を捧けて一身の純潔を得る」のだと形容した。

### 形式丈の童貞

眞の純潔が得難い時代には、唯純潔其ものの外形のみを探し求める。昔ギリシアの白柏子<sup>パルラス</sup>でネーラといふ有名なたをやめは女奴隸七人を雇ひ、其女達の肉體を各々四回乃至七回煩はして新しい處女性を得た末、終に自身は全く生娘として泥足を洗ふたさうな。其後中世歐羅巴では此童貞人造法が発達し、處女膜の縫ひあはせと腔から出血せしめる事で、娼婦は繰返し處女を裝ふて莫大の金を得たといふ話。其當時の「婦人節用集」<sup>Frauenkammerbuch</sup>にはわざ／＼「いせこ女」Sophisticatio virginum

と一項を設けて書いてある位だから、可成盛んに斯様な事が行はれたものと見える。元來此膜は肉體の一部なのだから、時によつては自ら縦裂が左右から癒着する事も起るので、此特性を外科的に利用した次第である。

### 其の他のからくり仕掛

尙又解剖學の大家ヒルトルに據れば、アジアに住むユダヤ人やニュージーランドのマオリ族、それからキルギス族の間では、新枕の床が必ず花嫁の血で染められねばならぬとし、不幸にも清淨であつた時には其結婚は破れるを常とした。所が其中の或族では、清淨無垢の乙女でも時には出血せぬ事もあるのに賢くも氣がついて、其後は醫用蛭を豫め用意しておいて、いつでも必要な條件を充し、吉例の通りめでたくになるやうな仕掛にしたといふ事である。

尙又現代歐洲にも同様な事が行はれて居る事に就て、伊太利の性學者マンテガッツァも記すやう、或怜悯な娘は鳩の翅の脇から得た血を海綿に浸して準備した事もあり、他の娘は結婚式の日を慇と注文して月經最終の日とし適宜按配したといひ、又バリの或有名な浮れ女は彼女の童貞を八十二回金に代へたさうである。但し斯様な事は遠い西洋の例に徴して博識を衒ふ迄も無く、私

の様な京わらんべの目の前にゴロ／＼ある例かも知れぬが、燈臺元暗しといふ譬もあり、西洋の話丈で御免を蒙つておく事にする。

### 男に觸れた後の變化

古羅馬の世には、一度乙女が男を知ると、其翌朝から俄に首が太くなり始めると信じて、男は彼の乙女の首に緩かに卷附けた紐が一夜を過して窮屈になつたのを見て安心したそつだ。

此迷信の名残りも可成久しく續いて、十八世紀に「色道大鑑」と題した字書には「或人々の信する所に據れば、鼻尖端より鼻梁に沿ふて上に上り、頭蓋の矢狀縫合が側面より來る角狀縫合と合する點迄の長さが、清淨無垢の乙女の首の太さなり。」と書いてある。なほゲーテの Venetianischen Epigrammen といふ詩には

「あゝ、我頸は僅に太くなりぬ」と、我よき女は氣づかはしげに語れり。「靜かに、我女よ、靜かに、其語の意を知る所あれ。ダイナスの御手は汝に觸れたり。彼女は靜かに云ふ、曰くおんみの身は、あゝ、やがて間も無く變り果つべきも詮なや、おんみの優しき姿も亡び、おんみのさゝやかなる乳房も失せて、今やすべて太らんとす。新たなる衣もいづこにもふさはず。唯穩に靜にあれ。そは花守に、散り行く花の教ふ

るがごと、秋來なば、愛しき果の生ひ長けて太り實らん。」

## 結 論

斯様に色々の例を擧げて見たが、結局今日の所唯外觀上の視察許りで處女の純潔を實證せんとしても、百發百中といふ様な妙法は無い。成程一度異性の肌に觸れたならば、ゲーテの歌ふた程で無く共、體内に或變化が生ずるのは當然と思はれるが、此變化を確かめる法は將來の問題に残されて居る。(血清反應による鑑定法も、今の所余程吟味した上でなくば、信用は出來ぬ。丁度ほうり出した錢の裏表を占ふ様に出鱈目でも百分の五十は的中する確からしさがあつたから)。扱私は生物學者としてひたすら「物質」に就て處女膜を考へて見た。併しどう考へて見ても、私は一青年としては、處女膜の完全な存在以上に處女の純潔があるものだと思つて居る。

上述の歴史的變遷を見てもわかる通り、處女の物的證據たる處女膜をのみ偏重する事は、其時代の病的特徴だと見ていゝ。私は多くの青年學生から此事を聞かれる毎に、果して之等の男子は自分が異性に要求する様に、自分の方でも愛人に捧ぐる捧げ物として童貞を持つて居るかを疑ふた。此考へが話にも幾分現れたらしくして、聽衆側からも「お話は童貞を守つて居る人達の爲に計

りせられる様な傾があるが、失ふた人達を救ふては如何です。苦い經驗を持つた者でないと、性教育を一生懸命に求める者ではありません」とお叱りを受けた。尙又多少憤慨した人からは「童貞の價値如何、又童貞を破りし者を攻撃すべきか如何」と眞正面から攻撃を受けた。

如何にも形式的に受働的に維持された童貞は、惡戰苦闘しかも戦ひ利あらずして奪はれた純潔に比して、決して道德的價値は多くないのである。

「人類の結婚の歴史とは、婦人が男子の情慾と偏見と利己心とに對して、徐々勝利を占め來れる形勢其ものの歴史である。」ウエスマーマーク人類結婚史。

其我まゝな現代の男の中にも、異性の純潔を要求する前に、まづ自己の童貞の内容を反省して見る人々が續々現れて來た。

現代の青年男子よ、青年女子よ。吾人は須く處女膜を超越せねばならぬ。でなければ……「唯物的」な科學者にさへ笑はれますぞ。

(一九二二年八月十三日京都市外字治町にて) (一九二二、十月 女性改造創刊號所載)

## 實物教授をしてくれた時代の犠牲者

### — 寄稿要求のお断り状 —

「性的新道德の提唱」に就て私見を徴せられた事は、私の光榮ですが、又頗る迷惑とする所です。昨今世人の横面をこれでもかくとどやしつける様に、續出する性的葛藤や破綻に關して、私は人前に喋々と所見を述べるのに躊躇致します。其理由は至つて簡單です。

『爰に姦淫を爲せる時執へられし婦ありけるが、學者とパリサイの人これをイエスの所に曳來り、群衆の中に置きいひけるは、師よ、此婦は姦淫を爲しなる時此まゝ執へられし者なり、斯の如き者を石にて撃殺すべしとモーセ法律の中に命じたり、汝は如何にいふや。此いへるは、イエスを試みて訟の由を引出さんと思へるなり。イエス身を屈め指にて地に畫けり、彼等が切に問ふにより、イエス之に起て曰けるは、爾曹の内罪無き者まづ彼を石にて撃べしと云ひ、又身を屈めて地に畫けり。彼等之を聞きて其良心に責められ、老者を始め少者迄一々出て往き、イエス一人のこる……』新約聖書、約翰傳八章。

即「爾曹のうち罪無き者、まづ彼を石にて撃つべし」の一句に、私のお断りの理由は盡きて居り

ます。

併し私一人の感じを申しますと、石原博士がカチ／＼の問題に没頭して居ながら、一方あの燃ゆる様な熱情に富んだ歌を生む丈の餘裕を保留し、尙其上に其歌を獻する相手を發見せられた事を羨しく思ひます。(私は無鐵砲ですから「衷心ひそかに」などと上品な云ひ廻しは致しません)。又「四十二にして微塵」となつた心の持主故島村先生が、寂しけであつたがしかも活き／＼した感情を包んだ面持で、松井さんと宇治川の船遊びをせられた時の面影を思ひ出します。チャールズ、ダーウインは、老いて後詩にも音楽にも樂み得ない己が心を嘆きました。其點だけでダーウイン以上にえらくなりすぎた學者は、其所此所にあるやうですから、そちらの方は貴方で御如才無く御用命ある事と存じます。

一體家庭の中でも、各々の隔りは相對的です。一方が延びて他方が昔ながらであれば、隔てが出来るのは當り前です。交通機關の發達で科學は空間を縮めました、だから時間に於ても、我々の一生が昔人のその幾倍もの内容を含むのは當然です。従つて路傍の人同然になり終つたと檻の中で我慢して居る必要は無し。もしあの位置に私が置かれたら、もつと躊躇せず突貫するでせう。但し自由に成長した男が、一方必要以上の家事に追廻されて生長を妨げられた女を、棄し

ていふといふのではありません。唯一旦隔たりが出来もはや其を充す見込みもないのに、強ひて同棲を続けるのは双方にとつて苦痛です。子供のあつた時ならば、子供達が親の敵視争闘又は冷な對峙を傍觀するのは却つて有害です。わかれたい者は物質的要件を公平に按配した後、サッサとわかれるがよい。此點に於て近頃の問題は、濱田榮子さん丈は別として、皆今迄の一時逃れ膏藥ばりと違ふから、大に我意を得て居ると思ふ次第です。さういふ放言をして社會に及ぼす影響を顧みぬのはけしからんとお叱りをうけさうですが、一體存在理由を缺いた唯一片の形式の解體にさうくびくつく必要がどこにありますか。今後色々ベテン細工やごまかし代物が市場にノコノコ出て來ない様に、絶好の實物教授をして呉れた時代の犠牲者に、我々は感謝せねばなりません。

成程今の代は戦慄するでせう。『石よ何故飛ばざるか、あゝ〇〇は近づけり』の絶叫を思ひ出して、ソロ／＼石が飛びかけたかと首をすつ込めて桑原を唱へて居る人もあるでせう。併し乍ら一方に於て、家内老若の對抗や、嫁いぢめや、心中や、金權に對する賣笑結婚や、名門家系の購買契約などと、色々な悲しくも亦馬鹿々々しい事共の起る數を減する點に於て、來世は現状打破の今の此様に大なる悦と感謝とを感ずるに違ひありません。我々は子供達や孫達に、心中させたり、身賣させたり、嫁を金で買はせたりする事の無いやうに、今の世に精々出来るものゝ埒を明

けておく必要があります。家庭紛擾に浪費されなかつた私の過剰エネルギーを他に用ひ得る事に於て、因襲と虚偽とに向つて私共の問題をほゞ解決して呉れた親に感謝して居ります。恐らく西村伊作さんも御同感だらうと思ひます。だから子供達に怨まれぬやう、(時として世の子供達の或者は親を怨む權利を有する不幸に陥る事もある)お互に精々努力しませう。働いたとて、無論親心には御禮を云ふて貰はうなどと、資本家が投資する時の算盤勘定などはない筈です。

今度の絶縁狀一件でも餘り野次共がワイ／＼云ふものだから、此様な經驗を始めてする(さう／＼幾度も經驗されては困りますが)當事者は、其ワイ／＼に餘程影響をうけて、必要以上に恐縮したりビクついたり、或は實感以上にけしかけられてむかついたりして居られるやうです。併し實の所は双方共にせい／＼したと感じて居られるに相違ありません。一寸考へると十一年もまあよく双方で辛抱したものだと思ひますが、併し始めからお二人共にさう／＼今新聞で書いて居る程自覺があつた譯でありますまい、つまり歌集と新聞の崇りなのでせう。

凡そ世の中でタイラントたらんと欲する夫は、決して妻に歌を作らせてはならぬものときまつて居ます。如何となれば、第一によし夫が代作しても妻君の名で發表する方が問題になる當世の事です、第二に妻君自身の作歌だと尙更險呑です。其譯といへば、ホームシツクに罹つて故郷の

親に手紙を書いて居る時とか、碎けた心を抱いて親しい友にやるせない悶えを告白する時とかにはいつでも、書いて居る内に、云ふて居る内に、自分の感情が昂つて来て、涙がホロ／＼こぼれさうになるのを常とします。女ならぬ男でさへ、少し許りの自己暗示で泣く事が出来るのです。(併しフローベールの作品の一、マダム、ボヴリーの一情人の様に、ずるい男は、別を告げる手紙の末筆が乾かぬ内に、海綿を絞つて落涙を即席人造してインキをボタ／＼にぢませる様な芝居をする事もあります。其は例外です)。所で斯様に誇張された感で書いた歌を發表した時、他の人が之に感心して泣いたりほめたり歌を寄せたりする。此場合に於て我々公けに説を述べざる者によく經驗する事ですが、自説が數有る人の口を通つて本家本元に逆戻りして來る場合に、自説に忘れっぽい人はよく手製品に感心の仕直しをする事があります。女の歌よみでも丁度其調子で、手製の悲しい氣分が色々の所からしかも多くの口や筆を通じて逆戻りしてきます。斯様な自己暗示と群集示唆とが積り積つて、始め別に王昭君だとも思ふて居なかつた人が、さう／＼する内に成程自分は王昭君に相違無いといふ確信を得て來る。卒直に申せば、今も猶熊鷹の國で金貨と石炭に充ちて居ても文化の低い所では、若返り法や其他の『世界的大発見』の續出以外に、思はしい『社會種』も無いので、暇潰し方々あかがね御殿に日參して『筑紫の女王』に伺候する。其所で

前申した暗示々唆の上に活字の魔術が加はつた次第です。

一體我々は新聞で丸切り跡形も無い悪口を書かれた時ムキになつて憤慨しますが、同時同列に書かれた他人の事は半分位は本統かなあと思ふ事があるのは、頗る辻褃の合はぬ事ながら事實なのです。何もかも活字の魔術ばかり、ジャーナリズムで綺麗に塗り立て寫眞畫報挿畫で飾つた貴族富豪の家庭といふ舞臺が、ぐるつと一廻轉したら、後のつつかい棒や穴埋めや張子細工が皆見えしました。教育事業としての新聞の價値に感心せざるを得ません、富豪と貴族とにあこがれる御婦人方の數が多少減じた事でせう。

93

ジャーナリズムで賣出した人が、同じジャーナリズムに葬られるのにも別段不思議はありません、『天に迄あけられたるカペナウンは……』です、『河だちは河で果てる』のです。但し宮崎さんあき子さんの話が本統なら、精々世間でワイ／＼云へば云ふ程、其がブライダル、マーチの妙音樂として將來に思ひ出多いものと御兩人の記憶に残りませう。私も胸に思ひ當る節が無いでも無いやうです。いやあまり書きとばすと、厚顔無恥の私が首出して來ます。序で乍ら、泣菫さんあたりの代筆らしい名文でお馴染になつた素樸な九州男兒傳右衛門さんも氣に入りました、不眞面目と叱られても、實際ハリスト系の黄色紙を讀んでるか、キネマを見て居る様な感じがする事を



告白しておきます。

どうも色々駄辯を弄しましたが、決して「人をさばかう」としたものではありません。何しろ圓燒氣分をたねにして、ペダントリーの衣を掛け、原稿引延ばしのジャーナリズムのだして、タツプリ天麩羅を御馳走する事は、私には到底出来ませんから、残念乍らお断り申します。

追伸。殆ど毎月一つ宛政治的變事と互違ひに、性的問題が起り、封切フィルム全何巻の映寫が終らぬ中に、早くも他の新しいのと取換へるやうな眼眩しさを新聞記事の上と感じます。映寫技師も忙しからうが、見る方でも随分疲れます。だから此率で、一ヶ月たつて後更に又新問題が突發しないやうに希望します。其わけは、其時毎にお断りするのも面倒ですし、それにも一つ、何やら『あすは、我身の上』といふ様な強迫観念もある事ですから。(一九二二年十一月二日記す、一九二三大觀新年號所載、雜誌大觀社相馬由也氏に宛てた手紙)

### 近代の男の抱く女性觀とヤドカリ

女は一般に自己分析が出来ない、いや出来ぬのでなくてする事を欲しない。だから女性自身の女性觀なるものは、嚴密なる意味に於て、此近代に於ても存在しない。併し借物の女性觀ならば、いかに獨創性に乏しい女性にしても何か持合はせて居る、但し之は勝手氣まゝな人間の考へる事だから、どうせ手前共に都合のいゝ又蟲のいゝ注文にきまつて居る。此邊のコツをわきまへて活殺自在の手腕を振廻さなければ、婦人雜誌に原稿を賣込む事は出来ない。又コツをわきまへても其丈ではダメ、矢張融通をうまく利かさぬと、私の様な外交のまづい奴は婦人文化の講座から忌避される事にもなる。

男の抱く女性觀には色々ある、無論之も我まゝ勝手な男の發明だから、手前勝手なのが常態であり、公平無私不偏不黨などと申すのは、政黨屋の看板同様に眞赤な嘘である。併し同じ蟲のいゝ考の中でも、女性に受けのいゝのと、テンで御婦人に受けつけられぬ不人氣なのがある。換言すれば、男性が手製した女性觀にしても、女が借りて暫くでも我物の様に飾り物に利用が出来る

ものと、とても借用の出来かねる不埒千萬のもの（例へばニーチエやシヨベンハウエルのそれの如き）との別がある。

中世紀歐羅巴の騎士の渴仰した美人や、ゲーテのあこがれた「久遠の女性」やは、近代の御婦人とても敢て御断りになる心配は無い、近く我日本の文壇に例をとつても、花袋氏の初期の作品によく現れる「美しい眸の峠の茶屋の娘」も宜し、「出家と其弟子」に出る遊女なにがしでも御婦人側に何の異議もない筈、つまり婦人雑誌の表紙畫にある様な艶麗な姿を具へて居り、純潔無垢の乙女心をもつ者としておきさへすれば、他の生活作用を無視しても成立する假想的女性が其等人々の偶像である。

私の少年時代に、當時の論客竹越三又氏が其頃の外交を批評して「丹治郎外交」といふたのを、今でも覺へて居る、其語の意味は、「梅曆春告鳥」の艶物語の中に活躍する米八や仇吉等の美妓が、何を著何を味はひ何を飲んで其生命を維持し、何所から金を得て其色香を保ち得たかを記して居ない、恰も其梅曆の其物語の如く、時の外交は徒らに美辭麗句を以て人のすき心を咬る丈で、其國際的耽溺遊蕩費をどこの親父の脛をかぢつて支辨すべきか、一向無頓着であつたのを諷

したのであつたと記憶して居る。

近代のフェミニストは、往時の遊蕩文學者爲永春水の描いた遊野郎丹次郎では輪からうから、畫にかいた聖母マドンナはいざ知らず、現世のグレートヘンやエヴァンゼリンは矢張霞を吸ひ霧を食つてばかり居られない事を、よく知つて居られて、母性保護などといふ近代的に世帯じみたお添物迄加へられる様にはなつたけれ共、それにしても矢張昔のまゝの「梅曆式」の考へ方は残つて居ないかしら。

生物學の方で有名なヘッケルの文句に「個體發生は系統發生を繰返す」といふ語がある。我々男共が青春時代に抱いて居た女性觀の變遷の跡を回顧して見ると、丁度近代に於ける色々の女性觀の消長と同様な變化があつて、前のヘッケルの句と同様の現象が一般に現れて居る。始めは眼を天の一方に馳せて足は地に附かぬ聖女崇拜の態度、次は其美しい夢も俄に覺めて苦々しい現實に引戻された時の失望落膽と自暴自棄、其暴風激動もやがて過ぎて自分達と同じ人間たる異性の發見と共に湧き出る人間味、斯様な變化は文明諸國に於ける諸種の女性觀の運命にも見えて居る。

個人の心的成長に斯様な進化を辿りたければ、近く武者小路實篤氏の作品を始めから近頃迄讀んで見よ。詠嘆的な女性禮讃から始まつて「蒲團」の現實曝露を経て今に及んだ田山花袋氏の女性觀を見よ、人各々傾向の異なるに従ひ、思想の卵から這出て幼蟲となり暫く蛹と化しやがては翅を具へる成蟲に到る迄、多少の遲速もあり、又充分に完全な發育も遂げず、途中で發育を阻けられたまゝ小ささがたまりて固定するものもあるが、大體は斯様な發育變化を遂げるものと見ていゝ。

生物の個體發生でも途中で何か故障が起ると、邪魔されたまゝ一生其未熟の状態を持續して終るものがある。人の胎兒の男は母の胎内にある時始め陰囊を具へて居ないが、妊娠の晩期に及んで腹壁が下つてきて袋となり其所へ精巢を收める様になる。其が邪魔された儘世に出た胎兒は辜丸を腹腔内に潜めてあり、青春期になつても眞の男になり得ない、此の状態を「性的兒性持續症」Sexual Infantilism と云ふ。

又母の胎内に居る時、周圍の液體が不足して窮屈であつた爲、左右から癒著すべき上唇の發育が妨げられた時、例の兔唇になる。之は生後外科手術で縫ひ合はせられるが、矢張個體發生の間の發育阻害である。

私の見る所によれば、個人の心的發生史に於ても、民族の思潮發達の中にも、斯様な發育阻害が屢々起るのではないか。人によつては青年時代に抱いたまゝの感傷的女性觀を維持したまゝ満足して居られるのは、辜丸潜伏と同様な性的兒性持續症であるまいか、兔唇と同じ様な心的發育停止の現象でなからうか。

無論一方から見れば、外界に對する適應といふ事もある、まきがひを追出して貝殻の中に這込んだヤドカリは、其自身エビやカニと同類で缺も持ち乍ら、貝の中に落付けた尻尾の端が安全な防禦設備の爲に軟くなつて螺旋狀の殻の中に根を下した爲、今更殻から出る事もできず、終生殻を擔ぎ廻つて居る、近世フェミニストの中で或男達は、此ヤドカリの様に、若い時ふとした思ひ附きで、宿を借りたフェミニズムといふ殻を、其場の行き掛りで終に一生擔ぎ廻る様な有難い幸福と且又安全な生活の保障を得た者も、あるやうだ。御婦人向きに人氣のある通俗小説を書く連中は大抵此種のヤドカリと見て差支へないだらう、基督教會とか矯風會とかいふものも、斯様なヤドカリ共の殻と見做す事が出来る。

斯く云へばとて、世の多くのヤドカリ共を非難したのではない。廣い自然界の種々異つた環境

の中に生きて行く生物は多種多様である。萬づの物住むに時あり、所あり、女性観といふ小宇宙の中に於ても、ヤドカリをして永久にヤドカリたらしめよ、又一方カニをして永久に横這ひせしめよ、エビをして終生自由なる活躍を続けしめよ。

(一九二三年四月六日京都市外宇治町にて) (改造一九二三年五月號所載)

### 婦人雜誌と猫

我日本の性研究者の或者が唯一の虎の巻として居る「性の心理」の著者ハヴェロック、エリスは、性學の大家であり醫學者であると同時に、極めて勝れた文人である。此人が近頃著した隨想錄第二卷 (HAVELOCK ELLIS (1921): Impressions & Comments, 2nd. Series.) の序に、自分も老境に入つて、今迄事に觸れ感じた事共を將來系統だつた著述にする事も覺束無いから、取あへず所感を順序も無く書き列ねて公にしたいと述べて居る。

即「秋になれば、木の葉ももはや何の生活作用を營む必要が無い事を、我々は承知して居る。それらの葉が木に縋りついて居るべき必要は無い。そこでそれらを木枯しの風のまに／＼吹き散らさせて見やう」。斯く吹き散らされて來た葉の幾つの内、私の目に觸れて面白かつたものを二つ程紹介して見やう。

\*

\*

\*

\*

「八月十五日、私は田舎行の或列車のすいた一室に入つて、自分の席の側に残されて居た極有觸れた體裁の雜誌を手にとつた。それは安い週刊雜誌で、嘗て名も聞いた事も無いものだが、婦

人向きで確に其發行部数は莫大なものであらう。私は其各頁を繰つて見た。恐らく誰でも想像する事なのだが、目下の形勢から見て、婦人一般は女子参政權運動に關して非常に興奮してゐるか、又は少く共多少の興味を持つて居やうと思ふかも知れぬ。所が其雜誌には始めから終り迄参政權の参の字も見當らぬ。又現に我々が見て婦人が参加して居ると思ふ社會運動の各々に就て、一言も費して居らぬ、又思想とか宗教とかいふ題目には全く觸れて居ない。所で一方に於て此雜誌の讀者の頭を悩まし又肩を入れて居る三大問題といふのは、三個のシー (Clothes, Cookery, Courtship) 即著物と料理と異性の愛を求め事である。どうして古い帽子を買ひたてに見せる事が出来やうか、砂糖漬の製法、或男が接近して來た時如何に振舞ふべきものか、之等の問題は此雜誌の讀者が深い興味で取扱ふて居るものであり、之れ以外に彼女達が思ひを及ぼす事があらうとも考へられない。』

「殊に教訓に富むのは記者と讀者との問答で、色々の問題が論じられて居る。例へば、今假に或女は或男を好いて居ます、そして其男も其女を好いて居るやうに女自身も思ふて居ますが、其男は口を出して何も申しませぬ。記者様、此際何としていふものか、どうぞ教へて下さいませとある。其に對しての答は、此問が極めて眞面目な事を認めて、親切に賢明にさながら母の様に、

此小天地の中の讀者の頭の程度に應じて、立派に調子を取つて答へてある。』

「併し彼女達の世界は何と小さいものだらう。斯様に狭く、又石器時代の様に斯くも古い、又いぢらしい程單純で善良で柔和で謙遜で、そして徹頭徹尾女らしく出來て居る。此薄べらな月並雜誌の悪い印刷の頁を繰る時、一滴の涙を落すまいと努めても困難である。』

日本で何々世界とか何々の友とかいふ雜誌は、決して薄べらでもない、又其印刷は不鮮明でもないが、エリス老人に見せたら、矢張一滴の涙を濺ぐだらう。併し中にアインシュタインの相對律解説などを堂々とのせて居るものもあるから、流石は日東島帝國の婦人文化はゑらいものと感じて其涙を引込ますが、それ共又感涙に咽ふかも知れぬ。扱其感想はそれ丈でしまひではない。

「扱それから私は、持参の雜誌で前のは大變趣きの違ふものを出して讀んだ所が、之には女性尊重主義を奉ずる或男の學者の書いた熱烈な宣言が載つて居る。それによれば、現代に於ける實行の力は婦人の手に移つた、そして婦人のみが「心的透視力」Psychic vision を有し、且又男

子が無視して居る重大問題に興味を有するのは婦人のみであるさうだ。そこで私は合點した、即此重大問題といふのは著物とお料理とそして異性の愛を求める事なのであると。」

『三月二十日、前日一匹の猫がカーヂの町の發電所の配電盤にはひ上つて電線にからみついたので、全市は暗黒の中に陥つた、そして其猫は此一大事業を果して其一命を終へたのだが、其猫がサンヂカリストであつたとも、或は女權主張者であつたとも一向判然しない。併し我々が向つて進みつゝある文明其ものにとつて、此猫の冒険は意味深いものである。』

『あらゆる文明は、その文明を造り上げた人々の理智と同情と互の信頼とに關係がある。野蠻時代はさうでなくて、其頃「各人の家は彼の城郭」であつた。即人は彼の一族と家來共を引つれて、家に閉ぢ籠つて社會から獨立し、よし社會が彼に對して憤つても其無力を嘲ける事が出来たのである。』

現に東京の或富豪は、近頃は工場を經營すれば爭議が起る、借家を建てれば家賃は制限される様なうるさい世の中だから、品川のお臺場の様な所に鐵筋コンクリート建の屋敷を建て、眞逆の

時には金貨と食糧品とを携へて籠城すると、本氣になつて計畫して居るといふ話を聞いた事があ

る。

『今や人の家は彼の城郭でない、あらゆる低能兒、あらゆる無茶者が彼の死命を左右する。一寸觸ればすぐ齒車を外づせる様な華奢な仕掛けのからくりで、彼の生活が調節されて居るのだ。文明ほどこわれ易いものに外に又とない。如何に高度の文明でも、それが面して居る多種多様の危険に對して、終り迄頑張り續けた例は無い。今日腕白小僧の様な大人は誰でも、社會に對して「俺のほしがつて居る飴ん棒をくれ、くれなければやお前の生活が辛抱出来ぬ程ひどい目にあわしてやるから」といふ事が出来る、して又其いふ通り暫くは其腕白の爲に、我々の人生が耐へ難いものにされるのだ。』

此事を獨逸のニコライ教授は、急行列車の前に立つ人間に譬へた。即社會といふ大組織の前によし一個人が頑張つて見ても、急行列車の突進して来る軌道上に犬が吠へてる様なもので、いくら吠へてもごまめの齒ぎしりて到底埒が明かぬと多くの人は云ふのだけ共、實際軌道の傍に居

る一人の男が、今走つて来る汽車は氣に食はぬから止めてやれと思ふたら、唯一投手の勞、軌道の繋ぎ目のネヂに觸れ、ば、よし犬には出来ない藝當でも、理知を具へた人間ならやりおほせる事が出来るといふ譬へ話である。

左側通行や節約の宣傳、夏休みの短縮などの外形上の變化にクヨクヨする前に、まづ我等の文化生活が此様に密に繋がれており、しかも社會といふものは案外やにこいものだといふ事を會得しなければ、何事もウソだ、萬事は氣休めである。

(サンデー毎日一九二二年九月十日所載)

# 生物學篇



## 世界將來の人口「めのこざん」

現在の二百倍になるといふニコライの説は空想か

近頃或有力な通俗的科學雜誌社の幹部の一人である衆議院議員某氏が、其雜誌に載せた「科學的見地より太平洋會議を見る」といふ論文の一節に

『非科學的なる空論と、事實に基礎を置く科學との、如何に懸隔あるものであるかを實例によつて説明しやう。ロシアのニコライと云ふ學者は曰く、現存の世界人口は十五億であるが、將來は此二百倍なる三億の人口を包容する事が出來ると。併し彼の此主張には何等の科學的根據があるのではない。彼は理由を一言も説明せぬ。(中略)ニコライの説に空想だが、メナニコフの科學的説明で行けば、或は其空想が確實に成立するかも知れぬ。併しニコライ丈でどこ迄も空論であつて取るに足らぬのである』。

とある。所が某代議士にも私にも頗る遺憾な事ではあるけれ共、獨逸(ロシアといふのは某氏の記憶の誤?)のニコライ博士の著書たるその「非科學的空論」、即「戦争の生物學」(一九一九年第二版)をば、理科大學動物學科を出た私が「取るに足る」と認めた上、昨年一年を費して其上巻を



譯し、「戦争進化の生物學的批判」と題して公刊した。

だが、日本といふ貧乏國のたしない租税で維持されて居る所謂最高學府の御世話になつた上、しかも「取るに足らぬ非科學的空論」に一年も貴い時間を費してこだわつたとすれば、納税者に對し學校に對し又廣くは世間様に對し頗る相濟まぬ次第である。だから殊更に事を構へ國民の選良に挑戦するのを好む譯ではないが、矢張譯者として原著者に代つて辯明しなければならぬ破目に陥つた。此際無關係の方々にも一應「學者の空論」かどんなものであるかを説明したいと思ふ。

成程某氏のお説の通り、その原書第五四頁には左の表が掲げてあり、しかも其算用の出し方に就ては何も説明を加へてない。

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| 地球上に住み得られる人口の概數(單位、億) |           |
| 未開時代                  | .....一    |
| 農耕時代                  | .....一五   |
| 現代                    | .....二〇〇  |
| 最大限                   | .....三〇〇  |
| 勢力學時代                 | .....三〇〇〇 |

現に此通り二百倍でなく、二百萬倍になる筈だと書いてある。某氏のお話には萬の字が一字ぬけて居り、之には四桁もまだ大きい數が書いてあるが、別段に何共證明が無い。一般むきの讀物としても、別に立論の根據を擧げないのは怪しからぬと思へるが、扱其本を抄譯でなしに(抄譯は大日本文明協會出版のがある)原本に就て讀むと、一通り自然科學の素養のある人には如何にも證明が不要な様な書き方がしてある。其をまづ受賣して見ると...

一體森羅萬象は其生命の有無を問はず、皆各々限り無く尠大な物に生育して行かうとする傾向を具へて居る。例へば無機界でも天體の増大や結晶の成長の如き現象がある。電線に傳はる雨の滴や、硝子窓に吹附けられて其上に走る流を見ても知れる様に、一般に運動が行はれて居れば、必ず其所に同一物集合が起ると定まつて居る。

生物界を見れば、極微生物は孰れも單一の細胞で出來て居るが、細胞は各其外表面で滲透によつて新陳代謝作用を行はねばならぬから、若し無暗に圖體許り大きくなると、生命の基礎になる原形質一定量に對する細胞の表面積が減じて、終には必要な養分を外から吸収する事も出來ぬやうになる筈である。理論上の期待は此通りであるが、實際探して見ても、細胞はまづ顯微鏡でなければ見えぬ物許りだ。

所が此細胞が幾つも寄り集つて互に聯絡して團結した多細胞生物は、我々の眼前に聳つて居る。動物で見ればウニやクラゲ、イソギンチャクなどの小さい物から、段々體制の複雑な又大きな魚類イモリや蛙の類蛇や龜の類やら鳥獸に及び、終ひに萬物の靈長たる人類が控へて居る。

其所で、概して同じ様な類の物の中でも、身體の小柄な物は中のカラクリが簡單なのが常例で、例へば現代の馬の祖先に當る前世紀の者は、其大きさが現今の狐位しかない。何故大きくならたがるのか、理由はわからぬが、地質時代に從ふて同類の化石生物を比較すると、新しい物程大形になつて居る。但し餘り圖體許りでかくなり過ぎ、腕力足力のみ發達して、頭腦の發達が之に伴はなかつた結果「大男總身に智慧が廻りかね」て、終に餌食を食ひ盡し又共食ひでも始めたのだらうが、結局自滅するに到つた中世紀の巨大爬虫類の如き、極端の例さへある。

斯様に一正の動物にしても無暗に大きくはなれない。既に物理學の大家ヘルムホルツが鳥類に就て力學上の研究をした通り、陸棲のものでは象、水棲のものでは鯨、空棲のものではハクテウが大きさの行留りと、計算の結果わかつた。つまり之以上大きくなると、自分の體が自分の望む通り動いてくれぬ。それから此狭い地上で活動するには「雪隠鎗」といふ窮狀にも陥るし、且又巨大な陸海軍を養ふのと同様に、自分の口を養ふに奔命に疲れ果てるからである。

所が自然はうまいやり方を見つけるものだ、丁度多數の細胞が集つて分業し多細胞生物を作り出したのと同様に、何疋も何人も同類が相集つて一團となり、各々種々の分擔をして、一の纏まつた社會を造り上げて、成長の傾向に一進化をさせる。之が社會を形成する蜂や蟻、それから人類のやり方である。人類がいくら國家社會を誇つても、蟻や蜂共は「なあとに御前方のは第四紀末に急拵への俄普請で、今でもガタ／＼して居る。俺達のは彈り乍ら第三紀から連綿として存する堂々たるものだ」といふかも知れぬ。

そこで社會の進化にして色々の階段と順序がある。蟻にでも十疋未滿の小團體から何百何千何萬疋の大世帯迄ある様に、色々其規模が違ふが、一般に小規模のものは原始的である。丁度在外日本人の間に村人會縣人會日本人會などの段階があるやうなものだ。其成長の場合に、一團體が無暗に膨大になると、内輪もめが起るのは、學校や労働團體の例を見ても明白、之は取りも直さず、生物としての社會の體制が、一々個體と同様に、力學的制限を受けて居る事を示して居るのだ。

所で其成長の極限にぶつかると、小規模なる多くの單位團體が集つて更に高度の團體を組織する。丁度小會社の併合でトラストを造り、或は分隊小隊中隊大隊聯隊等の組立てが出来ると同様

に、團體組織を以て人類は益々成長増大する。そして究局全世界が人類として一團をなす時（それ迄にケチな連中共が同志打で斃れなかつたとして）には、全人類が一致極力生長に熱中したとすれば、一體地球上に幾許の人類を收容し得られるであらうか。

然るに、前申した通り、此生長の傾向が何も人類に限つて具はつて居る譯でもなく、バクテリアでも廿日鼠でも象でも人間でも皆、各々其同類で地球に充滿しやうと許りに繁殖を續けて居る。それに古往今來地球上どこも鼠だらけになつた記録も無く、象だらけになつた化石の證據も無い事は、つまり生物の各種が互にふへたいともがいて競争して居るからだ、即其原因は生存競争なのである。所で………

今若し或一種だけが繁殖を違うたとすれば其種だけで地球上に充滿し、其全體量が一千億噸即地球全面を約六寸六分の厚さに蓋ふに足りるといふ極大量に達する迄に要する時間は

一個のバクテリアから

四日と四時間

二正の廿日鼠から

二十年

二人の間から

千二百年

一正の象から

二千年

此所で一寸受賣を中止して「一千億噸即地球全面を約六寸六分の厚さに蓋ふに足りる生物體の極大量」に就て、註釋を試みる必要が生じた。原書には成程説明が加へてない。無いのは即「科學常識」で大抵見當がつくのだから、態々註釋を加へる必要がないのだ。いや併し必要無しと獨り合點をしても、衆議院議員におわかりならなかつたのであるから、此所で一應説明しなければならぬ。

およそ世にありとあらゆる物を、古人は地水火風の四大に一括した。生きとし生ける物は其中の三つ、即地水風（云ひかへれば固體液體氣體）を元として作られた膠の様な蛋白質化合物で造られて居る。併しこれ丈道具建が揃ふても、之を運轉させる爲には機械と同様にぜひ共火が入用だ。此火の事を科學上エネルギーと呼んで居る

其所で其最も重大なエネルギーは何所から來るのか。

我々の受くるエネルギー一切は皆太陽から放射されたもので、此地上に来て光となつたもの、幾分は草木の体内に貯へられる。又熱の形をとると雲や雨を起し、そして山の上から瀑布を流せば、やがて其エネルギーは電氣の形をとり、それから町々の暗を照す電燈の光に、又我々を運ぶ電車の動力にと千變萬化の形をとるが、皆其元を訊せば之等は太陽から出て來たのである。

今もし太陽が眞暗となつたら、水の蒸發が起らぬから、空に棚引く一叢の雲もなからう。氣温の變化も無いから、海原をかすめる一陣の風も無い。雲が無いから、雨も無い。川も無くては流の音も無い。無論植物は減びるから、之を餌食とする動物も早晚生活を廢業し、地球はさながら寂滅其ものに化してしまふ譯である。

此エネルギーの量を測るには、或一定量の純水を攝氏一度丈其温度を高めるに要する熱の量を元として、カロリーと名付け、其にかへて測定する。そして極大雜端な所だけれど、物理學者の方では、一晝夜に地球が太陽から受けるエネルギーの總量の見當をつけて居る、併し受けた幾何カロリーかを悉く吸収利用する事は、熱力學の第二定律で示す通り、不可能であるが、比較的理想に近い装置をした時に、受けた總量の幾割かを吾人が利用し得られる筈だ。此量を今假にAカロリーとする。

更に又エネルギーの通過する方では、人でも兎でも箱の様な機械に入れ、或量の食物を食はせて後、呼吸で吐いた瓦斯や排泄物等を量り、又其箱の内部を暖めた熱量を測定すれば、其生物一人又は一疋又は身體一瓦を維持する爲に通過させたエネルギーの量も出て來る。

今一人の人間が一日要する量をBカロリーとすれば、前のAを此一人當りのBで割れば、太陽から來たエネルギーを直接利用する時、ほゞ何億人養へるかといふめのご算用が出て來る理屈である。無論大雜端な事だから、會社の決算表の如く何十何錢何厘と小數點以下迄も現れない。又大日本帝國政府の豫算の如く、何千何百何十何萬何千圓と一々細かい數字が出なく共、用に足りる。私は別にニコライ教授の計算の根據を調べた事も無いが、一般に斯様な概算の仕方から推して多分かうだらうと思ふ。

そこで代議士某君の如く、斯様なイキサツがわからぬと、證明も無い空論だといふ人もあらう。併し乍ら私が今述べたやうな大體の順序を聞いて後、それでも猶「非科學的空論」だと云ふ人があるならば、それは決算表と豫算表のこまかしい數字に食傷した祟りである。

今生物學者が、獨逸のネアンデルタールやそれから南洋ジャワで發見した原人の骨と現今の人類のそれとは趣を異にするから、今の人類の人類學的歴史は多分二十萬年乃至三十萬年の古さで

あらうと云ふた時、そんな十萬年もあらう。ほい開きのある大雑端な話は「非科學的空論」だと云ふてしまへば、古生物學上の年代わけなどは全く空論ばかりになつてしまふ。我々の試みにやる概算は「白髪三千丈」や「敵兵の數無慮千萬」の流ではない、たとひ誤算があつたとて、大體の見當を附ける爲、確められた事實を元として著々正鵠に近づいて居る次第である。よし政務にお忙しい代議士でも、通俗的科學雜誌で「科學的見地から太平洋會議を見る」餘裕を具へておられる殊勝な方だから、猶研究に百尺竿頭一步を進めて此邊の消息を充分理解して戴けるに相違無い。

扱ニコライ教授は、地球上の人類が太陽から來る輻射エネルギーを直接に利用し得るに到つた曉には、今の人口の二百萬倍、即三〇、〇〇〇、〇〇〇億人を養ふに足りるから、其折には現存の陸上各一米突四方の中に六人詰になる。つまり蟻の巢の中の様に、地球上ベタ一面に陸は六階建を建てないと收容し切れぬであらうと豫言して居る。

唯さへ住宅難で脅かされて居る今日此頃、こんな事を聞くとビククリするが、これ丈ふえても食ふのに困らぬ筈ださうだから、暗殺とか性的葛藤とか誡首とか生活難だとか、物騒な聲ばかり聞かされて居てビク／＼して居る我々は、ちと氣晴らしによし非科學的空論でも「科學者の夢」でも構はぬ、も少し其内容を聞いて見やうではないか。(一九二一年十二月十一日大阪毎日日曜附録所載)

## 旭光照波の科學

世界の人口を今の二百萬倍にする事が可能だといふ獨逸のニコライ教授の説

英國で春五月に晴天が多いと其に應じてアヂの類の魚が多くとれる。即アヂの捕れ高が晴天日數に正比例するのだが、此事に注意した一生物學者が調べて見ると。太陽が海面を照らせば、潮のまに／＼浮んで居て肉眼にも見えぬこまかい硅藻や、其他の微植物が俄にふえる、すると其を餌食とする甲殻類動物(金魚の餌にするミジンコやアミなどに似た小さいエビカニの類)が増す、所で此ミジンコがアヂを寄せて太らす役に立つのだから、従つてアヂを食ふ英國人が肥へる譯だといふ事が知れた。

然るにこんな入組んだ「因果は廻る小車」の關係は何も英國のアヂに限つた事はない。旭光波を照らす所天ヶ下到る所行はれて居る事で、論より證據、寒冷紗の袋網で海水を濾し其底溜りの一滴を顯微鏡で見れば、前申した硅藻もミジンコもうちやく／＼居る、現に我々の味ふ鯛でも鯖でも皆元を訊せば、其根本は太平洋の波に浮んで居るこまかい植物から來て居り、して又此植物が

榮へるのは彼の波を照らす旭光のお蔭なのである。

斯く海の幸は結局日輪様の御恵みであるが、山の幸も之と同様に、鳥獸の肉乳卵等から米麥菜果に至る迄悉く、其始まりは日光の助けて植物の体内に貯へられた物質から来て居る。食物以外に我等の活動を助ける機械を運轉し、又室を暖くして我々の體熱の浪費を防ぐ石炭を見よ、其は太古數千萬年の昔に繁茂した巨大植物の殘骸であり、其昔地上を照した日光のエネルギーが其中に貯へられ永い間地の底に藏せられた末、人に掘りだされて利用されると、街頭の暗を照らす光となり或は室を暖むる熱となり或は我等を運ぶ機械の動力となる。

斯く人生に無くてならぬ生活資料は必ず植物を經過せねばならぬ。其植物の体内で行はれて居る太陽エネルギー吸収作用に離されぬ物とは葉綠素だ、此物が草木の葉の綠色を生せしめるこまかい粒として存在するが、植物体内に吸収した炭酸瓦斯と水とをあはせて澱粉を作る力がある、此作用には是非共太陽の光線の参加が必要だ、一度澱粉が出来ると其が葡萄糖に變り、一方生物を造る原形質といふ物の働きて、アムモニアから變化させたアミノ酸化合物が加はり色んな複雑な變化をし、結局體外から得た無機物を寄せ集めて生物に固有な蛋白質化合物等をこしらへる。云は、植物の體は動物の生活に必要な蛋白質や澱粉の製造工場兼倉庫であり、粗製品原料たる炭酸

瓦斯と水を外から運び込み、日光エネルギーを動力として葉綠素といふ機械を運轉させる仕掛である。そして其葉綠素を持たぬ動物は植物といふ倉庫に貯へられた蛋白質や含水炭素を受取り、其に加工して他の形に變へたり又は分解する丈が能で、直接粗製品を消化し變化させて利用する力は無い、だから現在直接生産に關係する探炭探油漁獵牧畜農耕等の業は、取りも直さず人類の爲に太陽エネルギーを利用する時の葉綠素の能率を高める手段なのである。

所がニコライ教授の「めのか算用」に據れば

|               |            |
|---------------|------------|
| 地球上に住み得られる    |            |
| 人口の概數(單位 億)   |            |
| 1、未開時代        | —          |
| 2、農耕時代        | 一五         |
| 3、農耕時代<br>最大限 | 二〇〇        |
| 4、勢力學時代       | 三〇,〇〇〇,〇〇〇 |

即彼の考では現在の所は植物を通して間接に太陽エネルギーを利用して居るが、斯様な方法でも科學を應用し更に合理的に改善し、又一方未開地の植民開墾をやり且海産物利用の法を講ずる時には、生活資料は益々豊富となり今の約十五倍に人口がふえても之を養ふのは容易だと云ふのだ。如何にも世界大局から見れば米濠露等に未開の沃野があり、又一般に農牧漁等の技術が今猶原始的であり改善の餘地が多い事から見ても、此豫想は成程と會得が出来るだらう。

扱世界の人口が二百億になつた時でも最早行づまりだと悲觀する必要は無い。デトレフゼン氏が熱電氣の装置で測つた所によると、木の青葉を照射する日光エネルギーは其百分の一未滿しか利用されない、跡の百分九十九餘りは反射や何かで放散してしまふさうだ。つまり植物を仲介とするエネルギーの間接利用策は可成むだが多い、折角地球迄來た太陽の火が我々に何の役にも立ゝずに大部分が宇宙の大虚に放散し去るのは如何にも惜い事だ。植物を経ずに太陽エネルギーが我々の食物をぢかに作つて呉れないだらうか、植物の力を借らずに人造澱粉や人造蛋白が出來れば此問題が解決出來る筈、所が伯林に居た故エミール、フィッシャー教授と其門下の偉大な努力のお蔭で、此食物人造の問題もポツ／＼手掛りが著き掛けて來た。無論前途は程遠い、併し吾人の努力次第で不可能の事で無い事丈は明瞭になつた。所で此蛋白質合成が成功した時其化學的加

工には是非太陽エネルギーが必要だ。其時にはサハラ沙漠に廣大な受光盤を設けて熱電氣か又は何かの化學反應で動力を起すとか、潮汐干満の差や波濤の動搖を悉く捕へる装置を設けるとか(之現に多數の專賣特許がある)或は風力を利用し氷山の運動エネルギーを利用するとか、火山内部の熱を捕へたり、扱は又ラヂウムの様な分子崩壊の際の莫大なエネルギーを利用するとか、孰れも今日の幼稚な科學から見ても不可能な夢物語の様であるけれ共、決して出來ない相談ではない。先の見えた石炭やなけなしの水力を使い果しても、我々が頭を働かしさへすれば勢力は到る所にみちあふれ流れて居る、唯其をつかまへる事を工風するが當面の問題だ。我京大教授新城博士は現に太陽熱研究所設立を企てて、此研究に一指を染めやうとして居られる、斯様な企が實現し終に太陽エネルギーを直接利用し得るに至つた時が、即ニコライ教授の勢力學時代であり、今の二百萬倍に人口が増加しても之を優に養ふに足りるといふのである。無論熱力學第二法則から來る熱放散といふ現象が起るから、受けたエネルギーを全部使用は出來まい、且又其以上他の火星とか金星とかへ移住しない限り、其極限以上どうもがいても繁殖は出來ないと云ふのだが、其以上ふえたがるとはあんまり胸愆な話、其所迄我々は今から心配する必要は無い。

扱未來記はさうとして置いて、我々は現在其理想實現の爲に何をしたらよいか、ニコライ教

授の答へるやう「吾人人類の競争は互に殺し合ふ滅亡競争の事でない、生存競争即廣義の食物を求めんとする努力、云ひかへれば文字通りに太陽に對して廣い座席を占めやうと試みる競争である。有利な位置を得た者は自ら榮へるから、態と他を殺す必要は無い。即競争の目的は一般的エネルギーに對して出來得る限り多くの分配を受け、其を自己と自己の一族の爲に利用する事である、其目的を實現する爲には三通りの法がある、(壹)既にエネルギーを持つて居る者から奪ひ取り自分の用に供する事(貳)自己の同類をふやしてエネルギーを受取る者の數でこなす事(參)自己を改良してエネルギー攝取の能率を高める事である、第壹のふんだくり主義から征服や併合が行はれるけれ共、之は最も野蠻原始的であり、今日の如く國際信用制度が確立されてからは絶對に無効だ、利用されぬ勢力が豊富なものに其に目を附けず、無暗に分捕功名を望むのは、恰もパン屋の店頭にあくてうまいパンがドツサリ列べてある時に其を買はないで、傍に佇んで居る憐れな乞食のかぢつて居るボロ／＼のかけらをさらふのに似て愚の骨頂である。第二の數でこなす法も産兒制限を法律で禁止したり獨身者に課税したりして、矢鱈に頭數をふやすのに頭を悩まして見ても生活難ではふえやう筈が無い。さう／＼ふやしたければ、先第一に食物を豊富にすれば繁殖力のある民族なら自然に膨脹する。つまり吾人がエネルギー利用の妙法を發見さへすれば、第三

の策を撰んで競争の問題は全然解決する筈である、其故人間を大砲の餌食にさせたいとか、空中に火薬で吹飛ばさうといふ様な試みは、此競争の當面の目的とは全然反對の邪道である。』  
 だとすれば、十年間造船所が殺人機械の製造を休んで他の活人機械を造る程結構な事はない。火薬を製造しても、之を人殺しに使はずに開墾とか道路や水路の開墾に用ゆるなら至極結構である。原始女性は太陽であつた、其天照大神の末でない者は我日本の國に一人も居ない、神代にも一方の神が日々百人取殺すといへば、他の神がそれでは百五十人を産んで見せるといふ元氣のよい話もある。『天照らす日の御子』の末は分れて六千萬の同胞となり、各々太陽其まゝの顔色を具へ、寒地に赴いても黒人の様に結核に罹らず、熱國に住んでも白人の如くにふやけない黄金人種である。『白地に赤く日の丸染めて……』と日章旗を詠嘆するのは無邪氣な小學生の事、我々は更に太陽に對する理解を科學的研究によつて深くし、其によつて進んで世界文化に我太陽色人種は貢獻せねばならぬ。ゲイシャとハラキリとアンパンと人力車だけで自惚れて、五大國などと太平樂を列べて居る折ではないのである。

附言、頗る元氣のよい未來記であるが、將來に對しては樂觀して居ても、現在我等が眼前米高く人やせる秋に於て『米が食へぬ』とはうその様な話であつても本統である事を、否定する事は出



來ぬ、一方くへもせぬ程莫大な米を抱へ込む人もあり、嘗め切れぬ砂糖を倉に貯へる人もある。斯様な不合理な社會制度は何かの順序で自然消滅したとして、ニコライ教授の未來記はアッサリ片附けてあるが、どうして之を解決するのか受賣屋たる私にはわからぬので、當面の急に應ずる爲に餘儀ない産兒制限研究におひたをされて居るばかり、併し賢明なる讀者は學者の説にもこだわらず、又昔から人のしきたり云ひ來りにも頓著せず、事實其物に觸れて居られるから、對策は自然おわかりだらうと思ふし、何も云はぬが花、又云ふたねも持合はせて居ない。

註、此稿は生粹の資本主義新聞某社の爲に起草したのだが、其まゝ紙屑籠にほりこまれた。其理由はなぜか、お察しに任せ。

## 生物學むだ話

小學校で進化論を教へてはならぬ文明國

米國のケンタツキー州といへば中部でも北東の方で、黒人が全人口の一割も占めて居る農業地帯、ミシシッピ河の上流オハヨー河に沿ふた所、英學生諸君のお馴染のマイ、オールド、ケンタツキー、ホームの本場である。

二月中頃に出た或米國科學雜誌の報道に據ると、其ケンタツキー州の議會に今度或新しい法案を提出して、小學校の教科書で進化論の事を書いてあるものの採用を嚴禁しやうといふ人がある。何しろ進化の學説では人は猿と共通の祖先をもつといふのであるから、貴い神の子を辱める様に一寸有難屋連には解釋され易い。それで今から五六十年前には西洋の安全思想一手專賣屋が無暗に毛嫌ひして、丁度現代日本に於て社會主義に對する様に、矢鱈にこわがつたものであつた、併し正體見たい枯尾花で追々に其中味がわかると一安心、現に一等國の大日本帝國の識者の或者などは「種の起原」の一頁も讀まずに「なあにダーウインなどは古いよ、近代遺傳學では、」など

と通を振り廻す今日に、何事も世界第一を自慢の米國で田舎とは云ひ乍ら、一九二二年の今日に進化論退治とは、實に黒人の私刑と同じく時代錯誤も世界第一と云はずばなるまい。

所が流石世界第一の文明國だけあつて學界の輿論は沸騰した、田舎の事でも米國の恥だ、放棄してもおけないと、其州の州立大學總長の所へ四方八方から電報で抗議が来る、例へば

『進化論でも或は他の科學上の學說でも實證確かな説を教へる事を禁止する様な議院は苟くも米國にありさうな筈はない。あるとは信する事が出来ぬ』前ハーバート大學總長チャールズ・エリオット

此人は基督教でも異端邪道の方のユニテリアンの大將で、嘗て日本へも來た事がある、其あとで此人の説を某子爵が變造したりして問題が起つた、兎に角斯様にだしに使はれる程の大家の言がまづかうだ、それから外の抗議を讀んで見ると

『貴下の御報道に係る如き法案はケンタッキー州を全世界の物笑ひとなすべし。進化の事實に関する學問上の教授を禁止するは、恰も十二世紀の頃の識者の態度に與みするが如し。かゝる企ては苟くも思慮ある者の眞面目に受けとり得ざる事なり』エール大學總長セームス・アール・エンセル。

『此法案の提出者は確にかの勞農ロシアの統治者と親密な交際をして居るに相違無いと思ふ、つまり彼は過激派式の根本主義の一を忠實に引寫しして居るからである。全く我々は其に近づきつゝあるのだ』コロム

ビア大學總長ニコラス・マレー・マトラー。

『米國聯邦四十二州に所在する二百五十有餘の大學及び専門學校の名を以て吾人は、ケンタッキー州が進化論教授を禁止し。或は其説を勧むる教科書の採用を禁する事によりて、智識的自殺を企てざらん事を祈る』紐育市米國大學協會常務書記ロバート・エル・ケレー。

『科學の教師に對し法律的制限を課せんとするが如き企ては、此北米合衆國を稱する共和國の立國の大本に悖るものである』紐育市米國基督教會中央委員會幹事チャールズ・エス・マクフアランド。

此通りに四方八方から糞骨灰にやっつけられる所は、此進化論退治法案もどこかの國で急拵へにした何とか法によく似て居る、何故こんな時代錯誤がアメリカでも、飛行機と自動車やウヨウヨ走り廻る今日に首を出して來たかと元を訊せば、諸君も御案内の大統領の萬年候補者ウイリアム・ゼニングス、ブライアンの講演でしかけられたからだといふ事で、何しろ日本とは天降りでない所が仲々面白い。

此老人は蘆屋のT老博士(老と申せば叱られるに相違無いが……)と同様に、滿天下の辯論の覇を以て自任して居られるが、舌では米國の天下も取れず、いつも選舉ではおすべりになるにきまつて居る、近世遺傳學の開祖たる天才メンデルは教員檢定試験に二度も落第した、扱は我朝でも

生物學的宿命論の先達の教授も賤ヶ岳七本館を三本文しか知らなかつた爲に、今の一高の前身大學豫備門でぶつかったと記されて居る、ブライアンでも學校の試験はどうか知らぬが、大統領では斯様に失敗したけれ共、すべったから人物は小さいとは云へまい、此人は昔早稻田「ワーガハイ」伯の手を握つて法螺の吹き競べをやつた時に一同感心したが、其日午後を増上寺に行つて内陣拜觀の時思ひも寄らず靴をぬがされた時、端無く靴下にやぶれ穴があり、其が人目に觸れるに氣が附いて流石の豪傑ブライアンも、もののふ一期の恥辱だと赤面したさうだ、面皮をひんむかれても恥ぢない政治家の居る今日、靴下の穴位で恥ぢ入るとは、殊勝過ぎる、但し殊勝過ぎるから大統領になれないで、禁酒の説教をして地方巡業をして居た、其後米國も愈々禁酒となり「年寄の冷水」宣傳も無用になり、其ありあまつた勇氣の飛ば汁が進化論に及んで來た次第であらう。

兎に角此過激主義ではない進化論退治の活劇が如何に發展致しまするか、次の雜誌を待たなくてはわからぬが、つくづく思ふて見れば有難いのは我々日本國臣民である、今日此頃に十九世紀のダーキニズムの怨靈に悩まされる程に前世紀の基督教と惡因縁もない、進化論といへば中等教育の博物概論には必ず觸れる事にしてある、私の手元にある京都の某小學校の小冊子を見ても此頃は尋常科六年生に生存競争、雌雄淘汰の話を聞かすのである、流石は五大國の文化だけあつて

違ふたものだ、研究なら何に携はつてもよい、宣傳さへしなければ決して磔や火破りにあふ事はないのである、之を思へば有難涙がホロ／＼こぼれて來る。

所でまてしばし、よその惡口でケンタツキーとかブライアンとか耳馴れぬ名前と手近かのものを入れ替へて見やう、全く空想だが、別に朝憲紊亂にならぬから今一寸假定する。今學問上研究の完了した事柄で、あらゆる實驗と推理から割出して眞理と學者が斷定した説、例へば進化論でも遺傳學でもいゝ、其が間違ひ無いと思ふて、一人でも多くの人に知らせたい（つまり宣傳したい）とあつて、先づ手始めに教科書に載せる、之が今假に京都府會議員某氏の有害と認むる所となつて「管内各小學校に於て進化論に觸るゝ教科書の使用を禁ず」との取締規定を提案したとする（無論米國と日本とは政治や教育の仕掛けが遠ふから同じには行かぬにしても）。そしたら學界の輿論はどうあらう、K大學の巨頭總長は醇乎たる學究として斷然反對するとしても、あとの各大學總長連の腰はどうか、何とか教育會とかいふものゝ幹部はどういふ所置に出るか、本願寺の法主や何派かに派の管長連はどうするか、こゝ考へて來ると少し心細いやうな心持が湧いて來て、一等國の文化の影が薄くなるやうだ、あゝイヤ／＼若い者の癖にこんな取越し苦勞をすると、早く頭が禿けたり白髪が増したりするから、好加減にしておいて顯微鏡の下で精虫の跡を追ひ掛け

る事にしやう。ケンタッキーの進化論なんか糞食らへ、序に日本獨特の遺傳學も敬意を表しておく事にする、鶴龜々々桑原々々。

(一九二二・四・九週刊朝日所載)

産兒制限篇



## 家族制限策の進化 (上)

### 一般動物の繁殖と卵の数

故飯島魁教授を通して我等日本の動物學者からは學問上の祖父に當る獨逸のロイカルト教授の調査に基づいて、動物の一個體が一年に産む卵の數を通覽して見ると……

ウニが百萬個、人の蛔虫が數百萬個、蜜蜂が六千乃至一萬又は其以上、蠶が三百個、或種の蟹が三十萬個、アメリカ産のエビが數百萬個、カキが百萬個以上、カタツムリが三十乃至八十個、タコが六百乃至千個、硬鱗魚のテフサメが三百萬個、硬骨魚では多くてタラの四百萬個から鯉の三十三萬個から、少いものではヤウジウオの二百乃至五十個迄、兩棲類では或種のイモリの三百個から或種の蛙の二千五百個、爬虫類では或種の海龜で十二乃至八個、トカゲも同數、南米産の大蛇ボアが二十六乃至五十個、鳥類では多いのは鶏の平均百個から順に色々あつて、ペンダインの一乃至二個に及ぶ。

更に胎生たる哺乳類に入つて一年間に一疋の雌の産む数は、家畜では犬が二回乃至七頭宛、猫も略同數、豚が二回六乃至十二頭宛、兎が五乃至八回四乃至七頭宛、野獸ではライオンが三乃至四頭、熊が一頭、最も少いのは象の三年目に一兒を擧げる例がある。

斯様に一般動物界を大觀すれば、多く産卵する物が必ずしも無限に旺盛な繁殖を逞しうする事が出来るのでなくて、實は其種の幼動物が外からの保護無く危険なる外界の諸要件に遺憾無く曝露されて居る時程、數で以てこなす様に自然は生殖物質の濫費をなして居る次第、萬一の僥倖とは申したいが、實は文字通りに云へば、タラの如きは、一疋の母魚は種族保存の爲に毎年四百萬分の二の僥倖を賭して居ると、形容せねばならぬ次第である。

### 人は多くて幾人を産み得るか

扱人類に於ては、佛國の生理學者ドアヨンに従へば、一人の女は、毎年約十二個死即一生に二百個の成熟卵を産み落し、平均すれば一人で三兒又は四兒を設けるが、記録にある最も多い子持女は一生に三十八人又は三十二人の兒を得た、後の例はボエールの報告で、三十二兒の内二十八人現存し又其女の母は三十八兒を設けたのである。無論斯く多數を産むにも、假に日本の女を例

にとつて、月經初潮がまづ滿十五歳、月經閉鎖が滿四十五歳としても、其間妊娠可能なる三十年間に於て毎年少く共一人を産まねば、其數に達せぬ譯であるが、斯様な子澤山の場合大抵は雙子又は三つ子のある事が多い。

所で佛蘭西の統計に従へば、雙子の現れるのは分娩八十乃至八十九回に對して一例、三つ兒は七千六百回の内一例、四つ兒は四十萬乃至三十萬回に一度、其以上五つ兒六つ兒に到つては甚だ稀で、尙其上七つ兒に至つては一六〇〇年ハメルンに於てアンナ、ブライエルスといふ女が一時に七兒を擧げたのが唯一例記録に残つて居る。

昨年十月米國インデアナ州から西部へ移住した或夫婦は十三人の子供を引具して乗車する際、切符は唯二枚しか買はなかつた。即夫婦以外に十三兒の頭らになるのは滿四年六ヶ月の三つ兒三名、其から間を略して末兒は生後六ヶ月の雙兒兩名、此母親は十年間に三つ兒を五回、雙兒を二回産んで、其内の六兒を失ふたといふ極めて特別な例がある。

### 人間に於ける空想的鼠算

斯様な特例は除いて、今一對の夫婦が一生に四兒を設けて若死もさせずに成人させたすれ

ば、早くて二十五年經過すれば人口が倍加する。更に二十五年を経て其調子で（近親結婚させると假定して）五十年後には人口が四倍加する。以下順を逐ふて斯くの如く、二十五年を一代として六百五十年、即第二十六代の後裔の總數は、二の二十六乗たる六千七百十萬八千八百六十四人の多きに達する筈である。

換言すれば、今を去る事六百五十年の前、我朝では淨土真宗の開祖親鸞上人の大往生の頃に、唯一對の夫婦があり、時の世人は悉く子が無かつたとしても、此夫婦から子孫が前の調子で殖えたならば、其總數は大正十何年の今日に於て日本の總人口に等しかるべき筈である。

### 舊日本の人口制限策、第一、殺兒

斯様な假想的鼠算用はともあれ、我國では明治維新以前少く共百二十年間は、常に人口二千六百萬を上下して居て、大した増減は無かつたらしい。斯様な人口の不變は、無論マルザスの云ふ通り、飢饉や疫病や内亂や貧弱な衛生保健設備や原始的な育児法などと、種々な外的要件に支配されて居たのではある。尙其外に各藩の爲政者が暗に默過し或は公けに獎勵した殺兒の習慣が、庶民の中に盛んに行はれ、斯く當時の民衆が自衛の爲に意識して行ふた行爲が、日本國全國の人

口制限策に大なる影響を及ぼしたといふ事實を、我等は看過す事は出来ない。

明治維新の後、西洋直輸入の法律は斯様な殺兒をば墮胎諸共禁止し、文明開化の建設に銳意努力した當局者は斯かる從來の弊風を一掃するに熱心であり。其効果大いに見るべきものがあつたけれ共、猶文化の中心に遠く官憲の監視の行届かぬ地方農村では、舊幕時代傳來の殺兒を全村擧つて行ふて居る所も現にあるらしく（四國の某縣某村では長女長男の順に正しく育て、居る）、昨年人目を聳てしめた山城大和伊賀の三國の境に近い地方の殺兒による選擇育児の如きも、偶然人目に觸れた一例で、他に多く類似の例を發見するのは今日も猶不可能でなからう、因みに今申した例では、三重縣では保健調査の名の下に其地方の實狀を現に精査して居るから、其結果を我等が學び得るのも遠い將來の事でない。

### 原人に餘儀無い人口制限策

本來斯様な原始的手段による家族制限策は、人が或局限された一地方から離れ得ない場合、有限なる食料品との關係上絶體絶命の窮境に絞り出す智慧で、洋の東西を問はず、民の文野に關係無き普遍的現象であり、他に移住出稼ぎを不可能とし或は其を欲しない絶海の孤島の住民に見る

を常とする。斯様な自己保存と直接關係ある人口制限策は、別段近代文化の影響を受けず共、既に所謂野蠻人たる一般自然人の間に行はれて居り、理知による先見の明を具へた人類特有の現象で、環境に盲従する外は無い他の動物で見る事は出来ない。其故之はメチニコフの所謂「家族的本能の矛盾不調和」と解すべきもの、即近世の一部淫蕩無責任な連中の贅澤沙汰たる享樂慾や、肉慾至上主義から來る責任回避と混同する事は出来ぬ。

### 本能的に求むるヨリよき手段

併し乍ら矢張感情の動物たる人間の事だから、窮した揚句の所置たる家族制限にしても、出来る丈感情を傷つけぬ様な形式を本能的に探し求める。即ちまれてもお互に餓死する憐れさから免れる爲に、婆婆の日光を拜んだ計りの兒を殺す。更に感情が鋭くなると、更に進んで母の胎内にある胎兒に對する所置を試みる、之を醫學的に云へば人工早産、又他の普通な命名を用ふるならば墮胎である。

此墮胎の風習は明治維新前の舊日本に於ては、殺兒と相並んで殆ど公然行はれて居た。其風習今も猶潜伏し乍ら各所に行はれて、時々其犯罪の檢舉を見るが、之は數量的に斷言出来ぬけれども

共、密かに行はれて居る多數の犯罪の内の極小部分が、時々間歇的に摘發されたものに過ぎ無いと解すべきであらう。現に關西の某大都會に於ける死産流産の届出總數の殆ど過半に近い例が臨月であつた實例に徴しても、種々皮層のみを見た樂觀を許さない。

### 墮胎是非の判斷の變遷

古來墮胎は時代國土を異にするに従ひ是非の判斷を異にし、希臘でもプラトンは墮胎は母の自由であるが之を試みるのは精々早くせねばならぬと云ひ、門弟アリストテレスも之に賛成したなほゼノンや其他ストアック學派の者の主張は、胎兒は子宮に宿る一種の果實だと見做し、ローマ法の精神と同じく、靈は出産の刹那に宿るものと考へたから、未だ靈を獲得しない果實の處置は差支へ無しと考へた、但し初期羅馬では、族長制の精神から、墮胎決行の斷案は胎兒の父に一任すべきものとしてあつた。其後羅馬帝國を乗取つた初代の基督教會では、一般に神より生命を享けた者を憐れむ人道的精神に基づき、墮胎を嚴禁したが、其判斷が泰西基督教國を通した法律の形式をとつて、現代日本の婦人の性的活動に迄影響を與へて居る、但し佛國革命前の啓蒙時代に於て、墮胎禁制の強制は胎兒至上に走せて、望まぬ妊娠より逃れんと試みる女性の悩みに同情



せぬ非人道的強迫だといふ意味で、ルッソー、ヴォルテール等の反対もあつたが、之も實現せず、今も猶文明諸國の法律は例外無く墮胎を嚴禁して居り。又醫師階級は全體として此法の存在を是認して居る。

### 新婦人の反對論

所が今世紀に入つてエレン・カイ女史等から筋を引いた母性保護運動が特に獨逸で盛んになり、獨逸の平塚明子とも云ふべき博士ヘレン、ステツカー女史を中心とした青踏連が寄つて組織した新婦人會では、一九〇五年終に次の案が提案された、曰く「現行法を訂正して、墮胎は妊婦自身の希望に反し他人が強ひて行はしめた時に於てのみ、罰する事とせよ」とであり、尙提案理由の説明としてツァンツィンガー女史の述べたのに「一人の女は彼女自身の肉體と健康の合法的持主である。彼女がそれと我心で定めた男に自分の童貞を捧げるは、彼女一個人の權利であり、且又彼女一身の重大問題である。恰も其と同様に、若し理由宜しきを得たものが完備して居ると、彼女が考へた時ならば、彼女が自身の行爲の結果を破棄せんと欲するのも、彼女一個の問題たる事は確かである」と主張した。

斯様な主張は我々日本人の耳に可成激しい響を與へるが、矢張理無い事も無かつたと見えて、法學の大家フォン、リストも。墮胎犯の刑罰は早速廢止すべきものでないとしても現在餘程「疑はしい」ものだといひ、或は早期墮胎は許すべきものかも知れぬと幾分希臘式の考へに戻つて居る、犯罪心理學の大家ハンス、グロースの説でも近き將來に墮胎行爲も罰せられぬやうになると云ひ、其他ラドフルーフやフォン、リリエントールの如き積學も之に同意して居る位だから、獨逸の法學界の變化も亦推して知るに足りる。

### 墮胎否定の論據

併し、如何に世間が變らう共、第一孰れの場合に於ても墮胎を是認するとしたならば、種々なる弊害の續出は免れ得ない、既に十九世紀末に墮胎犯所罰廢止の必要を始めて唱へた伊太利の法學者パレストリニにしても、墮胎をば獎勵すべしとは決して考へなかつた。現に性啓蒙の急先鋒たる大家ハヴェロツク、エリスでも曰く「女達をして自己の利益の爲に、或は社會をして民族の利害の爲に、無制限に墮胎を實行させる事は、吾人が現に到達した文明の今の程度を突破した考だと私は考へる、今の社會道徳が墮胎を嫌惡するのは頗る道理あるものゝ如くである、エレン、

カイも云ふた通り、戦争に於て國人の選良の蠻的虐殺をなしつゝ、何の抗議をも試みない文明國は、よし母の胎内に宿るさゝやかな者でも其が生ある以上熟考の後殺し得る權利をば未だ有しないのだ、現に滅多矢鱈に生命の濫費をなす罪を犯して居る國が、他面墮胎許可に於て正しい機能となすものと信頼する事は出来ぬ、成程、將來生長進歩の望も無い悪質の者をば、よし出産の前にも、唯盲目的に養ひはぐくまんとする目的無しの試みや苦心は、社會其ものゝ弱點である、否斯様な試みは其母及び社會に後に諸種重大な迷惑を掛ける事になるのだから、弱點以上寧ろ一の犯罪である、併し乍ら我等が此方向に向つて進出せんとする行手に、一の突破し得ない壘壁が横たはつて居る、人生を純化する爲に我々が生命を熟考の上奪ふ權利を得る前に、まづ我々は戦争や疫病や産業上の悪状態の如き人命を損なふ諸種の勢力を除いて、人命を保ち守る法を學ばねばならぬ、而して此事たるや我等文明諸國民の社會的勢力を以てして容易になし遂げ得る事なのである』。

私は家族制限策の進化の跡を辿つて、殺兒から墮胎に及んだ、尙話は近代的産兒調節策の中心たる妊娠豫防に入る筈であるが、あとまだ長いから次に譲る (一九二三年四月十三日京都市外字治町にて、學藝一九二三年五月號所載)

### 家族制限策の進化 (下)

前の文では、一般に人が制限された環境の中に押込められて居ると、食物に窮した揚句絶體絶命の境に於て、人口を制限しやうと試みる、其實行手段は始め殺兒の如き原始的方法によつたが人が本能的に殺生の殘虐を厭ふ爲に、漸次墮胎の如き稍進化した形式をとるに至つた。といふ事實を歴史的實例について述べた。

### 墮胎犯の制裁

一體墮胎に關して我日本の刑法には、其第二二二條で「懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル時ハ一年以下ノ懲役ニ處ス」とあり、猶其に續く數ヶ條で犯罪補助者の刑が定めてある。

141 舊帝政獨逸の刑法第二一八條は、我刑法の之等條文に相當するものだが、「妊婦其胎兒ヲ故意ニ墮胎シ又ハ胎内ニ於テ殺害シタル時ハ五年以下ノ懲役ニ處ス、猶情狀酌量スベキモノアル時ハ

六週間以上ノ禁錮ニ處ス。妊娠ノ承諾ヲ得テ墮胎又ハ胎兒殺害ノ方法ヲ行ヒ又ハ其ヲ幫助シタル者ニ對シテ此條文ヲ適用ス」とある。

所が一方法律上、人の生命は、日獨共に民法の劈頭第一に「私權ノ享有ハ出生ニ始マル」とあつて、胎兒其者の生存權は認められて居ないのだから、墮胎行爲に關する制裁の法律的根據が素人眼にも聊か曖昧な様に思はれる。尙又其上に「懷胎の婦女」といふ文句の中の懷胎とは如何なる狀態を指すのか、種々議論解釋の餘地がある。

### 人目にしるき懷妊の處置

實際墮胎犯として告發される例を見れば、妊娠末期に於て人目にそれと知られる程度の胎兒を處置した場合にのみ限られて居るから、懷胎といふのは生物學的智識を通常持合はせて居ない警官や其他の世人が局外から見て疑ひ無い其狀態を云ふのであり、必ずしも嚴密な生物學的解釋を下し、精子卵子の合一に始まつて母の子宮内に發育して居る胎兒の存在を意味して居るのでない事は、常識から云ふても明白である。

所で胎兒の發育はいつになつて素人眼にも明白になるか、人種や個人で無論相異があるけれ

共、今假に伊太利の生理學者ルチアニの統計の平均を借りるならば、胎兒の重量は第一月と第二月の末には殆ど零、第三月末三五瓦、第四月末四一瓦、第五月末二二二瓦、第六月末六五八瓦、第七月末一三四三瓦、第八月末一六〇九乃至二一〇七瓦、第九月末一九九三乃至二六〇六瓦、第十月末二四五〇乃至三一六八瓦であるから、今胎盤や胎兒を包む液や囊等の附屬物をぬきにして、胎兒の容積が重量に正比例して増加するものと考へる時は、ざつと第四月から次月へ約五倍加し、更に次月に入つて約三倍加し、更に第七月に入つて約二倍加する次第。即妊娠狀態の外見上の變化は第四から第七月迄の間に於て特に著しく、其後は前に比べて容積に著しい變化も無く、唯胎兒の居所が變る丈である。

### 罪とならぬ勝の早産

斯様に一種跳躍的變化と膨脹が起らぬ内、即妊娠四五ヶ月以前に於て、今若し充分な消毒と完全巧妙な技巧を以て人工早産手術が行はれた時には、其妊婦の失ふ血肉も多からず、且又回復の爲に要する時間も餘りいらぬ。又醫師ならぬ墮胎師が斯様な事を行ふても、技巧拙劣失敗しない限りは、秘密の内に事が終つて世間に何事も現れずすむ。之を描發する事も不可能に近いのであ

るから、墮胎でも妊娠五六ヶ月以前のは實際不問に附するとやら世間に傳へられて居るのも、實に徴してやむを得ない話、又一方から見れば法の解釋適用其妙を得た所、さもあるべき事かも知れぬ、若し此噂が事實ならば、日本の法官も獨逸法の大家フォン、リストと同様に、早期墮胎は妊婦の自由に委ねべきものだと言張した古希臘のプラトンに歸つたと云へる次第である。

### 醫師の行ふ人工早産と有産階級の妊婦の要求

然るに今或妊婦が生命に係る重病に罹つた時、彼の女の主治醫は醫學上必要と認めたらば、本人の求めに應じ同職數名の立會を乞ふて、いつでも人工早産の應急處置をとる事が出来、妊娠期の早晩は其際少しも問題にならぬ。所が此事が近時我國でも有産有識階級に知れ渡つてきた爲、妊婦自身が夫の承諾を得て、進んで主治醫に早産を要求する者が續々現れて來た、其際妊婦自身が腎臟疾患や肺炎カタル等と自覺症狀を熱心に主張するが、平素から醫師と患者間の情實もあるから、無下にも斷りかねて症狀の有無に頓著無く何とか名目をつけ(認定して)其求めに應ずる者も無いではなく、殊に大都市では營利本位の大病院が競争して患者爭奪を行ふ爲、患者の方から強迫的に若し此所でやつて呉なければ他に赴くと迄、突貫する者もある程だと聞いた。

此事が善にまれ惡にまれ、兎に角其必要を感じて要求する者が續出するといふのが、現代日本に於ける眼前の事實であり、特に少數極端なる除外例を誇張したのでない、入院と手術には無論相當の時と金を要するのだから、無産者大衆によし此便法が知れ渡つても、金が無ければ仕方が無く、只々ブルジョアの智識獨占の横暴を呪ふて切齒扼腕するに留まる。其所で經濟上實際に家族制限の必要な彼等に對して、後段に述べる殺精殺卵法は迂遠不確實だからといふので、現に、極早期の人工早産を簡單廉價に行へる様に一般開業醫に其技術を授け、同情に償ひする無産者の急を救ひたいと熱望する衛生學の某大家もある位の形勢である。

### 殺生を本能的に厭ふ心

145  
けれ共、斯様な科學的人工早産が比較的無害であり、又將來それが英國のストープス女博士の企の如き「母の衛生相談所」Mother's Clinic で無産階級の者にも廉價輕便に行ひ得る様になつた際にも、我々が既に生命の端緒に就いた胎兒といふ多細胞生物に對して淘汰を試みる事は、前述エリスの如く理性に富んだ考からで無くとも、既に情に於てみす／＼斯様な斷乎たる處置に出でかねる次第であり、現に今日の産兒制限論者でも亦避妊を主張こそすれ、無限に生命物質の濫費

を許す早産を奨励しては居ない、

如何となれば、我々人間はあらゆる正常の場合に於て生ある者の命を断つ事を本能的に避けやうと試みる。佛教徒はすべての動物の命を断つ事を避けんが爲に菜食をする、歐風の菜食家は肉食をやめて鶏卵に營養分をとり、加特力教徒は平素四足獸に飽き足つた末一時其を断つて魚肉によりて彼等の精進潔齋を全うする。之等はいづれも其等の人々の生物學的智識に相應じて一應辻褁の合ふた憐み深い行ひであるから、複顯微鏡と遠心器とプランクトン網と培養基とを日常扱ひ馴れて、飲む水にも呼吸する空氣の中にも微生物の居る事を知つて居る生物學者から見ても、唯漫然其等の殺生戒が頭隠して尻隠さぬ一種の氣休めだと、罵倒し去る事を許さない。

現に毎年屍體解剖に利用された諸生靈を吊ふ事を各所の醫科大學で行ふのは、單に遺族に對する慰安と將來死體の供給を増加させやうと試みる算盤づく計りでない。石川千代松教授の恩師ブイスマン先生は試験動物を固定液に投じて殺す度毎に「哀れな動物よ」と一種の引導を渡した。冷血動物と見做され易い自然科学者に於て既に然り、生理學實驗に用ふる蛙でも無益の痙攣を實驗者が見て感情を傷つけぬ様に、脊椎を鋏み切り脊髓を破碎して實驗に利用する、首をはねられた蛙の身になつて見れば、どつちでも大した違ひは無い。クロロフォルムやエーテル等の魔酔劑の

使用にしても、なるべくもがかね様にする丈で結局試験動物は殺されるのだから、人類といふ殘虐なる高等動物の暇に任せた道樂だと、蛙や兎の方で怨んで居るかも知れぬ。屠所の羊や牛にしても殺す人間がなければ頂上なのだが、文明人は色々工風して無苦痛屠殺設備を工風したり、人目に觸れぬ郊外に屠場を設けたりして、「必要なる殘虐の人道化」を試みる。

### 必要なる殘虐の人道化

然り、けに情は人の爲ならず、之等生きとし生ける物に對して我等のかける憐みと、やむを得ず行ふ殘虐な所業の「人道化」は、一見不合理不徹底なるごまかしと氣休めとカムフラージュ又はお化粧のたぐひと見えるが、しかし其真相に立入つて見るならば、我等の本能の教へ避け厭ひ嫌ふ所、決して徒らな涙脆さ許りでないのだ。

今人の餌食となる牛豚魚鳥を見よ、生理實驗に用ひられる試験動物を見よ、虫下しを飲んだ人の腸内の寄生虫を見よ、キニーネを服用した人の血管系に住むマラリア病原虫を見よ。之等の動物から見れば、殘虐にして飽く事の無いのは人類であらうが、吾人々類は之等の殺生を断念して我等自身の生を放棄しやうとは決して考へない。即弱肉強食は自然進化に於ける鐵則であり、吾

人が實行不可能な極端な利他に終始せんと試み、「霞を吸ひ霧を食ひ」絶對的殺生戒を守つて餓死自滅を求めない限りは、何等かの形式をとつた弱肉強食を實行せねばならぬ事は、最早議論の餘地も無い明白の事實である。

併し乍ら此當然なる弱肉強食の間に於ても、我々の貴い感情を無視する事は出来ぬ。前述の如き殺生戒の種々の表現たる人道的所置は、皆其動物の苦痛を軽くする爲よりも寧ろ、我等人間の感情を無益に荒ましめぬやう、或は無用の不快を抱いて終に其不快に癱痺させられぬやうと、我等本心の欲心に基づいて居るのだ。殺菌消毒は是非もない、牛豚を屠るのも當然だ、併し乍ら殺戮流血に馴れる事も其當然の境を越えて、我等人間が互に相屠るのに對しても平然として居られる様な變態心理の到來を恐れざるを得ない。換言すれば或小形の生物に對する必要な行爲から出發して、終に他の形似寄つた大形の生物(極度に及んでは同類たる人間迄も)に對する無用な行爲に至る迄、何の氣無しに情性では認し辯護したくなる様な氣持が起り易いから、之を我々は本能的に恐れて居るのに外ならぬ。

斯く我々にとつて殺生は自己保存上止むを得ないが、精々目立たぬ犠牲を費す丈に留めておきたいといふのが、我々の感情の要求する所である。

### 放任。殺兒。墮胎。選姪

所が人の感情にしても時代によつて感受性の變遷があり、又同時代の人の感情でも教育や性向や趣味の異なるに従ひ、粗末な荒削りのから洗練織巧を極めたの迄色々の段階がある。例へば死刑執行の方法にしても、戦友に銃殺されるのが軍人の本懐だと悦ぶ人が居るかと思へば、他方には絞首も暇が掛るから利那の電殺がよいと主張する人もある位だから、今我々の論じて居る家族制限策に就て現代日本の人々の考へを徴して見れば、随分各種である。

まづ第一に現代に満足する樂觀派は、過度の刺戟に神経が癱痺したか、それ共始めから出來の悪い感じを持ち合はせて居るかして、へり放し飼ひ放し餓死仕法第死産早世お構ひ無し、云はゞ大規模産兒と大規模殺人とを並行させてやり、數でこなす様な現狀を謳歌して居る。富國強兵と多數黨全盛に心酔する生物學者は、産兒調節の可能なる一種の家畜 Domesticated Animal たる人類をば、野生動物と同一視する誤謬に陥つて、盲目的多産による適者撰擇を要求して居るのは、一の生物的時代錯誤であるまいか。

現代に甘んじない「不逞ボン人」の間には、潜に殺兒を行ふ原始的自然人の如き者から、又みす

く、娑婆の日の目を拜ませて苦勞をさせるのも可哀さうなり又親も苦勞するのもしやと許りに、法を潜つて人工早産を企てる者もあり、家族制限策の歴史的進化の跡を今我々のあのあたりマザマザと見る事が出来るのであるが、其進化の急先鋒となつて殺見墮胎の如き原始的處置を斷乎として排し、自主的母性 Voluntary Motherhood を主として撰擇的殺精によつて實現しやうと試みる産見調節論者の主張を次に聞いて見るならば……

### 一 寄生蟲として見た胎兒

今生物學上から人體寄生動物を通覽すると、微より始めて病原微生物から縲虫蛔虫の如き内臓寄生蟲それから蚤虱蚊の如き外部寄生蟲と色々あるが、孰れも宿主たる人の生命エネルギーを掠奪して其生を營み種族保存の事を行ふて居る、此見方より妊娠といふ現象を見れば、胎兒も亦宿主たる母の子宮の中で胎盤といふ一時的吸盤を作り、之を通して宿主の體內から養分を吸収搾取する一寄生動物に相違無い。内臓寄生蟲に居候された時、何時でも生命健康に著しい障害が起るとは限らぬ様に、妊娠がいつでも母體に危害を與へるとは極言できない、併し乍ら母が重病に悩みしかも胎兒が依然成長を續ける様な場合は、恰も寄生蟲が宿主よりも多くの生命エネルギーを

消費する様な危急存亡の際に匹敵し、斷乎たる應急所置をする事は前述の通り許されて居る。此所置といひ又他の生物學的状况を見ても、胎兒は此際母といふ宿主の一命を脅かす一寄生動物であり、唯一般寄生蟲と異なる點は母と胎兒との間に細胞遺傳質の聯絡があるといふ事だけである。

### 合理的で徹底した驅蟲手段

今子宮内寄生動物たる胎兒に對しても、宿主たる母が其寄生を欲しない時は、時として通經劑の如き一種の虫下しを飲んで驅除を圖る事も起る、又更に外科的方法で驅除を試みるのは前述の如き人工早産であるが、一度形を具へ始めた胎兒を取出すのは、よし完全な手術で滞りなく行はれたとしても、妊婦にとり又其胎兒の父にとりて決して愉快な經驗でない。即斯様な所置は、生後残酷なる宿命に愛兒を委ね、又は其宿命を避けさせたい心から殺見を行ふ事よりは、母の血肉と汗と涙とを濫費する事が少い點に於て稍進歩した様ではあるが、所詮原始的たるを免れない。今母體が妊娠に堪へない時に侵入し來る精子は内臓寄生蟲の幼虫や卵と同様に、體內に定著生長する時は母體に危害を與ふるに相違無いから、其侵入定著の後處置を講ずるは迂遠且危險極まる下策で、血肉の濫費を伴ふ譯だ。

かう考へて又一方前述の如く出来る丈我々自身の感情を傷つけまいと思へば、健康な子をよりぬいて得やうとするに必要な淘汰は、滅多矢鱈に生んで見た後よりも胎児に於て、否胎児に於けるよりも更に幼稚なる精子卵子に就て行ふべき事は、今日迄の家族制限策進化の傾向に徴しても自然な事であり、此變遷には無論パン問題が其根本に存するが、尙其外に一般大衆の生物學的常識の充實と美的感情の洗練と趣味の合理化とが、あづかつて大なる影響を與へて居る。

### 精子の淘汰はやむを得ぬ殘虐

即近代の産兒制限論者の主張する實行手段とは、優生學の方で絶對的不妊と永久的生殖能力剝奪を目的とする去勢・卵巢摘出・輸精管又は輸卵管切斷等と全く異り、比較的理想に近い環境を準備して其時に健康なる愛兒を得んが爲に、其欲する時以外の妊娠を避けんとする試みであり、條件附一時的避妊を殺精又は機械的遮斷又は二法の組合はせによつて遂げんとするのである。

所が斯様な一時的殺精の如き處置をば、「自然胃瀆」と解し忌避する人もあるが、果して之は忌避しやうと試みて可能な無用有害の事であらうか。

生理學者ローデの觀察によれば、精液一定量内に存する精子の数は時によつて異なり、一週間

性交を斷つた時よりも毎二日毎に採收した標本に其数の多きを認め、又短時間に反復精液を消費する時は、精子の数は漸を追ふて其数を減じ、終に皆無に近づく事を見た、そして適當の間隔を置いて性交を行ふた場合に、射精する總量内に存する精子は平均三億乃至六千萬存在すると概算した。

今男子の性生活に於て起る遺精及び自慰の如き性交以外の精液消費を除外するとしても、性交毎回到斯くの如き大数の精子が徒らに體外に排出されて其單細胞的一命を終へるのであるが、いかに我々が憐愍の情にみち溢れて居ても、此多數の精子を救済して漏れ無く卵をあてがふて、多細胞生物に迄育て上げる事は不可能だ、斯く、自然が生殖物質に關して三億乃至六千萬の一の僥倖を賭せしむるが如き莫大なる濫費を試みる此現象に對して、佛者は殺生戒を力説し、又涙脆い人道主義者がいかに感激したとて、何等施す策も無いではないか。

即吾人は意識するとせぬに頓著無く現に精子の淘汰を行ふて居るのであるから、今我々が精液消費の時を撰み、望ましからざる時に於ては其三億乃至六千萬の生靈をよし犠牲にする事があつても、其五十歩百歩は我等の人生に避くる事の出来ぬ餘儀無い殘虐なので、決して「自然胃瀆」でも何でも無い。併し斯様な産兒制限策に於ける意識的殺生が矢張「自然胃瀆」だとすれば、流産豫



防に含漱をするのも、マリアア退治にキニーネを服用するのも、驅蟲にサルヴァルサシを静脈内に注射するのも皆、「造化を犯し天理に悖る」處置ならぬはあるまい。斯様な自然胃瀆を試みるのが恐懼に堪へぬといふ人があつたら、早速近世の豫防醫學の撲滅を企てる位はおろか、明日にも人間を廢業せずはなるまい。斯様な議論は古くばゼンナーやバスツールより最近のエーリツヒ泰に至る迄云ひ古された愚論で、今更近代人が青筋立て、取合ふ必要は無いと、産制論者は空嘯いて居る。

### 女性の反逆

以上は避妊にある産兒制限策の生物學的論據であるが、尙此外に女性の感情に訴へた自主的母性の叫が此主張に熱と實行力とを加へて居る。即彼女達の云ふには、富國強兵の基礎となる過剰壯丁をば彼等の愛兒から國家は強制的に徴せんと試み、自ら腹を痛める事の無い男は鈍感で虫がい、からドシ／＼うむ事を要求するけれ共、自分達は好む兒を産み又好まぬ兒を産まぬ自由を國家と男性の強制に對して反逆を試みつゝ、要求する者である。産兒の強制は交換條件として環境の改善が行はねばならぬ、明治維新以後生産方法の改善と共に二千六百萬より累進して日本の人

口は六千萬近くなつた。之を見ても人をふやしたければ環境を改善すれば、別に多産の宣傳は無用であり、徒らに犠牲献身なる美名の下に國家と雖も男子と雖も彼女達の血肉の搾取誅求をなす事は不當だといふ主張、蓋しかよわい女性の叫ではあるが、此問題に直接關係ある人々として彼等の論據に耳を貸さねばならぬ

『國民の中で全智識階級の過半を形成する多くの人々があり、之等の人々は他の點で正しい振舞をなして居るが、或一の行爲に就ては篤と熟考の上習慣的に其事を履行して居るならば、我々は其行が彼等日常生活を支配する道徳の掟に觸れないのだと、是非共假定せねばならぬ。』SIDNEY WEBB

以上は近來世に喧しく論ぜられる人口制限論の實行方法に就て、歴史的進化の跡を辿り、現にある色々の主張の論據を紹介しやうと試みたのであるが、尙此外に産制主義の中に實行される避妊法の比較研究等も是非必要と思ふけれ共、此所に述べる事が出來ぬのを甚だ遺憾とする。

斯様な問題に就て深く知りたい人は、大阪市西區西九條濱通三二産兒制限研究會宛、直接照會あらば便宜が得、れやうと思ふ。

因みに前述の如き産兒制限の主張を實現して選擇的産兒を行ふた場合に、遺傳學的及び優生學

的にいかなる現象が起る筈か。色々面白い重大問題が残されて居るが、追つて他の機會に於て公けにしたいと思ふて居る(終)

一九二三、五、一九 京都市外宇治町にて

(學藝一九二三年六月號所載)

### 性的隱蔽主義の爲に起る弊害の一例

#### || 避妊法隱蔽の結果 ||

予は前に醫師と専門學者とを相手としてサンガー女史の避妊法の批判を試みた事がある、其所説論證の明細は此所に記すべき自由を有しないが唯其結論の梗概ばかりをまづ摘記して見たい。

サンガー女史持參の小冊子「フワミリーリミテーション」に述べてある方法は醫界に於ける衆人公知の事柄許りで、別段「超常識的祕法」もあるのでない。特に其に力説してある洗滌とベツサリの使用の組合はせによる法は比較的奏效適確の様ではあるけれ共、是は米國式家内設備と科學的態度とが具はつて居ないと到底實行困難である。次に墮座藥による殺精法は實行可能であるが、其代り奏效極めて不確であり、サンガー女史の様に此法に過分の信用をよせる事は早計でもあり且又種々の危險や困難が起る事が多い。次に女史携帶の用具類は米國一流の近代科學の徹底的應

用と機械力利用とに敬服するとしても、其等各々がピカ／＼さ加減に正比例して能率が擧がるか如何は早速に返答が出来ない。

以上は余のサンガーに就ての所見であるが、猶序で一般妊娠調整に関する予が態度を述べて見よう。即吾人が本能を支配し得る理性を具へ、事を未然に知り得る科學を有して居る以上、人間社會に於ける適者選擇を自然の運命に任ずるのは血と肉と涙の濫費であるから、思慮分別に基づき出來得る丈早く人爲淘汰を行ふのは至當である。又無益な殺生や生命エネルギーの濫費で吾人の貴い感情を荒ませたり又殘虐に馴れさせぬ様に、精々早く即多細胞生物にならぬ内に精子を淘汰するのも吾人の仁心と惻隱の情に對して必要である。蓋し内臟寄生蟲の驅除に驅蟲劑を服用し、流感豫防の血清注射を施し、キニーネでマラリア病原蟲を退治し、或はサルバルサンでトレボネマ・バリダを殺すのが醫學上當然だとすれば、殺精による避妊も當然であり、決して自然胃潰でなく、之等の理由から狹義の産兒調節即妊娠豫防は必要だから、拙劣なる方法の改良と適確なる方法の發明に努力すべきは醫學者の責任である。所が世に行はれて居る避妊法の實行によつて起る危険といふのは、中絶性交の法文を除いた他は、大抵獨斷説から來る虚喝らしく、眞に危険だといふ科學的實證が無いのである。

然るに此妊娠調節に就て行はれる種々の技巧や其各々の効果をば純科學的に研究したり、或は比較試験や觀察の結果を公けに發表する事をば、我邦の専門家は敢てしない。又は態と秘密にして置く人もある。官憲は無論斯様な事の論述を嫌惡回避せんとするが如き態度を示して居る。併し乍ら予の所見では、専門家以外に避妊技巧を全然隠蔽しようとする事は現狀に徴して不可能であり、且又一般性的隠蔽主義的態度の必然の結果として無益なる挑發による病的興奮が民衆の中に生じる、して又従ふて知識的惡貨が市場に跋扈して多大の害惡を起すやうに見受ける。だから社會からも爲政者からも此際斯様な愚劣な事勿れ式の態度を斷然棄て、此處に於ても性的啓發運動を行ふ事は焦眉の急に迫つて問題である、予は此機會を利用して此所見を得るに至つた理由を述べて江湖諸賢の叱正を仰ぎたい。

### 避妊法に對する男子の知識慾

先に公表した通り(小著「性教育」内外出版發行参照)純科學的性教育に始まる性的啓發運動の實現の爲、且又性現象に就て本邦獨特の材料を集める豫備行爲として民衆一般の理解と援助とを求め、予は昨年來近畿各所に性教育講演を試みた。其關係上高等學校程度及其以上の學生、小

學校教師農村と都市の青年團員と其指導者たる老年壯年者等に接觸して種々の質問を受けたが、其間の多くが産兒制限又は妊娠豫防に觸れる點に於て予は多少豫想外の感があつた次第である。

### 避妊法質問者の分類

西洋の話は措いて問はず、予は關西の一地方に於て接觸した一團の人々に就て、避妊法知識を要求する男子を、要求する理由、年齢其他に従ふて分類して見よう。予の講演がいつも短刀直入式である爲に、少數の婦人聽講者の或者は忌避し或者は憤然として席を蹴つて退き或者は堅い沈黙を守つて居た。婦人自身がよし斯様な知識の必要を自覺して居ても未だ公けに質問する丈の度胸が出来て居ないといふ點もあらうが、何しろ婦人の方には別に何も調べる事が出来なかつた。

扱男子側を分類すれば、第一に未婚の青年就中殊に學生は此種の知識を求めては居るけれども、公けに其知識慾を質問で表はさず、唯坊間に行はるゝ所謂性研究の書を竊に漁つて之に不安乍らも幾分の信用を置かんと試みて居る一群である。

第二には既婚者の一團であり、之を知識必要の起源と必要切迫の程度で分けると、甲、直接致命的必要を有する者、乙、間接致命的必要を要する者、換言すれば經濟的壓迫の爲此知識を求め

ねばならぬ人、又は求めねばならぬと自信する者。丙、享樂上自由な活動がしたい爲に知識を求むる者と斯様に三類にする。無論斯様な便宜上の分類では時と場合で同一人でも數類に跨を掛ける事のある事は云ふ迄もない。

### 避妊法を知らねばならぬ人

扱第二種甲類の産兒制限法に對して直接致命的必要を有する者とは、例へば妊娠に堪へ得ない妻又は確に病兒畸形兒を擧げるに違ひない妻を控へた夫であり、世間に其數は可成少くない。妻は妊娠に堪へないけれ共なほ幸福な人生を樂み得る健康を有する場合、醫師たる者は反復人工早産術に訴ふるが如き拙劣野蠻極まれる處置に出る前に、若し可能ならば此種の知識を授くるのは當然である。如何に保守的な醫師でも其天職の意義と眞正の慈悲を解するならば、此公正な合理的且人道的處置を非難し得ないであらう。世には机上論を述べる者もあつて、其様な場合には全然禁慾に如かずなどと申すけれ共、夫子自身が其境界に入つて見れば何事も會得が出来る筈、生殖性交でない遊戯性交が我等の人生に及ぼす良影響が如何に大であるか、空論でなく目前の人生に徴して見ればよい。

### 選姪法を學ぶ必要があると自信して居る人

次に乙類に屬する間接致命的要求を有する一團とは、既に數兒を擧げ或は未一兒を設けないにしても、到底當分兒を育て得る經濟的實力並びに潛勢力を有せずと信じて居る者である。育兒の餘力無しと主觀的に信じ込んで居るのだが、尙第三者から見て其窮迫は當人の信じて居る如く決定的であるか、それ共更に兒を設けた曉尙奮勵努力其窮境を突破し得る程度の相對性を具へて居るか、其は一種意見上解釋の問題であるから、然るや否やは見る人の見地次第で判斷が違ふ。併し乍ら予の僅な經驗の範圍内でも、小學教員中特に校長級の人々の多くが斯様な見解を抱いて居たのには驚かざるを得なかつた。此等の信念を生ぜしめたのは主として經濟的及び政治的原因であるのだから、吾人の如き純正生物學の研究者の直接關係して左右し得る性質のものでないと予は解釋せざるを得ない。其故唯事實を述べて、當該關係者の參考に供したいと思ふのである。所が此「育兒の餘裕無し」といふ信念を潛に心中に抱き或はこわく乍ら公言する不逞の輩に對して、一方政府當局と一部の學者識者は或は盡忠報國の愛國心に訴へ、或は民族膨脹の雄圖を説き、或は富國強兵の根本義を示して、彼等の信念の誤つた所を極力證明しようと試みて居られる

が、前に申した通り本來此考は信念であり主觀的のものだから、主觀對主觀では此等頑愚なる民衆の信念は動きさうにも無い、希くは更に明瞭な客觀的實證によつて濟度して戴きたいものである。併し乍ら其はさうとして當局に一任しておき、唯其信念が正しいにせよ正しくないにせよ、當然其まゝで依然其存在を續けるらしいから、續くものとして吾人の領分内丈の對策を講じなければならぬ。

### 自由な活動の爲に知識を求める人

次に第二種内類に屬する享樂派は兒の有無に關係無く男性生得の多妻的活動を試みんとし、花を愛でても果の爲に煩ひを求め事無いやうに警戒する輩であるが、純粹に之に屬する者は大局より見て數ふるに足らぬ少數である事は、自然淘汰適者生存の大法の然らしむる所である。よし先天的に斯様な傾向のみを有する少數者が「自然の陥穽」に陥つて子を設けた所が、斯様な變質者には子に對する責任觀念の湧きやうも無く、育兒に就ても父たるの義務を果し兼ねてあらうから、寧ろ斯様な傾向を有する者は其者の現在所有する生殖産兒權並びに將來に發生すべき父權の任意放棄の願に應じて、例へば輸精管切斷の如き徹底的處置に出る方が、國家として優生學的政

策の有効な施設になるかも知れぬ、即よし其様な男が切り棄御免の特権を得ても、現世に於て稍より多くの自由を享樂した丈が功德で、來世に残す害毒が少からうと見る考からである、但し斯様な事は本の机上の空論で、煩惱の犬を追はんが爲に自ら男根を斷ち去勢を試みる時代錯誤が案外稀に起る所から見、又永久的生殖不能を望む正常な男が無い所から見れば、此等の享樂至上主義的傾向も、青年の思春期に起る動搖中の厭世自殺慾突發と同様に、一種「個體發生は系統發生を反復する」式で本能の一時的先祖歸りの様であり、子を厭ひ乍ら善良なババになり終る例が多いのだから、今日の様にあてにならぬ避妊法ならば之等の一時的享樂主義者に授けても、國家社會は益こそあれ、少しも損の無い筈である。

### 即刻實行の必要は無いか知つて安心を求めたい人

終に一般未婚者の事になるが、當代の如く世智辛い世の中ではよし學校を出ても急に妻帯は出來ず、極少數のお坊ちゃんの外「妻を持つ贅澤」は許されて居ない。然るに獨身青年の中で積極派と消極派とが約二對三の割である（之に就て統計上具體的報告は將來に譲る）、即青年學生の百中二十は既に性交の經驗を有し、三十は機會あらば性交を經驗したき好奇心を保留し乍ら或は積極

的或は消極的純潔を維持して居る。

所で心神共に成熟した青年が既に生理的成人を逸けたが、唯文化的成人の不十分な爲に未婚である場合、昔の如く七歳にして席を同うせずであればいゝが、電車に乗り活動寫眞の門を潜りカフエーの卓に倚る場合もあり、不測の危険に對する警戒をするのは當然でなければならぬ、即修養努力によつて強め得た理性の力と雖も、兩性の接近其度を過ぎた時には盲目的狂暴に蹂躪されるのが常例であり、八犬傳の犬塚信乃乙女を論して退けるなどは架空の話である。だから無論「君子は危きに近寄らず」と自重して居たいのは山々なれど、飯を食はんが爲には人中へも出なければならず、女タイピストと席を同じうせずと頑張つても居られまい。斯様な境過に於て性交無經驗の未婚者が萬一の危険に處する策（よしそれがあてにならぬ法であつても、あてにならぬといふ事丈でも知る事が必要）を具へんが爲に質問するのも是亦當然であらう。但し有經驗者の中で娼婦に赴く者は性病豫防法こそ求めるが、避妊法なぞと穢味膾炙味あるものには一向興味をもたない。娼婦以外の婦人と現に直接交渉を有する者は熱烈に避妊知識を要求して居る、此要求も亦至當であらう。

### 熱烈な知識慾と社會聯帶の始まり

斯く見れば、諸種の男子が避妊法の知識を求めんとする要求は熾烈であり、如何なる妨害と強迫と教訓とを以てするも、其要求を壓迫するは到底不可能である。夫々の場合に於て其當然の度を異にし切迫の状態に差があるけれ共、要するに斯様な知識の要求は産兒行爲に就て、男子側の連帶責任の自覺が文化生活の内容充實に伴うて鮮明となり來つた結果と見做す事が出来る。吾人の社會聯帶の意識が自己より出發して性交行爲の參與者に聯絡を發見し、更に進んで未來らざる次代の人類の一員又は數員に對する責任感を喚起するに至つた此一般的現象は、我日本の心ある爲政者先覺者の歡迎すべき事であるまいか。

### 享樂本位の避妊が婦人の間に行はれるか

更に一方に於て考ふべきは婦人側の状態であるが、男女本性の生物學的相違により、あらゆる啓蒙運動と現状打破の合理的秩序的實現は皆男子に始まつて居る（バスチューや米騒動などは唯婦人の發作で導火された丈の事）。今日の新マルサス主義にしても、新眞婦人會の如き一部少數の

山の山人種はあつても、いつも内輪もめに忙殺されて何等實行力も無く口さきばかり、一般女性には低級婦人雜誌と新聞小説のセンチメンタリズムに其日を送つて居る。成程有産階級に有識婦人の數も殖えて、藝術至上主義の文化生活が紙上に提唱せられ圖上に種々設計されて居る今日、當局は上流婦人が避妊法の習得により容色を保ち享樂に耽る爲に濫用される事がないかと憂慮されて居るが、果して彼女達がよしサンガー女史の著を見ても之を理解し更に又實行に移し得る丈の科學的態度を有して居るか。公開の席上に自らの子宮病を喋々して恥ぢない貴婦人は恐らく自己の子宮が何所にあるかを知るまい、基礎知識と科學的態度無くして徒らに洋館に住みピアノを弾じ水雪隠を使用するも、到底米國婦人勞働者の自覺にも達し得ない事を何と見たものか、即彼女達が巨大の産を擁し乍ら其或者は不妊であり又或者が子を有する事少いのは、彼女達の自覺ある避妊行爲によるのではなく、自覺が無さすぎる爲に配遇者を通じて來た外來の理由と、それから彼女達の無爲安逸及び榮養過良に基づくのである。此等婦人に對して憂ふるは頗る親切であるが、尙他に幾多憂ふべき大問題がお膝元にゴロ／＼して居るのである。

### 眼前の事實と隠蔽によつて起る弊害

扱民衆の避妊知識の要求は斯様に昂つて來て居る、其が當然であるか否やの問題は第二段において、兎に角猛烈なものと其現狀を述べたのであるが、知識供給の側は全く密閉されて叩け共開かれず、開かれぬ爲に種々の附加現象が伴うて起る、此遮斷隱蔽は民衆にとり又政府にとつて何等の益も無く却つて諸種の害毒を生ずる源となつて居ると予は信じて居るが、次に此所信を抱くに至つた理由を逐一述べて江湖諸賢の考慮を煩はし、併せて賢明なる爲政者の参考に供したいと思ふ。

扱前述の通り次の事を疑ふべくも無い事實である。

- 一、現代日本に於て實行可能な避妊法は奏效頗る不確實である、して又奏效比較的に適確な法は到底實行不可能である。
- 二、此事實を民衆に明白に正しく知らず事は禁じられて居る、否少く共妨げられて居る。
- 三、民衆の此知識に對する要求は、此遮斷隱蔽妨害の嚴重さに正比例して高まり、熱烈且普遍的になつて行く。

即隱蔽程挑發的のものはないから一層熱烈に要求する。斯程に知識の需給關係に不平衡が起るから、上述の三事實の附隨現象として第一に

四、避妊法に關する正しい知識缺乏の結果として、種々な臆測が生じて、いかにも何所かに奏效確實な秘法が秘藏されて居るかの様に一般民衆許りでなく醫師迄が思ひ込む様になる。

過日サンガー女史來朝に先んじて日本の朝野に異常の昂奮が生じた事は、即此何か秘法を齎し來つて其が宣傳普及されたならば、明年にも我日本の出生率は俄然減少するに相違無いといふ豫感が、内務當局許りでなく民衆の中にも力を占め始めて、其が群衆示唆として更に又冷靜なるべき専門家に迄作用し、かの大正黒船騒ぎを惹起した次第、其餘波が予に迄及んで來た事は、蓋し或知識が特殊階級の獨占到歸して居り、其階級は其自身の利益の爲に秘藏し又殊更に其神聖化に努めた爲、知識其もの、墮落退化腐敗を生じ始めた際、他の類似品の大規模輸入と普及の喊聲におびえたやうなものであらう。散て予は醫界の諸賢に苦言を呈するの僭越を試みる、曰く「依らしむべし、知らしむべからず」の時代は醫界に於ても亦過ぎ去らんとしつゝあると。即我國の醫學が多くの人々の號する如く、眞に獨逸のそのの壘を摩する爲には、醫學の基礎知識（新藥の名前や花柳病々理の廣告でない）のヨリ多くの普及と、ヨリ少い手前味噌とお祭り騒ぎとを必要とするを申したい。

扱前述の如く別の機會に於て予は醫家諸氏に對しサンガー女史主唱の避妊法を逐一紹介批判し



たのであるが、若し此等の内情を一般に知らしめたならば「明けて口惜しき王手函」の感を抱くのは唯に民衆ばかりでなく、又内務省當局許りであるまい。新知識攝取に熱心な某醫學博士も亦「此小冊子に含む所の事は醫界周知の事で、何等新發明も無く極めて常識的である」というた、是は女史に對する幻滅悲哀の叫であるが、此専門家をして尙天の一方に超常識的秘法あるかの如き期待を抱かしためたのは、平生自分達が俗衆に對し兎角斯様な期待を抱かした習慣の情性であるかも知れぬ。又平生から自由討究、自由發表を阻まれた學界沈滞に附隨して起る一種の病的心理であらう。

所で斯様な民衆の臆測と要求とに附け込んで次の如き事實がある。

五、避妊の「秘法」追究の一般的好奇心につけてこんで怪しげな書籍、器具、藥品等が官憲の許す限りの範圍内で思はせ振タツブリの效能書を添へて續々市場に現れ、人格高潔な學者の深癖の爲に忌憚無い批評を受ける心配も無く自由自在に横行して居る。

是は新聞廣告を一瞥し都市の或特殊區域に近い藥舗に就て調べるならば誰にもすぐ明瞭にわかる事實である。獨逸製の某と稱する性病豫防用軟膏の能書には第一に「性病豫防の秘訣は疑はしき性交を絶対に避くるにあり、而して本劑の效用は絶対的のものに非ず」と正直に斷つてある

が、我國に行はれるものにはまだ斯様な淡白な告白を見出し難い様である。

性病豫防藥の作用は接觸面と其附近の微生物撲滅を目的とするものだから、専門家以外でも少し頭の働く人ならば、直に其能書の隠れた意味を酌み取るに躊躇しない。所が斯様なものを一々検査する機關は無し、欺されても泣寝入だながら能書は書き放題、新發明は濫造の仕方題、悉く詐欺と云はれぬとしても兎に角繼續的詐欺取財を犯し得る要件が完全に具はつて居る次第である。

### 此弊害の矯正法として徹底的啓蒙

以上は簡単な事實であるが、此等の相互關係に就て予一個の解釋を下すならば、避妊法に對する民衆の當然な知識慾を阻止したが爲に種々斯様な病的的好奇心と悪貨の横行とを惹起したのだと思ふ。即當局は目的とする人口増殖の目的の實現の爲に避妊法知識の普及を絶対に阻止せんとし、却つて其目的とは反對に民衆の不健全な好奇心を過度に挑發し、似而非知識の普及横行を來し、しかも性病の蔓延を防ぐ事も出來ず、従つて婦人の不妊症續出を豫防も出來ぬ有様では、目的とする所の其結果とは全然背馳して居るのではないか。

然らば如何にして此當面の問題に處して我國民の社會的健康の標準を高め、社會的能率を進

め、一般の幸福を増し、社會的不安を軽減し又文化民族として中外に其實と數とを誇り得る者となるかは勿論幾多の策もあらうが、其一策として今目前に現存するが如き不徹底愚劣極まれる性的隱蔽主義否事勿れ主義を斷然撤回し、民衆の當然なる知識慾といふ大勢に順應し、自由討究、自由發表によつて知識的惡貨即文化的不渡り手形を市場から驅逐し、以て純正なる知識を普及するより外は無い。

斯様にした方が得策だといふ様な悠長な問題でない、是非おそかれ早かれ斯様になるといふ必然の事で、唯此變化が来る事がおそければ遅い程弊害が多く蓄積し、又局面轉回に際して多くの精力浪費と多くの犠牲を伴ふであらうと豫言しておいて確實である。茲に於て、我等の賢明な爲政者は此切迫した情勢を看破し機宜の處置を執るに決して遲鈍でない事を、予は確信して疑はない者である。

### 自覺の上に建つべき優生學

「依らしむべく知らしむべからず」の時代は全く過ぎ去つた。今や徒らに眼を逆にして往古の賢哲の善政（換言すれば Enlightened Despot の恩惠）の下に衆愚が平和な無自覺を樂んだ其昔に

憧れるのも詮無いわざである。現世改善學 Euthenics と來世改善學 Eugenics の上の處置に於ても、先天的犯罪者及び精神病者の生殖能力剝奪の如き立法行政的手段の外に、民衆各員の知識に基づいた自覺と責任觀念との上に建てられた社會的健全な、んば、其目的の實現は到底不可能である、例へば軍陣衛生に於ける性病豫防撲滅の如きも、威嚇と拘束と處罰とを以て多くの効果を擧ぐる事が出來ず、終に兵員各自の知識の充實、趣味の洗練、自重心の發達に訴ふる方が有效な事を發見したのである。一般社會の性病豫防の問題でも

『政府は此等病症を豫防すべくあらゆる處置をしたにも係らず、青年男子の罹病數に於て統計上に何等の影響も現れなかつた』秦佐八郎博士談 Corbett-Smith, G. A. (1919) The Problem of Sex Diseases, 2 Ed,

p. 6.

のではないか、然らば民衆の體質改善に於ても亦彼等各自の思慮判斷に基づいた適當の處置を缺いたならば、如何に天下りの善政と名法律と賢明勤勉な當局者あるも、其目的の實現は不可能である。

## 啓蒙は先づ知識階級から

茲に注意すべき一つの點がある、或人曰く民質改善の爲に政府が劣者淘汰の必要を認めて居る「賤民」、即自發的にも自己生計維持の必要上から産兒制限を希望して居る「賤民」に對し其を説かずして、却つて生計豊かで「遺傳質優良」なブルジョア階級に此知識を授くるは、享樂慾を助長し「國民たるの義務」を怠らしめ「風紀の頹廢」を生ずる結果に至らしむるのだから、此種の宣傳は絶對に禁すべきであると。

予の見解によれば如何にさうお考へになる方があり、禁じ得られるものならば、隠蔽し切れるものならば、やつて御覽になればいゝ。但し目前の「細工は流々、仕上げ」の結果は前述の通りでないか、然らば大勢に従ひ其風潮を善用して策を行ふより外はあるまいと思ふ。

公けに産兒制限を行つて尙人口増加する和蘭もあれば、公に禁じ私に盛んに行つて居る佛國の人口は漸減して居る。人口増殖の勢は其民族固有の發展エネルギーと他の多くの原因によるもので、産兒制限の存否如何は實際に於て人口の増加減少とは没交渉のものとする外はない。だからより多くの強壯な壯丁を求むる軍國主義者が徹底した産兒調節によつて其望みを達する例は、論

より證據和蘭に見ればいゝ、サンガールの宣傳が黑人や日本人支那人相手であるのはヘンだなぞといやがらせを云ふと、却つて自分達の平生の宣傳の種明かしをするやうになるから、チトお慎みになつた方がいゝ。

尙又より多くの強健な勞働者(但し少し賢明過ぎ自覺があり過ぎるのは玉に瑕だが)を求めざる資本家も亦、斯の如き民族保健の適切な手段を閑却するのはうそである。

所で「賤民共」に優良なる子をうませるにしても、前述べた通り最早天下りの有難い處置許りではお上の恩恵が徹底しない、多少共其有難さを辨へる爲に啓發せねばならぬ。其をする爲に先づ知識階級の啓發が先決問題である、物の順序はかうなるより外はあるまい。

## 早婚の可能と晩婚の害

175

反復して申した通り今日我國で實行可能な避妊技巧は不正確であるから、研究者として更に適確なる法を工風する事が必要である。若し斯様なものが發見された曉には青年男女も相愛の配偶者を見出した時、自身の糊口の法さへ立てば何時でも安んじて同棲生活に入る事が可能となり、従つて順當な家庭生活が早く始まり永く繼續し、又今日の如き不自然な晩婚と之に伴ふ賣笑制度

の隆盛が幾分なり共減少する筈である、斯様な自然な新時代の性的生活の到来の爲に、吾人は努力せねばならぬ必要を感じて居る。

### 批判であり宣傳でない

斯くサンガー女史來朝に附隨した諸問題と之によりて暴露された世相の諸方面をありのままに述べ、更に斯様に迫つて如何なる發展を試みるかに就て若干の豫言を試みたが、是即眼前の事實がかくく、斯様である事を述べ、將來はかくく、斯様にする外はあるまいとか、又はなる外はなからうとか豫言した次第、申す迄も無くかうしろとか、かうしたがいふといふ宣傳ではない事を特に附記して御断りしておく。

尙客觀公平を期しても事實に面して觀察の誤謬も起る事がある、尙豫言に就て見地の高低と見解の廣狹によりて「かうより外はあるまい」と予が思ひ込んで居ても、其以外の事が起り得るのだから、一應私見を述べて大方諸彦の叱正を仰いで見る、全斑を通讀せず唯一部分のみを抜出して感情的の攻撃をするのはお断りしておく。(筆者宛名京都北白川追分町京大動物學教室内)

### 自説大要

- 一、知識階級の男子が避妊法を知らんと試みる事が今の世の中で頗る普遍的に起り、且又其追究は猛烈である。
- 二、此追究者を分類して、即刻實行の必要は無いが知つておいて安心を求めたい人(第一種)、學ばねばならぬ人(第二種甲類)、學ぶ必要があると自信して居る人(第二種乙類)、自由な活動の爲に學ぼうとする人(第二種丙類)の四種に大別する。
- 三、知りたいといふ慾の起りは、へり放しはすまぬと、いふ責任觀念と後のいざこざがうるさといふ利己心などがあるが、要するに文化意識の一形式であり、斯様な念が一般に萌して來た事は社會として慶賀すべき事である。

四、婦人の知識慾を筆者は判断すべき材料を有しないが、享樂本位で上流婦人が避妊法を講ずるなどとの心配は横文字の本に書いてある丈の事で、日本の上流婦人の多數にそんな頭が具はつて居るか疑はしい。

五、猛烈な追究慾に對してひたすら隠蔽一天張で押通さうとすると、却つて不健全な好奇心が